目　　次

Ⅰ．教育課程について …… 2
カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー・アセスメントポリシー

Ⅱ．単　　位 …… 6

Ⅲ．成績評価基準 …… 6

Ⅳ．履修科目単位内訳表 …… 7

Ⅴ．コースの概要 …… 8

Ⅵ．服飾学部服飾学科カリキュラム表 …… 15

Ⅶ．履修の方法 …… 23

Ⅷ．教職課程について …… 27

Ⅸ．学芸員課程について …… 33

Ⅹ．授業計画 …… 41

Ⅰ．　教育課程について

（2022 年度生用）

本学の教育課程は、学則第２条の目的にそって、構成されています。

教育課程（学則第25条）に述べられていますが、授業科目の履修方法を必修科目、選択科目、自由科目に分け、各年次に配当して編成してあります。

授業科目は、その内容により、専門科目、教養科目と教職課程の教職に関する科目、学芸員課程の博物館に関する科目に区分してあります。

本履修便覧　15　頁の服飾学部服飾学科カリキュラム表に授業科目の種類、単位数、授業の方法、履修方法、資格取得と履修との関係、配当年次、週時間数等について詳細を掲載してありますので参照してください。

カリキュラムポリシー（教育方針）

本学の教育の使命と目的を効果的に実現するための教育組織として、1 年次では共通の初年次教育課程と 2、3、4 年次で６つのコースに分かれた専門教育課程を設けています。初年次教育課程では、教養科目によって一般的教養を養い、服飾関係科目によって芸術性・技術力、ビジネス基礎力を育成します。その基礎の上に立って、専門教育課程で、創造力をもった専門職業人を養成することを目指しています。

教養科目は、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することを目的として、キャリア・一般・体育・総合・国際関係・外国語の科目を多数開講し、外国語は 8 単位以上、それ以外の科目で 26 単位以上の履修を要求しています。また 1 年次生には初年次科目の「学習基礎」を必修として、大学で 4 年間学ぶためのスキルを修得させています。外国語については 3、4 年次での受講も可能にし、服飾業界での必要性に対応しています。

初年次教育課程では、服飾関係科目の共通必修科目と専門選択科目を設けています。共通必修科目の中核科目としてファッション・フィールドリサーチ、服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通・商業入門、ファッションビジネス概論があり、これらを全員に履修を義務付け、服飾造形に関する基礎的な技術とファッションビジネスに関する基礎的な知識を全学生が共通に修得することとしています。これが本学の初年次教育課程の特徴です。

専門教育課程では、モードテクノロジー系の４つのコースとファッションビジネス系の 2 つのコースに分かれて、各コースごとに独自の必修科目（35 単位～38 単位）を設定しています。ファッションビジネス系の 2 年次では、２つのコースの専門基礎必修科目は共通していますが、各コースの教育目的と目標が異なり、基礎以外はそれぞれの専門に特化した授業が展開されます。

各コースの教育目的と目標を達成するために必要な必修科目をコースごとに 17 科目ないし 20 科目設定しています。初年次教育課程の科目、専門教育課程での選択科目と合わせて専門教育課程でコースの必修科目を履修することによって、各コースの目指す専門職業分野の人材育成を可能とする方針のもとにカリキュラムを編成しています。

本学の履修科目の単位内訳は次の表の通りです。

ディプロマポリシー（学位授与の方針）

本学では下記の表に掲げる専門課程のコース別の教育目的に従って、目標の欄に掲げている服飾関係の専門的職業で活躍できる人材の育成を目標としています。

入学時にモードテクノロジー系のコースを志望するクラスとファッションビジネス系のコースを志望するクラスに分かれて 1 年間初年次教育課程の教育を受けますが、その間に服飾造形系とビジネス系の基礎科目で 17 単位を両系共通の必修科目として履修します。これによって、ビジネスの基礎を知るモードテクノロジーの専門家と服飾造形の基礎を知るファッションビジネスの専門家の素地を培うこととしています。さらに初年次で系ごとに共通の専門基礎必修科目 2 単位と 2 年次で専門教育課程のコースに進学した後、モードテクノロジー系の各コースでは 10 単位、ファッションビジネス系の各コースでは 7 単位の共通の専門基礎必修科目を履修します。

2 年次から 4 年次までの専門教育課程では、コースごとに専門必修科目 35 単位ないし 38 単位の履修を求めています。この専門必修科目は、ファッションビジネス系の 2 年次では、2 つのコースの科目は共通していますが、これ以外は各コース間で同一の必修科目はありません。

さらにコースごとに 23 単位から 29 単位の専門選択科目の履修を求めています。

以上の専門基礎科目と専門科目を合わせて 90 単位を履修することでコース別の教育目的と目標を達成することとしています。

また教養科目 34 単位の履修によって、社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養することをめざしています。

教養科目 34 単位と専門科目 90 単位の**合計 124 単位**を修得することで卒業を認定し、学士（服飾）の学位を授与することとしています。

専門教育課程　コース別教育目的と目標

コース名	目　的	目　標
①モードクリエーションコース	服飾造形表現に必要とされる知識・技術・感性を修得し、イメージを的確に造形として表現・判断できる能力の育成を目的とする。	ファッション産業の現場で活躍できるデザイナー、パタンナー、縫製技術士などの人材育成を目標とする。
②インダストリアルパターンコース	ファッションの色や素材、人体におけるサイズ等を最も良い状態へ改良しながら個々の人体に対応して、パターン開発できる能力の育成を目的とする。	３D 計測器を使用した人体計測およびアパレル CAD による個々の人体に対応したパターン開発が提案できるパタンナーの人材の育成を目標とする。
③テキスタイルデザインコース	服飾の原材料や素材を理解し、表現技法の修得によってテキスタイルデザイン、設計をもとに自由にテキスタイル作品の制作ができる能力、またニットにおいてはニット CAD システムによるニット作品の制作ができる能力を育成することを目的とする。	創造的なテキスタイルデザイン・設計を通してイメージ通りに表現したテキスタイル作品を制作できる能力によって、ファッション業界において織物デザイナー、ニットデザイナー、プリントデザイナーとして活躍できる人材の育成を目標とする。
④ファッションプロダクトデザインコース	ファッションプロダクトの分野でアイディアを創出する豊かな発想力並びにそのアイディアを具体的な形にする造形力と実際に制作する技術力の育成を目的とする。	バッグ、帽子、アクセサリー、シューズ等ファッション関連製品のデザインなど、プロダクトデザイナーとして広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする。
⑤ファッションビジネス・マネジメントコース	ファッションビジネスにかかわる企画創作能力・企画作成技術力・プレゼンテーション能力の育成を目的とする。	ファッションビジネスを企画・提案でき、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けたマーチャンダイザー等の CCO（チーフクリエーティブオフィサー）となる人材の育成を目標とする。
⑥ファッションビジネス・流通イノベーションコース	SPA（製造小売業）、オムニチャネル（統合販売）など変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と課題解決力などの能力の育成を目的とする。	店舗販売とネット販売の併合した事業運営などファッション流通イノベーションを推進する CMO（チーフマーケティングオフィサー）となる人材の育成を目標とする。

杉野服飾大学の学修（教育）成果測定の指標

１．初年次教育課程の学修成果測定

・初年次教育課程の学修成果は、入学者数と入学後 2 年目に専門教育課程への進級者比率を指標として行う。

・服飾学科はテクノロジー分野とビジネス分野ごとの指標によって行う。

・表現学科は 5 つの専攻によって指標を行う。

・初年次前期での中退率を服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科ごとに行う。

２．服飾学科の各コース、服飾表現学科、服飾文化学科の期待される能力の水準

各学科（服飾学科は各コース、服飾表現学科は各専攻）の期待される能力の水準（学修成果の指標）は、卒業制作、卒業論文にもとめられる能力であり、その具体的な要件は、4 年次の卒業制作又は卒業論文の科目が要求している達成度である。

３．各授業科目の目標達成度（学修成果）

各授業科目の目標達成度はシラバスに記載した到達目標によって測定する。

測定の指標は、履修学生の作品提出やプレゼン、小テスト、期末試験、シラバスに記載した準備及び復習学修時間の履行状況（学修行動調査によって別途検証）、授業評価アンケート調査とコメントへの対応とする。

シラバスに記載した到達目標については、服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の必修科目において期待される能力水準（学修成果測定の指標）との関係が適切か、準備学修時間と合わせて別途シラバス作成時に審査する。

４．卒業者数による学修成果測定

服飾学部服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科全体としての卒業者数による学習成果の測定は次の指標によって行う。

・標準卒業年次 4 年前入学者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科ごとの卒業者数による学修成果の測定は次の指標によって行う。

・卒業年次の 3 年前の服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科の 2 年次進級者数又は服飾学科、服飾表現学科、服飾文化学科 2 年次への進級者数に対する標準卒業年次での卒業者の比率

５．就職者数による学修成果測定

服飾学部全体としての成果測定は次の指標によって行う。

・標準卒業年次での卒業者に対する就職者数の比率

・標準卒業年次での卒業者数に対する服飾企業の専門的職業への就職者の比率

・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する就職者数の比率

・標準卒業年次での卒業者のうち就職希望者に対する専門的職業への就職者数の比率

＊専門的職業は服飾学科の各コース、服飾表現学科の各専攻、服飾文化学科での学修成果目標による職種を言う。

Ⅱ．　単　　位

各授業科目の単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

授業の方法に応じて、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準より単位数を計算するものとします。

平常授業は、前期15週、後期15週、年間30週を原則とします。

時間割表の１時限は正味45分ですがこれを１時間と計算します。従って１コマ（２時限続き）は90分としています。

１．講義と演習

15時間から30時間までの範囲で大学で定めた時間の授業を１単位とします。

２．実験、実習及び実技

30時間から45時間までの範囲で大学が定めた時間の授業を１単位とします。

上記は学則第28条の（単位）の条項にそって、授業時間との関連を解説したものです。

Ⅲ．成績評価基準

学習の評価については学則第32条に述べられていますが、成績評価基準は以下の通りです。

区分	評価	成績評価基準	評 価 内 容
合格	S	100～90点	特に優れた成績
	A	89～80点	優れた成績
	B	79～70点	妥当と認められる成績
	C	69～60点	合格と認められる最低限の成績
	合	―	合格と認められる成績
不合格	D	59点以下	合格と認められる最低限の成績に達していない

◆ＧＰＡ(グレートポイント・アベレージ)制度

履修した科目の成績の平均を数値で表したものです。成績評価をＳ→4、Ａ→3、Ｂ→2、Ｃ→1、Ｄ→0 と点数に置換えて算出するのがＧＰＡです。

ＧＰＡ＝(科目の点数×科目の単位数)の総和÷履修した科目の総単位数

Ⅳ.履修科目単位内訳表

（大学2022年度生）

<table>
<tr><td colspan="2" rowspan="2"></td><td colspan="6">修得単位数</td></tr>
<tr><td colspan="4">モードテクノロジー系</td><td colspan="2">ファッションビジネス系</td></tr>
<tr><td rowspan="2">共通専門基礎必修科目</td><td>1年次</td><td colspan="6">17</td></tr>
<tr><td>2年次</td><td colspan="6">7</td></tr>
<tr><td rowspan="2">系別専門基礎必修科目</td><td>1年次</td><td colspan="4">4</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td>2年次</td><td colspan="4">3</td><td colspan="2">0</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="4">コース別専門必修科目</td><td>モード
37</td><td>インダストリアル
37</td><td>テキスタイル
38</td><td>プロダクト
35</td><td>マネジメント
39</td><td>イノベーション
37</td></tr>
<tr><td>2年次</td><td>14</td><td>16</td><td>12</td><td>12</td><td colspan="2">13</td></tr>
<tr><td>3年次</td><td>14</td><td>14</td><td>17</td><td>14</td><td>16</td><td>16</td></tr>
<tr><td>4年次</td><td>9</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td><td>10</td><td>8</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門選択科目</td><td>22</td><td>22</td><td>21</td><td>24</td><td>23</td><td>25</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門科目合計</td><td colspan="6">90単位</td></tr>
<tr><td rowspan="3">教養科目</td><td>初年次
キャリア</td><td>必修</td><td colspan="5">10</td></tr>
<tr><td>一般
体育
国際関係</td><td>選択</td><td colspan="5">16</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td>選択必修</td><td colspan="5">8</td></tr>
<tr><td colspan="2">教養科目合計</td><td colspan="6">34単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">総合計</td><td colspan="6">124単位</td></tr>
</table>

■【進級条件】

各学年開講必修科目は、原則全て修得すること。

1年次の共通必修（服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、流通商業入門、ファッションビジネス概論、ファッション・フィールド・リサーチ、衣服材料学、ファッション画Ⅰ・Ⅱ、ドローイングⅠ）17単位とその他の科目で36単位以上修得しない場合には、2年次のコースに原則進めない。

■【卒業制作・論文履修条件】

1・2年次の必修科目を修得していない場合には、原則コースの専門応用・【卒業制作・論文】を履修できない。

Ⅴ．コースの概要

モードクリエーションコース

世界に通用するクリエーターを目指し、服飾造形表現に必要とされる知識・技術そして豊かな感性をはぐくみ、イメージしたデザインを服飾造形作品として表現する力と、作品を正しく評価・判断する力、自分の作品をプレゼンする能力を育てていきます。

このコースでは、各自の様々なイメージを的確にとらえ、服飾造形作品として具現化できる能力を修得するために、デザイン考案とデザイン表現テクニック、ドレーピングやパターンメーキング、服飾造形テクニック等を学び、それらを総合して作品を制作する授業を中心としています。特にモードデザインやアパレル CAD など、アパレル業界で活かせる授業によって編成されています。各自の学習の成果はポートフォリオや産学コラボレーション、各種コンテストへの参加で確認することができます。

卒業後は、クリエーター、デザイナー、パターンメーカー、モデリスト、縫製技術者などを目指します。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉	**〈実験・実習〉**
ファッション史	ドレーピング＆パターンメーキング Ⅰ
服飾デザイン概論	ドレーピング＆パターンメーキング Ⅱ
〈実験・実習〉	モードデザイン Ⅰ
モードクリエーション Ⅰ	装飾技法
モードクリエーション Ⅱ	
3 年次	
〈演習〉	**〈実験・実習〉**
アパレル CAD Ⅰ	ドレーピング＆パターンメーキングⅢ
アパレル CAD Ⅱ	ドレーピング＆パターンメーキングⅣ
〈実験・実習〉	モードデザイン Ⅱ
モードクリエーションⅢ	モードデザインⅢ
モードクリエーションⅣ	
4 年次	
〈演習〉	**〈実験・実習〉**
モードデザインⅣ	卒業制作 Ⅰ（モード）
	卒業制作 Ⅱ（モード）

Ⅴ．コースの概要

インダストリアルパターンコース

インダストリアルパターンコースは、衣服を理解するために人体を学び、パターンを素材に連動させる役目であるパタンナー（モデリスト）を育成するコースです。３次元計測システムおよび着装シミュレーションを使って、人体における動きを論理的に分析し、快適な衣服設計を行います。工業パターンの制作をＣＡＤで行い、1/２大で作品を制作し、様々な素材に適合するパターンを修得します。人体設計、体型分類、サイズ設定など一連の技術を身につけた上で、現代ファッションに即した色彩やコンセプトを考案し、イメージしたデザインを的確に表現できるように学習するコースです。卒業制作はファッションショー形式で行い、各自のコレクションを発表します。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉	**〈実験･実習〉**
人体工学設計技術Ⅰ	インダストリアルパターンⅠ
人体工学設計技術Ⅱ	インダストリアルパターンⅡ
〈演習〉	CG デザインⅠ
感性産業デザインⅠ	CG デザインⅡ
感性産業デザインⅡ	
3 年次	
〈演習〉	**〈実験･実習〉**
CAD＆3D 演習Ⅰ	インダストリアルパターンⅢ
CAD＆3D 演習Ⅱ	インダストリアルパターンⅣ
感性産業 CADⅠ	CG デザインⅢ
感性産業 CADⅡ	CG デザインⅣ
4 年次	
〈実験･実習〉	
卒業制作Ⅰ（インダストリアルパターン）	
卒業制作Ⅱ（インダストリアルパターン）	

Ⅴ．コースの概要

テキスタイルデザインコース

本コースでは繊維を知ることから始まり、糸や布を使ってオリジナルテキスタイル作品を制作します。その過程でデザイン考案、設計理論、制作プロセス、技術を身につけ制作を軸とした科目設定によって、テキスタイルエキスパートの育成を目指しています。具体的には織物、ニット、染色、フェルティングなどの表現技法を学び、制作を通して学修する教育システムを実施しています。

ファッションデザインが同じでも素材が異なれば多様なファッションを提案することも可能です。素材の基礎をしっかり学び、アパレルテキスタイルの提案、アート作品の提案など、自由な発想で「テキスタイルデザイン・作品」が提案できる人材の育成をしていきます。

目標・・・テキスタイルデザイナー、プリントデザイナー、ニットデザイナー、テキスタイルプランナーの育成

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉	**〈実験･実習〉**
素材設計論Ⅰ	テキスタイルデザインⅠ
素材設計論Ⅱ	テキスタイルデザインⅡ
	ダイイングテクニックⅠ
	ダイイングテクニックⅡ
3 年次	
〈演習〉	**〈実験･実習〉**
ニッティングⅠ	テキスタイルデザインⅢ
ニッティングⅡ	テキスタイルデザインⅣ
プリントデザイン演習Ⅰ	ダイイングテクニックⅢ
プリントデザイン演習Ⅱ	ダイイングテクニックⅣ
画像表現演習Ⅰ	素材分析実験
画像表現演習Ⅱ	
4 年次	
〈演習〉	**〈実験･実習〉**
テキスタイルデザインⅤ	卒業制作Ⅰ（テキスタイル）
	卒業制作Ⅱ（テキスタイル）

Ⅴ．コースの概要

ファッションプロダクトデザインコース

ファッションプロダクトデザインコースでは、現代の社会的なニーズに対応し、ファッションプロダクト製品のデザイン、商品企画、トレンド情報発信、制作に関わる人材の育成を目指すカリキュラム編成となっています。2年次ではファッションプロダクトデザインの基礎課程と位置づけています。デザインの発想法、描画による表現訓練、製図、デザインモデルの制作技法、素材の特性と制作技術、アイディアを具体的な形にする造形能力を訓練する科目の設定になっています。その他リサーチの目的と分析結果の検証など、本コース3年間の教育課程を通じ核となる学修を行います。

卒業制作では、２・３年次に学んだ事を更に発展させ、作品制作を行います。デザインの対象をより幅広く設定しアイディアを産み出す発想力を鍛え、機能性、装飾性、トレンド性など様々な要素を基に製品化を目指し実物の制作を行う科目の設定となっています。

コース必修科目	
2年次	
〈講義〉 ファッションプロダクトデザイン論 **〈演習〉** ファッションプロダクトデザインⅠ ファッションプロダクトデザインⅡ デザインプロセス	**〈演習〉** アクセサリーデザイン プロダクトデザイン演習Ⅰ **〈実験・実習〉** デジタルデザインワークⅠ デジタルデザインワークⅡ
3年次	
〈演習〉 ファッションプロダクトデザインⅢ ファッションプロダクトデザインⅣ プロダクトデザイン演習Ⅱ	**〈実験・実習〉** ファッションプロダクトデザインゼミ マテリアル実習Ⅰ（金属） マテリアル実習Ⅱ（金属） デジタルデザインワークⅢ
4年次	
〈実験・実習〉 卒業制作Ⅰ（プロダクト） 卒業制作Ⅱ（プロダクト）	

Ⅴ．コースの概要

ファッションビジネス・マネジメントコース

このコースの目標は、ファッションビジネスにおける国際的なファッションリーダーの養成です。そこで必要なのは、1）ファッションデザインのセンス、創造力、感性、企画・思考技術、2）高度知識、コンピューターによる情報収集・発信・分析・判断能力、3）ファッションビジネス・マネジメント能力です。これら３つの観点から、高い「志」を持ち、「夢と希望」に向かってファッション界に貢献できる人材の養成を目指しています。以上 3 つのコンセプトを融合してファッション業界において新しい価値観を持った考え方がこのコースのスタンスです。

ファッションビジネス・マネジメントコースでは、ファッションビジネスの企画・提案を行い、マネジメント（企業等の経営管理）能力を身に付けた人材を育成することを目的としたカリキュラム編成となっています。まず２年次では講義を中心に、専門的な基礎知識を学びます。次に 3 年次では、ファッション・アパレルメーカーでのファッションブランド戦略の現況、商品開発、生産、小売業、店頭販売、それらを展開したグローバル・ビジネスなどを講義形式で学び、さらに特徴的な授業形態として、産学コラボレーションをあげることができます。学生達がグループでバーチャルカンパニーを設立し、自社ブランドを立ち上げ、マーケティング活動、企画立案、新製品（商品）提案、デザイン開発、生産、販売までの一気通貫を企画・提案することを学習します。4 年次においては、3 年次に学んだことをアカデミックに探究し、企業研究を課題①として調査、分析、考察し、さらに学士論文を課題②として、卒業課題としています。それらの過程において、理論（講義）と実践（ファッションの現場で実学を重視した）、企業間との連携（産学連携によるプロジェクトやバイヤーでの体感実習）による、両面で実務型（実践力）の育成ができるカリキュラム編成になっています。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉	**〈演習〉**
消費者行動論Ⅰ	ビジネスプレゼンテーション技法
企業会計入門	ファッションエディトリアルⅠ
グローバルマネジメント特論Ⅰ	プレゼミ（マネジメント）
ファッションマーケティング論	
3 年次	
〈講義〉	**〈講義〉**
ブランド・マネジメント論	リテールマーチャンダイジング
P.R,マネジメント論	**〈演習〉**
新製品（商品）開発論	「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ
生産管理論	「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ
バイヤーの実践学	
4 年次	
〈講義〉	**〈演習〉**
グローバルマネジメント特論Ⅱ	卒業論文Ⅰ（マネジメント）
店舗開発マネジメント論	卒業論文Ⅱ（マネジメント）
ファッションMD評価システム	

Ⅴ．コースの概要

ファッションビジネス・流通イノベーションコース

このコースは商学・マーケティングの理論を中心に、新しいファッションビジネスのあり方を学びます。イノベーションとは革新の意味です。ファッション産業はとりわけ変化の激しい業界で、SPA（製造小売業）業態への転換の時代を経て、スマートフォンなどで買い物をするネットビジネスが伸びてきました。今後はリアル店舗とネット販売の融合を考えた「オムニチャネル」が重要になってきます。そうした変革の進むファッション流通に即応できる感性・思考力と、デジタルマーケティングの知識を使った能力の育成を目標とします。

ユビキタス社会（ネットでいつでも，どこにも，誰とでもつながる）の到来、グローバル化、企業の Iot 化、AI（人工知能）の導入などで「働き方」「職種」も大きく変わってきました。コース専門科目では写真の編集やネットビジネスで対応できる文章表現などの実際を学んだ後、メディアやＳＮＳ、ファッションアプリなどに特化したファッション流通関連企業への就職、あるいは仲間同士や個人でネットショップを開くことを目指します。

ファッションビジネスでこれから発展するであろう「ファッション・テック」（ファッション×テクノロジー）の実践を体験する授業も行います。新しいテクノロジーを活用した販売方法を考えながら、どのようにしたらファッション製品やサービスが消費者の期待に沿えるのか、売れるのか、心理的作用や行動原則を考え、さらに顧客満足の考え方、顧客とのエンゲージメントを築くことを中心に学ぶゼミ方式が特徴です。最終目標は卒業論文の執筆ですが、コースで学ぶ新しいファッション・マーケティングを理解することは、社会においてもコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力の基本となります。

コース必修科目	
2 年次	
〈講義〉	**〈演習〉**
消費者行動論Ⅰ	ビジネスプレゼンテーション技法
企業会計入門	ファッションエディトリアルⅠ
グローバルマネジメント特論Ⅰ	プレゼミ（イノベーション）
ファッションマーケティング論	
3 年次	
〈講義〉	**〈演習〉**
消費者行動論Ⅱ	ファッションエディトリアルⅡ
現代流通論	流通イノベーションゼミⅠ
流通イノベーション特講（オムニ、ディマンド）	流通イノベーションゼミⅡ
グローバルマーケティング特講	
フィールドリサーチ実践論（国内、海外）	
4 年次	
〈講義〉	**〈演習〉**
顧客関係論	卒業論文Ⅰ（イノベーション）
ファッションテック論	卒業論文Ⅱ（イノベーション）

Ⅵ. 服飾学部服飾学科カリキュラム表

		授業科目名	単位数 講義	単位数 演習	単位数 実験実習	履修方法 卒業を目的とするもの 共通必修	コース別必修 モードクリエーション	インダストリアルパターン	テキスタイルデザイン	ファッションプロダクトデザイン	ファッションビジネス・マネジメント	ファッションビジネス・流通イノベーション	選択	自由	資格取得を目的とするもの 教職課程	学芸員課程	配当年次	週時間数 前期	週時間数 後期	備考
専門科目	服飾関係	服飾造形基礎Ⅰ		3		○											1	6		
		服飾造形基礎Ⅱ		3		○											1		6	
		流通・商業入門	2			○											1	2		
		ファッションビジネス概論	2			○											1	2		
		ファッション・フィールド・リサーチ		1		○											1	2又	は2	
		衣服材料学	2			○											1	2又	は2	
		西洋服飾文化史	2			○											1	2又	は2	
		ファッション画Ⅰ		1		○											1	2		
		ファッション画Ⅱ		1		○											1		2	
		色彩演習	2				○	○	○	○			○				1	2又	は2	
		ドローイングⅠa		2			○	○	○	○							1	4又	は4	
		ドローイングⅠb		2							○	○					1	4又	は4	
		経営学入門	2								○	○	○				1	2又	は2	
		日本服飾文化史	2			○											2	2又	は2	
		アパレル素材論	2			○											2	2又	は2	
		色材演習		1		○											2	2又	は2	
		マーケティング・データサイエンス論	2			○											2	2又	は2	
		現代ファッション論	2				○	○	○	○							2	2又	は2	
		CADパターンメーキング		1			○	○	○	○							2	2又	は2	
		計	20	15	0															
		専門科目(服飾関係)必修科目については、テクノロジー系については31単位、ファッションビジネス系については28単位を修得すること 1年次で必修科目を含む36単位以上取得しないと2年次のコース科目は履修出来ません																		
		モードクリエーションⅠ			3		○										2	9		
		モードクリエーションⅡ			3		○										2		9	
		ドレーピング＆ パターンメーキングⅠ			1		○										2	3		
		ドレーピング＆ パターンメーキングⅡ			1		○										2		3	
		モードデザインⅠ			1		○										2		3	
		服飾デザイン概論	2				○										2	2		
		装飾技法			1		○										2		3	
		ファッション史	2				○						○				2	2又	は2	
		モードクリエーションⅢ			4		○										3	12		
		モードクリエーションⅣ			4		○										3		12	
		ドレーピング＆ パターンメーキングⅢ			1		○										3	3		
		ドレーピング＆ パターンメーキングⅣ			1		○										3		3	
		モードデザインⅡ			1		○										3	3		
		モードデザインⅢ			1		○										3		3	
		アパレルCADⅠ		1			○										3	2		
		アパレルCADⅡ		1			○										3		2	
		モードデザインⅣ		1			○										4	2		
		卒業制作Ⅰ(モード)			4		○										4	12		1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
		卒業制作Ⅱ(モード)			4		○										4		12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
		インダストリアルパターンⅠ			2			○									2	6		
		インダストリアルパターンⅡ			2			○									2		6	
		感性産業デザインⅠ		3				○									2	6		
		感性産業デザインⅡ		3				○									2		6	
		CGデザインⅠ			1			○									2	3		
		CGデザインⅡ			1			○									2		3	
		人体工学設計技術Ⅰ	2					○									2	2		
		人体工学設計技術Ⅱ	2					○									2		2	
		インダストリアルパターンⅢ			2			○									3	6		
		インダストリアルパターンⅣ			2			○									3		6	
		CGデザインⅢ			1			○									3	3		
		CGデザインⅣ			1			○									3		3	
		CAD＆3D演習Ⅰ		1				○									3	2		
		CAD＆3D演習Ⅱ		1				○									3		2	
		感性産業CADⅠ		3				○									3	6		
		感性産業CADⅡ		3				○									3		6	
		卒業制作Ⅰ(インダストリアル)			3			○									4	9		1, 2年次必修科目修得者のみ履修可
		卒業制作Ⅱ(インダストリアル)			4			○									4		12	1, 2年次必修科目修得者のみ履修可

		授業科目名	単位数 講義	単位数 演習	単位数 実験実習	履修方法 卒業を目的とするもの 共通必修	コース別必修 モードクリエーション	コース別必修 インダストリアルパターン	コース別必修 テキスタイルデザイン	コース別必修 ファッションプロダクトデザイン	コース別必修 ファッション・マネジメントビジネス	コース別必修 ファッション・流通イノベーションビジネス	選択	自由	資格取得を目的とするもの 教職課程	資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数 前期	週時間数 後期	備考
専	服	テキスタイルデザインⅠ			2				○								2	6		
		テキスタイルデザインⅡ			2				○								2		6	
		ダイイングテクニックⅠ			2				○								2	6		
		ダイイングテクニックⅡ			2				○								2		6	
		素材設計論Ⅰ	2						○								2	2		
		素材設計論Ⅱ	2						○								2		2	
		テキスタイルデザインⅢ			2				○								3	6		
		テキスタイルデザインⅣ			2				○								3		6	
		ダイイングテクニックⅢ			2				○								3	6		
		ダイイングテクニックⅣ			2				○								3		6	
		ニッティングⅠ		2					○								3	4		
		ニッティングⅡ		2					○								3		4	
		プリントデザイン演習Ⅰ		1					○								3	2		
		プリントデザイン演習Ⅱ		1					○								3		2	
		素材分析実験			1				○								3		3	
		画像表現演習Ⅰ		1					○								3	2		
		画像表現演習Ⅱ		1					○								3		2	
		テキスタイルデザインⅤ		1					○								4	2		
		卒業制作Ⅰ(テキスタイル)			4				○								4	12		1，2年次必修科目修得者のみ履修可
		卒業制作Ⅱ(テキスタイル)			4				○								4		12	1，2年次必修科目修得者のみ履修可
門	飾	ファッションプロダクトデザイン論	2							○							2	2		
		ファッションプロダクトデザインⅠ		2						○							2	4		
		ファッションプロダクトデザインⅡ		2						○							2		4	
		デザインプロセス		1						○							2	2		
		アクセサリーデザイン		1						○							2		2	
		デジタルデザインワークⅠ			1					○							2	3		
		デジタルデザインワークⅡ			1					○							2		3	
		プロダクトデザイン演習Ⅰ		2						○							2		4	
		ファッションプロダクトデザインⅢ		4						○							3	8		
		ファッションプロダクトデザインⅣ		4						○							3		8	
		ファッションプロダクトデザインゼミ			1					○							3	3		
		マテリアル実習Ⅰ(金属)			1					○							3	3		
		マテリアル実習Ⅱ(金属)			1					○							3		3	
		プロダクトデザイン演習Ⅱ		2						○							3	4		
		デジタルデザインワークⅢ			1					○							3	3		
		卒業制作Ⅰ(プロダクト)			4					○							4	12		1，2年次必修科目修得者のみ履修可
		卒業制作Ⅱ(プロダクト)			5					○							4		15	1，2年次必修科目修得者のみ履修可
科	関	消費者行動論Ⅰ	2								○	○					2		2	
		ビジネスプレゼンテーション技法		1							○	○					2	2		
		企業会計入門	2								○	○	○				2	2		
		グローバルマネジメント特論Ⅰ	2								○	○					2		2	
		ファッションエディトリアルⅠ		2							○	○					2		4	
		ファッションマーケティング論	2								○	○					2	2		
		プレゼミ(マネジメント)		2							○						2	2	2	
		プレゼミ(イノベーション)		2								○					2	2	2	
		ブランド・マネジメント論	2								(○)						3	2		
		トレンド分析とディレクション制作	2								(○)	(○)	○				3	2		
		P.R.マネジメント論	2								○						3	2		
		新製品(商品)開発論	2								○						3	2		
		生産管理論	2								(○)						3		2	
		バイヤーの実践学	2								○	(○)	○				3		2	
		リテールマーチャンダイジング	2								○		○				3		2	
		「産学連携」プロジェクト演習Ⅰ		2							○						3	4		
		「産学連携」プロジェクト演習Ⅱ		2							○						3		4	
目	係	グローバル・マネジメント特論Ⅱ	2								○						4	2		
		店舗開発マネジメント論	2								○						4	2		
		ファッションMD評価システム	2								○						4	2		
		卒業論文Ⅰ(マネジメント)		2							○						4	4		1，2年次必修科目修得者のみ履修可
		卒業論文Ⅱ(マネジメント)		2							○						4		4	1，2年次必修科目修得者のみ履修可

		授業科目名	単位数 講義	単位数 演習	単位数 実験実習	履修方法 卒業を目的とするもの 共通必修	コース別必修 モードクリエーション	コース別必修 インダストリアルパターン	コース別必修 テキスタイルデザイン	コース別必修 ファッションプロダクトデザイン	コース別必修 ファッション・マーケティングビジネス	コース別必修 流通イノベーションビジネス	選択	自由	資格取得を目的とするもの 教職課程	資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数 前期	週時間数 後期	備考
専	服	消費者行動論Ⅱ	2									(○)					3	2		
		現代流通論	2									○					3	2		
		ファッションエディトリアルⅡ		2								○					3	4		
	飾	流通イノベーション特講(オムニ、ディマンド)	2									○					3	2		
		流通イノベーションゼミⅠ		2								○					3	4		
		グローバルマーケテイング特講	2									○					3		2	
		フィールドリサーチ実践論(国内、海外)	2									(○)					3		2	
	関	流通イノベーションゼミⅡ		2								○					3		4	
		顧客関係論	2									○					4	2		
		ファッションテック論	2									○					4	2		
		卒業論文Ⅰ(イノベーション)		2								○					4	4		1，2年次必修科目修得者のみ履修可
	係	卒業論文Ⅱ(イノベーション)		2								○					4		4	1，2年次必修科目修得者のみ履修可
		専門コース必修合計	56	69	89															
		1，2年次の必修科目とコース必修科目を取得していない場合は、各コースの卒業制作は履修できません																		
		専門科目(服飾関係)のコース別必修科目についてはコースのいずれかを選んで上記の○印の単位を修得すること。 コース別必修科目を当該コース以外の学生が選択科目として履修した場合、修得単位は卒業の要件に算入する。																		
門	服	服飾造形応用		2			○						○				1		4	
		人体工学論	2										○				1	2		
		現代デザイン論	2										○			○	1	2又	は2	
		ファッション販売論	2										○				1	2又	は2	
		流行論	2										○				1	2又	は2	
		画像設計演習		1									○				2	2又	は2	
		ドローイングⅡ			1								○				2	3又	は3	原則としてﾄﾞﾛｰｲﾝｸﾞⅠ修得者のみ履修可
		写真表現演習		1									○				2	2又	は2	
		立体造形演習		1									○				2	2又	は2	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄｺｰｽ希望者は履修することが望ましい
		和服構成論・実習Ⅰ			1								○		○		2	3		
		和服構成論・実習Ⅱ			1								○		○		2		3	
	飾	衣服管理	2										○		○		2	2又	は2	
		染色化学	2										○				2		2	
		繊維ﾌｧｯｼｮﾝ産業構造論	2										○				2	2又	は2	
		映像制作			1								○				2	集中	45h	
		基礎デザイン(平面)		1									○				2	2		ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄｺｰｽ希望者は履修することが望ましい
		基礎デザイン(立体)		1									○				2		2	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄｺｰｽ希望者は履修することが望ましい
		ファッション販売論上級	2										○				2		2	
科		色彩実践学	2										○				2		2	
		ブライダルファッションプランニングゼミ		2									○				2	2	2	2023年新規開講
		インターンシップ			2								○				2		集中90h	
																	3	又は集中	又は集中	
		長期インターンシップ			4								○				2		180h	
																	3	又は180h	又は180h	
	関	服飾手芸(ニットを含む)			1								○		○		3	3又	は3	
		ショップディスプレイ	2										○				3	2又	は2	ﾌﾟﾛﾀﾞｸﾄｺｰｽ履修者は履修することが望ましい
		服飾クラフト			1								○				3	3又	は3	
		メディアコミュニケーション論	2										○				3	2		
		ファッション画(CG)			1								○				3	3又	は3	
		アパレル産業論特講	2										○				3	2又	は2	
		民族衣裳論	2										○				3	2又	は2	
		染 織 史	2										○			○	3	2		
		ﾌｧｯｼｮﾝﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ演習		2									○			○	3	4		
		ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ(選)			1								○				3	3		
		近代日本モード史	2										○				3	2又	は2	
		リテールビジネスにおけるVMDマネジメント	2										○				3	2		
目	係	コミュニケーション論	2										○				3	2		

		授業科目名	単位数 講義	単位数 演習	単位数 実験実習	履修方法 卒業を目的とするもの 共通必修	コース別必修 モードクリエーション	コース別必修 インダストリアルパターン	コース別必修 テキスタイルデザイン	コース別必修 ファッションプロダクトデザイン	コース別必修 ファッション・マーケティングビジネス	コース別必修 ファッション・流通イノベーションビジネス	選択	自由	資格取得を目的とするもの 教職課程	資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数 前期	週時間数 後期	備考
専門科目	ライフスタイル関係	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	2										○		○		2	2		
		家庭電気・機械	1										○		○		2	1		
		食物学(実践栄養学)	2										○		○		2		2	
		家庭情報処理	1										○		○		2		1	
		食物学(食品学)	2										○		○		3	2		
		住居学(製図を含む)	2										○		○		3		2	
		保育学(実習及び家庭看護を含む)	2										○		○		3		2	
		食文化論	2										○				3	2		
		食物学(調理実習・実験)Ⅰ			1								○		○		3	3		
		食物学(調理実習・実験)Ⅱ			1								○		○		3		3	
		専門選択小計	48	9	16															
		専門科目小計	124	93	105															
		専門科目合計	322																	
		専門科目の選択科目については上記のうちから卒業要件単位として21～25単位以上を修得すること。																		
教養科目	初年次	学習基礎	2			○											1	2		
	キャリア	文章表現	2			○											1	2又は2		
		情報演習Ⅰ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○											1	2		
		情報演習Ⅱ(学修ポートフォリオを含む)	1	1		○											1		2	
		キャリアプランニング	2			○											2	2又は2		
	一般	社会人基礎A	2										○				1	2		
		社会人基礎B	2										○				1		2	
		心理学A	2										○				1・2	2		
		心理学B	2										○				1・2		2	
		文学	2										○				1	2又は2		
		日本美術史	2										○			○	1	2又は2		
		西洋美術史	2										○			○	1	2又は2		
		憲法	2										○		○		1・2	2又は2		
		社会福祉学A	2										○				1・2	2		
		社会福祉学B	2										○				1・2		2	
		化学A	2										○				1・2	2		
		化学B	2										○				1・2		2	
	体育	体育A		1									○		○		1	2又は2		
		体育B		1									○		○		1・2		2	

授業科目名			単位数 講義	単位数 演習	単位数 実験実習	履修方法 卒業を目的とするもの 共通必修	履修方法 卒業を目的とするもの コース別必修 モードクリエーション	履修方法 卒業を目的とするもの コース別必修 インダストリアルパターン	履修方法 卒業を目的とするもの コース別必修 テキスタイルデザイン	履修方法 卒業を目的とするもの コース別必修 ファッションプロダクトデザイン	履修方法 卒業を目的とするもの コース別必修 ファッションビジネス・マネジメント	履修方法 卒業を目的とするもの コース別必修 ファッション・流通イノベーションビジネス	履修方法 卒業を目的とするもの 選択	履修方法 卒業を目的とするもの 自由	履修方法 資格取得を目的とするもの 教職課程	履修方法 資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数 前期	週時間数 後期	備考
教養科目	国際関係	言語と服飾文化	2										○				3・4	2又	は2	
		日本文化・日本事情Ⅰ	2										○				1・3	2		外国人留学生は履修のこと
		日本文化・日本事情Ⅱ	2										○				1・3		2	外国人留学生は履修のこと
		英語(総合)A	2										○				2	2		
		英語(総合)B	2										○				2		2	
		ワールド・カルチャーA	2										○				2	2		
		ワールド・カルチャーB	2										○				2		2	
		実用英語 A	2										○				2	2		
		実用英語 B	2										○				2		2	
		ファッション英語 A	2										○				2	2		
		ファッション英語 B	2										○				2		2	
		フランス語(総合) A	2										○				2	2		
		フランス語(総合) B	2										○				2		2	
		ファッションフランス語 A	2										○				2	2		
		ファッションフランス語 B	2										○				2		2	
		中国語(総合) A	2										○				2	2		
		中国語(総合) B	2										○				2		2	
		中国語(会話) A	2										○				2	2		
		中国語(会話) B	2										○				2		2	
	外国語	英語(総合)Ⅰ	2										○				1	2		
		英語(総合)Ⅱ	2										○				1		2	
		基礎英会話Ⅰ	2										○				1	2		
		基礎英会話Ⅱ	2										○				1		2	
		フランス語(総合)Ⅰ	2										○				1	2		
		フランス語(総合)Ⅱ	2										○				1		2	
		フランス語(会話)Ⅰ	2										○				1	2		
		フランス語(会話)Ⅱ	2										○				1		2	
		中国語(総合)Ⅰ	2										○				1	2		
		中国語(総合)Ⅱ	2										○				1		2	
		中国語(会話)Ⅰ	2										○				1	2		
		中国語(会話)Ⅱ	2										○				1		2	
		日本語Ⅰ	4										○				1・3	4		*外国人留学生は下記の欄を参照
		日本語Ⅱ	4										○				1・3		4	*外国人留学生は下記の欄を参照
		教養科目合計	100	4																

教養科目については初年次の「学習基礎」2単位(必修)と、キャリアの「文章表現」「情報演習Ⅰ」「情報演習Ⅱ」「キャリアプランニング」8単位(必修)と、

一般・体育・総合・国際関係より16単位以上を修得すること。

外国語は、英語・フランス語・中国語のいずれかⅠ～Ⅱまで8単位を修得すること。(母国語を除く)

＊外国人留学生全員(編入生を含む)に対し、「学内日本語実力テスト」を実施し、その結果に応じて履修指導を行う。
具体的には実力テストの結果に応じて ①「日本語Ⅰ(4単位)」「日本語Ⅱ(4単位)」を履修する
②「日本文化・日本事情(2単位)」は教養科目として留学生は履修する。
但し、実力試験の結果、「日本語」を履修する必要のない者も「日本語Ⅰ(4単位) 「日本語Ⅱ(4単位)」を履修することができる。

教職課程履修者は教職課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

学芸員課程履修者は学芸員課程の欄の○印の科目の単位を修得すること。

	授業科目名	単位数 講義	単位数 演習	単位数 実験実習	履修方法 卒業を目的とするもの 共通必修	コース別必修 モードクリエーション	コース別必修 インダストリアルパターン	コース別必修 テキスタイルデザイン	コース別必修 ファッションプロダクトデザイン	コース別必修 ファッション・マーケティングビジネス	コース別必修 ファッション・流通イノベーションビジネス	選択	自由	資格取得を目的とするもの 教職課程	資格取得を目的とするもの 学芸員課程	配当年次	週時間数 前期	週時間数 後期	備考
教職に関する科目	教師論	2												○		1		2	
	教育心理学	2												○		1		2	
	教育制度論	2												○		1		2	
	教育原理	2												○		2	2		
	教育課程論	2												○		2	2		
	特別支援教育概論	2												○		2	2		
	道徳の指導法	2												○		2		2	
	生徒指導論(進路指導を含む)	2												○		2		2	
	教科教育法基礎(家庭)	1												○		2		1	
	教育現場でのICT活用	1												○		2		1	
	特別活動の指導法	2												○		3	2		
	教育方法論	2												○		3	2		
	家庭科教育法(基礎)	2												○		3	2		
	総合的な学習の時間の指導法	2												○		3		2	
	家庭科教育法	2												○		3		2	
	教科教育法(家庭)	2	1											○		3		2	模擬授業を含む(集中)
	教育法規	2												(○)		3		2	
	教育相談(ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む)	2												○		3	2		
	教育実習(事前事後指導を含む)		1	4										○		4	2		他に中・高校で3週間実習
	教職実践演習(中等)		2											○		4		2	
	計	34	4	4															
	教職課程履修者は、教職に関する科目必修**40**単位を修得すること。他に7日以上の期間、介護・介助・交流等の体験が義務づけられている。																		
博物館に関する科目	生涯学習概論	2													○	1		2	
	博物館概論	2													○	1		2	
	博物館経営論	2													○	2	2		
	博物館資料論	2													○	2	2		
	博物館資料保存論	2													○	2		2	
	博物館展示論	2													○	3		2	
	博物館教育論	2													○	3	2		
	博物館情報・メディア論	2													○	3		2	
	博物館実習			3											○	4	3	3及集中	博物館概論修得者のみ履修可 博物館見学
	計	16		3															
	学芸員課程履修者は、博物館に関する科目**19**単位を修得すること。																		

カリキュラムは、授業科目の段階的履修や体系的な履修を考慮して編成してあります。従って再履修の必要がある場合の履修順序は、下記の通りとします。

1)原則として開講学年順とします。

2)個々の履修状況に応じて審議決定します。

コース選択要件については、別紙に記載してあります。

(注)各科目の配当年次及び開講学期は都合により変更になることがあります。

令和5年度　履修科目申告表（2年）

大学 服飾学科　2022年度生用

科目区分		科目名	開講	曜日時限	単位	申告	授業コード
必修	学芸	日本服飾文化史①AB	前	月 5・6	2		121501
		日本服飾文化史②CD	後	火 5・6	2		122553
		日本服飾文化史③EF	前	月 7・8	2		121704
		アパレル素材論①AC	前	月 1・2	2		121101
		アパレル素材論②BD	後	木 3・4	2		124352
		アパレル素材論③EF	前	水 5・6	2		123505
		色材演習 A	後	火 8・9	1		122851
		色材演習 B	前	月 3・4	1		121301
		色材演習 C	前	月 5・6	1		121502
		色材演習 D	後	月 5・6	1		121552
		色材演習 E	前	火 5・6	1		122503
		色材演習 F	後	火 6・7	1		122651
	モード・マーケティング	マーケティングデータサイエンス論①	後	水 5・6	2		123551
		マーケティングデータサイエンス論②	前	水 5・6	2		123502
		マーケティングデータサイエンス論③	前	水 3・4	2		123302
		マーケティングデータサイエンス論④	後	水 3・4	2		123353
		マーケティングデータサイエンス論⑤	後	水 9・10	2		123951
		マーケティングデータサイエンス論⑥	後	水 7・8	2		123751
必修	モードテクノロジー系	現代ファッション論①AC	後	木 3・4	2		124351
		現代ファッション論②BD	前	木 1・2	2		124102
		CADパターンメーキングA	前	木 1・2	1		124101
		CADパターンメーキングB	前	月 1・2	1		121102
		CADパターンメーキングC	前	月 3・4	1		121302
		CADパターンメーキングD	前	月 5・6	1		121503
専門科目（服飾関係）	モード	モードクリエーションⅠ①	前	火 木 1~4 5~9	3		122101
		モードクリエーションⅠ②	前	月 水 7~10 7~11	3		121701
		モードクリエーションⅡ①	後	火 木 1~4 8~12	3		122151
		モードクリエーションⅡ②	後	月 水 1~4 5~9	3		121151
		ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅠ①	前	火 5~7	1		122503
		ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅠ②	前	木 5~7	1		124501
		ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅡ①	後	木 5~7	1		124551
		ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅡ②	後	火 5~7	1		122554
		モードデザインⅠ	後	金 5~7	1		125551
		服飾デザイン概論	前	金 7・8	2		125701
		装飾技法①	後	金 8~10	1		125851
		装飾技法②	後	木 5~7	1		124552
		ファッション史①ABC	前	水 3・4	2		123301
		ファッション史②DEF	後	月 7・8	2		121752
	インダストリアル	インダストリアルパターンⅠ	前	木 5~10	2		124502
		インダストリアルパターンⅡ	後	木 金 5~7 5~7	2		124553
		感性産業デザインⅠ	前	火 金 1~4 7・8	3		122102
		感性産業デザインⅡ	後	火 木 2~4 8~10	3		122251
		CGデザインⅠ	前	水 5~7	1		123503
		CGデザインⅡ	後	水 5~7	1		123552
		人体工学設計技術Ⅰ	前	金 9・10	2		125901
		人体工学設計技術Ⅱ	後	金 9・10	2		125951
	テキスタイル	テキスタイルデザインⅠ	前	火 木 2~4 5~7	2		122201
		テキスタイルデザインⅡ	後	木 5~10	2		124554
		ダイイングテクニックⅠ	前	水 金 5~7 8~10	2		123504
		ダイイングテクニックⅡ	後	水 金 5~7 8~10	2		123553
		素材設計論Ⅰ	前	木 3・4	2		124302
		素材設計論Ⅱ	後	木 3・4	2		124353
	プロダクト	ファッションプロダクトデザイン論	前	金 9・10	2		125902
		ファッションプロダクトデザインⅠ	前	木 6~9	2		124601
		ファッションプロダクトデザインⅡ	後	木 5~8	2		124555
		デザインプロセス	前	金 7・8	1		125702
		アクセサリーデザイン	後	水 5・6	1		123554
		デジタルデザインワークⅠ	前	水 7~9	1		123701
		デジタルデザインワークⅡ	後	水 7~9	1		123752
		プロダクトデザイン演習Ⅰ	後	金 5~8	2		125552
	ビジネス系	消費者行動論Ⅰ	後	木 5・6	2		124556
	マネジメント	ビジネスプレゼンテーション技法①	前	木 5・6	1		124503
	イノベーション	ビジネスプレゼンテーション技法②	前	木 7・8	1		124701
	学芸員	企業会計入門①	前	水 1・2	2		123104
		企業会計入門②	前	水 3・4	2		123304
		グローバルマネジメント特論Ⅰ	後	木 7・8	2		124751
		ファッションエディトリアルⅠ	後	金 7~10	2		125751
		ファッションマーケティング論	前	木 3・4	2		124303
	マネジメント	プレゼミ（マネジメント）	通年	前 後 水 7・8 水 5・6	2		123702
	イノベーション	プレゼミ（イノベーション）	通年	前 後 水 7・8 水 5・6	2		123703

◎ 印は日野校舎での開講科目です。
※ 印は2分の15週の開講科目です。(8回)

科目区分		科目名	開講	曜日時限	単位	申告	授業コード
専門科目（服飾関係）	通選	画像設計演習①	後	火 8・9	1		122852
		画像設計演習②	前	火 8・9	1		122802
		ドローイングⅡ	後	月 7~9	1		121751
		写真表現演習①	前	火 3・4	1		122301
		写真表現演習②	後	木 1・2	1		124151
		立体造形演習①	後	金 3・4	1		125355
		立体造形演習②	後	木 3・4	1		124354
		立体造形演習③	前	金 5・6	1		125504
	教職必修	和服構成論・実習Ⅰ①ABE	前	火 8~10	1		122801
		和服構成論・実習Ⅰ②CDF	前	火 5~7	1		122501
		和服構成論・実習Ⅱ①ABE	後	火 5~7	1		122551
		和服構成論・実習Ⅱ②CDF	後	火 8~10	1		122853
		衣服管理①	前	水 1・2	2		123103
		衣服管理②	後	水 3・4	2		123352
	選択	染色化学①	前	水 3・4	2		123305
		染色化学②	後	水 3・4	2		123351
		繊維ファッション産業構造論①	後	月 3・4	2		121351
		繊維ファッション産業構造論②	前	金 7・8	2		125703
		繊維ファッション産業構造論③	後	月 8・9	2		121851
		ファッション史①ABC	前	水 3・4	2		123301
		ファッション史②DEF	後	月 7・8	2		121752
		◎映像制作	後	集中	1		127151
		基礎デザイン（平面）①	前	金 3・4	1		125301
		基礎デザイン（平面）②	前	金 5・6	1		125505
		基礎デザイン（立体）①	後	火 5・6	1		122552
		基礎デザイン（立体）②	後	木 3・4	1		124355
		ファッション販売論上級	後	木 1・2	2		123154
		色彩実践学	後	金 1・2	2		125155
		プライダルファッションプランニングゼミ	通年	金 3・4	2		125306
		インターンシップ	集中	8月実施者	2		127251
		長期インターンシップ	集中	8月実施者	4		127252
（ライフスタイル関係）	教職必修	家庭経営学	前	土 1・2	2		126101
		※家庭電気・機械	前	土 5・6	1		126501
		食物学（実践栄養学）①	後	水 1・2	2		123153
		食物学（実践栄養学）②	後	金 3・4	2		125356
		※家庭情報処理	後	土 5・6	1		126551
	キャリア 必修	キャリアプランニング ① ABD	前	木 3・4	2		124301
		キャリアプランニング ② CEF	後	月 5・6	2		121551
教養科目	一般選択	心理学A①	前	水 1・2	2		123101
		心理学A②	前	金 1・2	2		125103
		心理学B①	後	水 1・2	2		123151
		心理学B②	後	金 1・2	2		125151
	教職必修	憲法①	前	金 3・4	2		125303
		憲法②	後	金 3・4	2		125351
	選択	社会福祉学A	前	金 1・2	2		125101
		社会福祉学B	後	金 1・2	2		125152
		化学A	前	金 1・2	2		125102
		化学B	後	金 1・2	2		125153
体育	教必	体育B	後	月 9・10	1		121951

★ 記入上の注意
・指定クラスがある場合には指示通り申告すること。
・全て黒のボールペンで記入すること。（修正テープは不可）
・申告する科目の欄に○印をいれること。（前期・後期共に申告すること）
・訂正は○の上に×を記入。

★提出前の注意
・写真やコピーをとり、自身の控えにすること。
（個人別時間割を受け取ったら控えと照らし合わせチェックすること）

《学年外科目》

区分	科目名	開講	曜日	時限	単位	授業コード
学年外科目						

科目区分		科目名	開講	曜日時限	単位	申告	授業コード
教養科目	国際関係 選択	英語（総合）A	前	水 1・2	2		123102
		ワールドカルチャーA	前	水 3・4	2		123303
		実用英語A①	前	金 5・6	2		125506
		実用英語A②	前	金 5・6	2		125501
		ファッション英語A	前	金 3・4	2		125304
		英語（総合）B	後	水 1・2	2		123152
		ワールドカルチャーB	後	水 3・4	2		123354
		実用英語B①	後	金 5・6	2		125556
		実用英語B②	後	金 5・6	2		125553
		ファッション英語B	後	金 3・4	2		125352
		フランス語（総合）A	前	金 3・4	2		125305
		ファッションフランス語A	前	金 5・6	2		125502
		フランス語（総合）B	後	金 3・4	2		125353
		ファッションフランス語B	後	金 5・6	2		125554
		中国語（総合）A	前	金 3・4	2		125306
		中国語（会話）A	前	金 5・6	2		125503
		中国語（総合）B	後	金 3・4	2		125354
		中国語（会話）B	後	金 5・6	2		125555
教職	必修	教育原理	前	土 3・4	2		126301
		教育課程論	前	火 11・12	2		122001
		特別支援教育概論	前	土 7・8	2		126701
		道徳の指導法	後	土 3・4	2		126351
		生徒指導論(進路指導を含む)	後	木 1・2	2		124152
		※教科教育法基礎（家庭）	後	火 11・12	1		122051
		※教育現場でのICT活用	後	土 5・6	1		126552
学芸員	必修	博物館経営論	前	土 1・2	2		126102
		博物館資料論	前	土 3・4	2		126302
		博物館資料保存論	後	土 8・9	2		126851
専門選択		インターンシップ	集中	3月実施者	(2)		
		長期インターンシップ	集中	3月実施者	(4)		

<履修単位表>

区分		卒業要件単位		1年次 修得単位	2年次 履修単位	合計
専門科目	必修	1年	17	(17)		(17)
		2年	7		(7)	(7)
	系別必修	モードテクノロジー系1年	4	(4)		(4)
		2年	3		(3)	(3)
		ファッションビジネス系1年	4	(4)		(4)
		2年	0			
	コース別必修	モード	37		(14)	(14)
		インダストリアル	37		(16)	(16)
		テキスタイル	38		(12)	(12)
		プロダクト	35		(12)	(12)
		マネジメント	39		(13)	(13)
		イノベーション	37		(13)	(13)
	選択	モード	22			
		インダストリアル	22			
		テキスタイル	21			
		プロダクト	24			
		マネジメント	23			
		イノベーション	25			
専門科目合計(S)						
教養科目	必修	初年次	2	(2)		(2)
		キャリア	8	(6)	(2)	(8)
	選択	一般 体育 国際関係	16			
	選択必修	外国語	8	(8)		(8)
教養科目合計(K)						
卒業要件合計(S)＋(K)			124			
教職			40	(6)	(12)	(17)
学芸員			19	(4)	(6)	(10)
総合計						
修得すべき標準単位数（2年次）◆教職・学芸員課程の科目は除く			75単位			

学籍番号

氏名

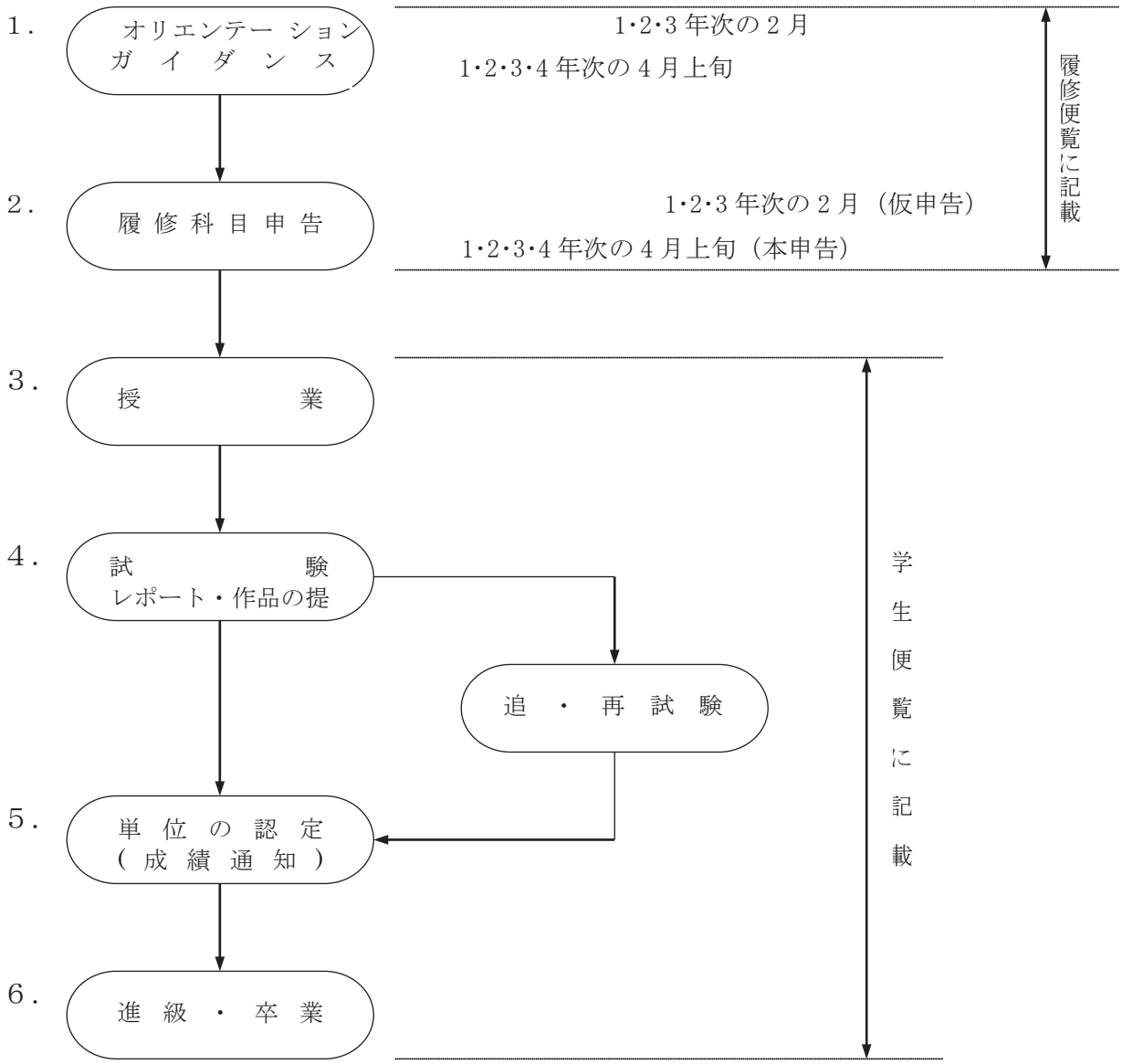
課程	教職 ・ 学芸員		
コース	2月オリ	仮申告	本申告

Ⅶ.　履修の方法（履修科目申告から単位認定まで）

大学での学修生活は、自らが履修しようとする授業科目の履修申告からはじまり、学修結果の評価により単位認定がなされることで終わると言ってもいいでしょう。

このパターンが4年間各年度始めに展開されるわけですが、これを図示すると次の通りとなります。

以下の順序に従ってその内容・手続きについて解説します。



１．　オリエンテーション・ガイダンス

履修ガイダンスやその他学修生活を送る上での必要な事項についてのオリエンテーションが各年度当初の4月に実施されます。（2年次以上は前年度の2月にも次年度オリエンテーションを実施）

履修計画を立てる上で極めて重要なものですので、出席を義務づけております。

２．　履修科目申告

開講科目を履修するには、必ず事前に履修申告をしなければなりません。この履修申告は在学中に各年度開始時（一部の科目に限り後期）に実施されます。この履修申告に際して、学生は事後一ヵ年の学習計画を立て、教務課ではこれにより名簿・成績原簿等を作成します。従って卒業要件単位修得等に重要な手続きですから下記事項を熟読し、あやまりのないようにしてください。

1）《履修申告にあたっての注意事項》

① 同一時限には1科目しか申告できません。すなわち重複受講（申告）は禁止されています。

② 申告した科目以外は試験（レポート、作品等の提出を含む）を受験できません。万一受験しても単位は与えられません。

③ 一度本申告したものの追加、変更は原則として認められません。

④ 申告期限を過ぎたものは受け付けませんので、必ず期日を厳守しなければなりません。

⑤ 2･3･4 年次は各々過年度開講の科目を申告することができますが、上級年次の開講科目を申告することはできません。

2）《年間履修単位制限（CAP 制度）》

本学では、各学年で年間に履修できる単位数に上限を定めます。これを「キャップ制度」と言います。学修すべき授業科目を精選することで十分な学修時間を確保し、授業内容を深く身につけることを目的とします。学生の皆さんは、履修科目として 1 年間に登録することができる単位数の上限を定めることで、適切にバランスよく授業科目を履修することが出来る制度です。大学は、各学年年間 55 単位です。

※資格関係科目（教職課程、学芸員課程など卒業要件単位に含まれない科目）は履修制限科目から除外されます。

3）《履修申告の方法》

履修申告は「履修科目申告表」の記入と提出をもって手続きを行います。履修の登録はすべてコンピュータ入力されますので、授業コードで履修申告をしてください。

各々の履修申告の方法は下記の通りです。

① 1 年次の年度始め

1 年次に受講する科目をすべて申告してください。

② 1･2･3 年次の年度末（次年度の受講予定科目の仮申告）

これまでの履修状況に応じて、次年度における受講科目の申告をしてください。

③ 2･3･4 年次の年度始め（2 年次以降の受講科目の本申告）

新年次における受講科目の申告をしてください。

また、仮申告をした科目の追加・変更のある学生及び再履修科目のある学生は、教務課の説明に従って手続きをしてください。

※ 一部の科目については、人数調整をした後に、受講する時間帯をお知らせいたします。

④ 1･2･3･4 年次　後期開始前（9 月上旬）

一部の後期開講科目について、期間をもうけて追加申告を受け付けます。

希望者は指定期間内 9 / 7･8 に、教務課にて手続きをしてください。

4）《履修科目申告表の記入上の注意事項》

下記の注意事項をよく読んで誤りのないよう記入してください。

① 仮申告

1. 履修科目申告表の申告の欄に**黒ペン**で〇印をする。
2. 教職課程・学芸員課程を履修する場合は、課程履修欄に〇印をする。
3. 自主ゼミの受講希望者は自主ゼミ欄に〇印をする。
4. 履修単位の表は、分野別の単位数を各自で計算し、仮申告時に確認できる単位数を仮に**鉛筆**で記入する。

② 本申告

1. 履修科目の追加申告は**赤ペン**で〇印をする。
   履修科目の申告取消は、仮申告時につけた〇を**赤ペン**で×印をする。
2. 他学年開講科目（再履修科目他）は「その他」の欄に科目名・担当者・単位・授業コードを記入し、〇印をする。
3. 履修単位の表は、分野別の単位数を各自で確認や計算をして、**黒ペン**で記入する。
4. 申告表を提出の際は、履修した科目を履修便覧内の履修科目申告表（控）に転記する等各自控えを手元に残し、自己管理してください。

5）《履修確認について》

① 提出された履修科目申告表はコンピュータ処理をした後、後日学生授業時間割表を各自に配布します。（教室等の変更は随時掲示確認すること）

② 学生授業時間割表受け取り後、必ず提出した申告表と相違ないか本人の控と照合、確認し各自単位の管理をすること。

③ 学生授業時間割表に誤りがあれば、直ちに教務課へ申し出てください。（但し、クラス分けや調整で、曜日、時限を変更する場合があります。）

6）《履修科目の放棄について》

① 本申告をした科目を放棄する場合は、教務課備え付けの「履修科目放棄届」に記入の上、教務課に提出してください。ただし、特定の科目については、担当教員の承認が必要な場合があります。

② 「履修科目放棄届」 の提出期限

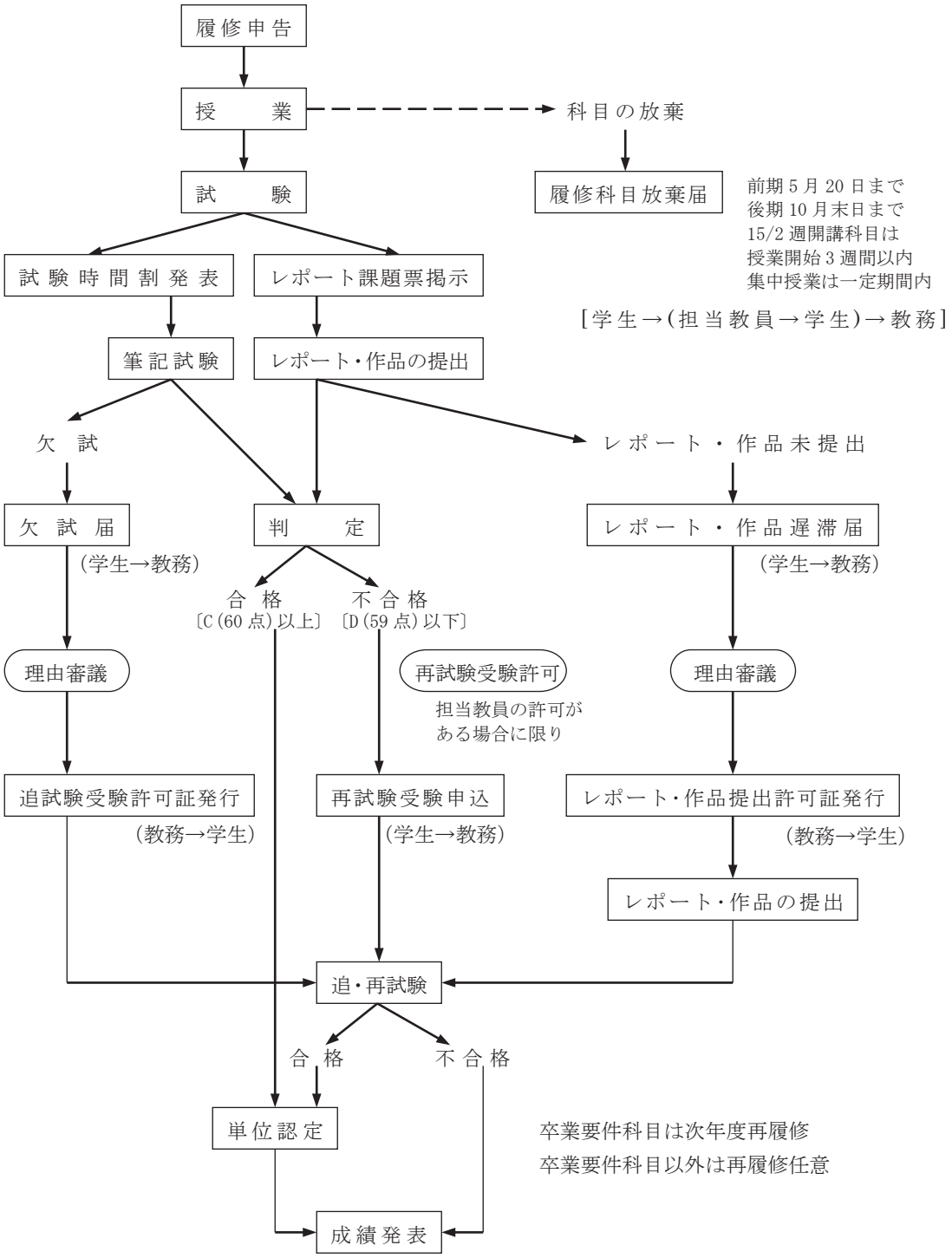
前期　5月20日まで
後期 10月末日まで

ただし1単位の講義科目（$\frac{15}{2}$週の開講）については授業開始後3週間以内とします。
また、集中授業の科目については定められた期間に限り放棄を認めます。

③ 必修科目、外国語科目及びコース別必修科目の放棄は、原則として認めません。

④ 期限内に 「履修科目放棄届」 を提出しなかったり、届出の期限を過ぎ、授業及び試験を無断で欠席した場合は、無届放棄とみなし、当該科目の成績は不合格となります。

履修科目申告から単位認定まで



Ⅷ. 教職課程について

Ⅰ　教育職員免許法に基づき、本学で取得できる免許状の種類

免　許　状　の　種　類	免　許　教　科
中学校教諭一種免許状	家　　庭
高等学校教諭一種免許状	家　　庭

Ⅱ　免許状取得のための基礎条件

(1) 中学校および高等学校教諭の免許状を取得するために必要な基礎資格と条件は、教育職員免許法第 5 条（別表第一）にその免許状の種類によって第Ⅰ表の通り定められています。

(2) 「教科に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第 3 条・第 4 条により、大学が授業科目と単位数を第Ⅱ表の通り定めています。

(3) 「教職に関する科目」の最低修得単位数については、教育職員免許法施行規則の第６条により、大学が授業科目と単位数を第Ⅲ表の通り定めています。

(4) 中学校および高等学校教諭の免許状の授与を受けようとする者について、特に必要なものとして文部科学省令で定める科目と単位数については、教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 により、大学が授業科目と単位数を第Ⅳ表の通り定めています。

(5) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律（平成 9 年法律第 90 号）により、18 歳に達した後、7 日以上の期間、特別支援学校（旧の盲学校、聾学校若しくは養護学校）又は社会福祉施設などで文部科大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものにおいて、障害者、高齢者等に対する介護、介助、交流等の体験（介護等体験）が義務づけられています。

第Ⅰ表　基礎資格と最低修得単位数

所要資格／免許状の種類		基　礎　資　格	大学において修得することを必要とする科目の最低単位数		
			教科に関する科目	教職に関する科目	大学が独自に設定する科目
中学校教諭	二種免許状	短期大学士の学位を有すること	１２	１９	４
	一種免許状	学士の学位を有すること	２８	２７	４
	専修免許状	修士の学位を有すること	２７	２７	２８
高等学校教諭	一種免許状	学士の学位を有すること	２４	２３	１２
	専修免許状	修士の学位を有すること	２４	２３	３６

第Ⅱ表　教科に関する科目表

(2022年度生)

教科に関する科目	教育職員免許法施行規則に定める最低修得単位数 (第4条) 中学校 1種	(第5条) 高等学校 1種	本学の該当科目 授業科目名	履修単位数 必修	コース別必修 モード	インダストリアル	テキスタイル	プロダクト	マネジメント	イノベーション	選択	教職 必修	選択	備考
家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)	1	1	家庭経営学(家族関係学及び家庭経済学を含む)								2	2		
			小　計								2	2		
被服学(被服製作実習を含む)	1	1	服飾造形基礎Ⅰ	3										
			服飾造形基礎Ⅱ	3										
			衣服材料学	2										
			アパレル素材論	2										
			和服構成論・実習Ⅰ								1	1		
			和服構成論・実習Ⅱ								1	1		
			衣服管理								2	2		
			服飾手芸(ﾆｯﾄを含む)								1	1		
			ﾓｰﾄﾞｸﾘｴｰｼｮﾝⅠ		3									
			ﾓｰﾄﾞｸﾘｴｰｼｮﾝⅡ		3									
			ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅠ		1									
			ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅡ		1									
			感性産業デザインⅠ			3								
			感性産業デザインⅡ			3								
			CGデザインⅠ			1								
			CGデザインⅡ			1								
			ﾀﾞｲｲﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸⅠ				2							
			ﾀﾞｲｲﾝｸﾞﾃｸﾆｯｸⅡ				2							
			ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅠ				2							
			ﾃｷｽﾀｲﾙﾃﾞｻﾞｲﾝⅡ				2							
			ファッションプロダクトデザインⅠ					2						
			ファッションプロダクトデザインⅡ					2						
			プロダクトデザイン演習Ⅰ					2						
			プロダクトデザイン演習Ⅱ					2						
			消費者行動論Ⅰ						2	2				
			グローバルマネジメント特論Ⅰ						2	2				
			ファッションエディトリアルⅠ						2	2				
			ファッションマーケティング論						2	2				
			ﾄﾞﾚｰﾋﾟﾝｸﾞ&ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞⅣ(選)								1			
			小　計	10	8	8	8	8	8	8	6	5		
食物学(栄養学・食品学及び調理実習を含む)	1	1	食物学(実践栄養学)								2	2		
			食物学(食品学)								2	2		
			食物学(調理実習・実験)Ⅰ								1	1		
			食物学(調理実習・実験)Ⅱ								1	1		
			小　計								6	6		
住居学	1	1 (製図を含む)	住居学(製図を含む)								2	2		
			小　計								2	2		
保育学	1 (実習を含む)	1 (実習及び家庭看護を含む)	保育学								2	2		
			(実習及び家庭看護を含む)											
			小　計								2	2		
家庭電気・機械及び情報処理	0	1	家庭電気・機械								1	1		
			家庭情報処理								1	1		
			小　計								2	2		
教科及び教科の指導法関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目														
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む)	8	4	教科教育法基礎(家庭)									1		
			家庭科教育法(基礎)									2		
			家庭科教育法									2		
			教科教育法(家庭)									3		
			小　計									8		
合　計	28	24	合　計	10	8	8	8	8	8	8	20	27		

第Ⅲ表　教職に関する科目表

教職に関する科目	教育職員免許法施行規則第6条に定める教職に関する科目			本学の該当科目		
	各科目に含めることが必要な事項	単位数 一種 中学	単位数 一種 高校	授業科目名	単位数 必修	単位数 選択
教科及び教科の指導法に関する科目	イ　教科に関する専門的事項 ロ　■各教科の指導法（情報通信技術の活用をを含む。）	28	24	別表　第Ⅱ表	28	24
教職の基礎的理解に関する科目	イ　教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ロ　教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ハ　教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。） ニ　幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程 ホ　■特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解（1単位以上） ヘ　教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	10	10	教育原理 教師論 教育制度論 教育法規 教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論	2 2 2 2 2 2	2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	イ■道徳の理論及び指導法（一種：2単位、二種：1単位） ロ　総合的な学習の時間の指導法 ハ　特別活動の指導法 ニ　教育方法及び技術 ホ　情報通信技術を活用した教育の理念及び方法(1単位以上修得) ヘ　生徒指導の理論及び方法 ト　教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法 チ　進路指導（キャリア教育に関する基礎的な事項を含む。）の理論及び方法	10	8	道徳の指導法 総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法 教育方法論 教育現場でのICT活用 生徒指導論（進路指導を含む） 教育相談（ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞを含む）	2 2 2 2 2 2 2	
教育実践に関する科目	イ　■教育実習（学校インターンシップ（学校体験活動）を2単位まで含むことができる。）（5単位） ロ　■教育実践演習（2単位）	7	5	教育実習（事前事後指導を含む） 教職実践演習（中等）	5 2	
大学が独自に設定する科目						
	合　計	55	47	合　計	61	2

（2022 年度生）

第Ⅳ表　その他に関する科目表

教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める最低修得単位	中学校 1 種・高等学校 1 種免許状取得のための最低修得単位数	本学の該当科目			備考
		授業科目名	単位数	履修方法	
日本国憲法	2	憲法	2		
体　　育	2	体育 A 体育 B	1 1		
外国語 ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	2	基礎英会話Ⅰ 基礎英会話Ⅱ フランス語（会話）Ⅰ フランス語（会話）Ⅱ 中国語（会話）Ⅰ 中国語（会話）Ⅱ	2 2 2 2 2 2	いずれか 4 単位を選択履修	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報演習Ⅰ（学修ポートフォリオを含む） 情報演習Ⅱ（学修ポートフォリオを含む）	2 2		

【履修申告にあたり】

大学における教員養成には、教員養成を目的とした国立大学を中心とした「目的大学」と、教員養成を主たる目的としないで、文部科学省から課程認定をうけた教職課程を別に設け、教員の免許状が取得できる「一般大学」とがあります。

本学は勿論後者ですが、一般大学には目的大学にはないその大学独自の教員養成が求められています。

本学は服飾学部･服飾学科の単科大学で、教員養成の課程認定は高等学校教諭一種免許状「家庭」と中学校教諭一種免許状「家庭」の養成機関として認可を受けています。同じ「家庭」教員養成機関でも大学によって専門のバックグラウンドには違いがあります。本学は「服飾学」を専門の中心においております。その専門に加え、中学校･高等学校で指導する「家庭経営学」「食物学」「住居学」「保育学」「家庭電気機械及び情報処理」といった科目を履修していきます。これが前ページの第Ⅱ表の「教科に関する科目表」の科目です。

第Ⅲ表の「教職に関する科目表」は、中･高等学校の各教科免許状取得を目指す学生が共通に学ぶ科目です。大学によって授業科目名は違いますが、表の「各科目に含めることが必要な事項」が各学習内容です。教科指導同様、教科外の指導や教員としての姿勢、態度の育成が目的となります。

第Ⅳ表の「その他に関する科目表」も、現在教員に求められる４領域の科目です。履修申告の際には、申告忘れのないように注意してください。

【本学が養成したい教員像】

上記のように、本学は教員養成の「目的大学」ではなく教職課程を認可された「一般大学」ですが、本学の教員養成の姿勢は「目的大学」に期待される養成と同じく、責任・監督官庁である文部科学省や社会の要請・期待に応えるべく、優れた教員の育成を目指しています。

よって、平易な言い方ですが、1 年生の教職課程履修希望者の履修動機は、資格だけほしいとか他者の勧めで履修したとか様々でしょうが、本学の教職課程は、教員職に就くか就かないかは本人の問題ですが、「教員」になることを前提とした教育を行っています。すなわち「教科に関わる科目」を通して、中等教育における「家庭科教育」の重要性と知識を伝え、「教職に関わる科目」を通して、「教員として、家庭科教員として求められる資質の養成と向上」を 4 年間を通して行っています。履修者の立場でその教員像を示すなら、家庭科教員としては「家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項」について専門的な知識と技能を身につけます。また「教員として求められる知識」を習得し、「コミュニケーションスキル」、「情報リテラシー」、「論理的思考力」、「問題解決力」他などの汎用的技能を身につけている教員を目指します。さらに教員の態度として求められる、自ら律して行動できる「自己管理力」、他者と協調して行動できる「チームワーク力」、「リーダーシップ性」、自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる「倫理観」、社会の一員としての「社会的責任感」、生涯を通しての「学習力」などを全学的な学習環境、教職課程の教科、特に教職課程での諸活動を通して身につけます。

免許取得後については、必ずしも学校教育に携わることがすべてではありません。自己評価、他者評価を通して、学校教育の教員としての適正があるかを確かめ、社会人、民間企業でも教職課程の学習を活かせればよいとも考えています。また善き学校理解者として学校教育外から「教育」を支援できることも教職課程での成果と考えています。

教職課程の履修にあたり、上記を理解し、前向きの姿勢で履修し専門教育と両立させてください。

【本学の教員養成の理念を実現するための教職課程指導体制】

本学では、「杉野服飾大学教職委員会規程」のもと全学的な指導体制を構築する為に、委員会構成メンバーは、「学部長」「教育職員免許法が規定する「教職に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教育職員免許法が規定する「教科に関する科目」担当者の専任教員のうちから学長が指名した者若干名」「教務部長」「その他学長が必要と認めた者」から構成されています。本年度は 11 名で運営しています。年度内に委員会を 4 回開催し、教職課程の運営上の問題に関する事項、教職課程で実施する諸活動に関する事項、教育実習・介護等体験の許可等に関する事項、その他教職課程に関する事項について審議・報告・情報交換を行い、教授会に報告しています。特に教育実習校訪問指導は、全実習校を対象に実施しているので全学的な協力を要請しています。今後皆さんが履修を進めて行く上で、委員会で半期ごとに履修状況を確認して指導をしていきます。詳しくは後述（「教職課程履修に関わる注意事項」）しますので、あらかじめ内容を理解しておいてください。

【履修モデル】

1 年生 4 月、7 月に開催する教職課程説明会で「杉野服飾大学　教職関連科目及び教職諸活動一覧」を用いて説明します。出席も履修条件ですので、必ず出席してください。

教職課程履修に関わる注意事項

１年生①後期の履修開始前に実施する前期末の「教職課程説明会」と後期始めの「教職課程履修説明会」に必ず出席すること。

②後期開講科目の「教師論」「教育心理学」「教育制度論」のいずれか１科目が不合格になると、原則として２年次以降の教職課程は履修できない。１年次の３科目の合格をもって２年次の科目を履修できる。よって１年次科目の再履修の場合は卒業時に免許状取得が不可能となる。

２年生　下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4 年次の中学校・高等学校での「教育実習」の依頼活動を許可する。この時点で不許可の者は、4 年生開講の「教育実習」は履修できない。

３年生①「教壇模擬演習」を実施する。

②下記の「教育実習許可要件」に従って教職委員会で審議し、4 年次の教育実習を許可する。この時点で不許可の者は 4 年生開講の「教育実習」は履修できない。

４年生　教員免許状取得に必要な全ての修得単位、「介護等体験」「教育実習」の実施を確認の上、本学から東京都教育委員会に免許状申請する。免許状は本学卒業式に授与する。

★　教育職員免許状を取得するためには、必修・専門科目などの履修に加えて、卒業時までに教職に関する（教科･教職）科目を 62 単位以上修得することが必要です。心身共に余裕を持ち、全学年を通じて明確な意志を継続し、全ての授業に臨むこと。

教育実習許可要件

１．教職委員会が許可する者

① 1･2 年次における必修科目、3 年次におけるコース別必修科目、教養科目の単位の修得状況を参考にする。

② 教育実習実施までの教職に関する（教科・教職）科目の履修状況、及び教職課程諸活動へのかかわり方を参考にする。

③ 編入生及び科目等履修生については上記①②に準じて個別に検討する。

２．教職課程履修費を納入済みの者

Ⅸ. 学芸員課程について

（2022 年度生用）

博物館とは

日本で博物館といわれているものは、歴史博物館、民俗（族）博物館、考古博物館、美術館、郷土館、記念館のようなものから自然を対象とする自然史博物館、科学館、天文博物館、水族館、動植物園のようなものまでひろく包含されます。

これらの博物館は、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動等を通して社会に対し様々な情報提供サービスをすると共に、我が国の教育、学術及び文化の発展に大きく寄与してきました。

近年、所得水準の向上や自由時間の増大などの社会の成熟化に伴い、心の豊かさや生きがいなどを求めて人々の学習ニーズは増大し、かつ多様化、高度化してきています。また一方で、科学技術の高度化、情報・通信技術の進展や、教育、学術、文化などの各分野にわたる広域・国際的な交流の活発化、さらには地域文化への関心の高まりなど、博物館を取り巻く環境には様々な変化が生じています。こうした中で、博物館は社会の進展に的確に対応し、人々の知的関心にこたえる施設として一層発展することが期待されています。また、情報化の進展の中で実物資料に身近に触れることができる博物館の意義が改めて認識されています。

特に、今後は地域における生涯学習推進のための中核的な拠点としての機能を充実するとともに、地域文化の創造・継承・発展を促進する機能や、様々な情報を発信する機能を高めていく必要があります。また、博物館は青少年にとって実物資料等による魅力ある体験学習ができる場であり、学校教育以外の活動あるいは学校教育と連携した学習のために一層重要な役割を発揮することが期待されています。

学芸員とは

学芸員は博物館法に基づき博物館におかれる専門的職員であり、資料の収集、保管、調査研究、展示、教育普及活動などの多様な博物館活動の推進のために重要な役割を担っています。また、学芸員は拡大する生涯学習社会において社会教育を推進する上で重要な役割を担うところから、一層の資質の向上と高い専門性を養成することが望まれています。人類や地域にとって重要な資料や文化遺産等を取り扱い、人々の新しい知識の創造と普及のために役立てるという業務の特性から、学芸員には極めて高い職業倫理が必要とされています。

こういった近年の需要を受けて、平成 21 年に博物館施行規則が改正され、平成 24 年 4 月 1 日より養成科目の改善・充実を図った制度が施行されました。

（平. 8. 4. 24 生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「学芸員の養成・研修の改善方策について」の主旨より一部抜粋）

学芸員養成について

学芸員の養成は、博物館法及び同法施行規則に基づき、基本的に大学で行われています。

前述のように、博物館において大切な意味を持っている学芸員の養成は、各大学に委託されており、杉野服飾大学もその一つです。1973 年より大学に学芸員課程をおき、履修者は国家資格の「学芸員」が取得できるようになっています。

現在、日本の博物館法で認められた博物館は 1,286 館（平成 30 年度文部省「社会教育調査」）あり、本学園の衣裳博物館はこの博物館法で定められた「博物館」の一つです。

大学等における博物館の養成内容については、昭和 30 年に博物館施行規則が制定されてから、大幅な見直しは行われていませんでした。しかし近年、拡大する生涯学習と多様化する社会に対応できる、より高度で専門的な学芸員の養成が唱えられました。平成 24 年 4 月 1 日以降、学芸員養成内容に大幅な見直しが反映されています。（平成 8 年 4 月 24 日生涯学習審議会社会教育分科審議会報告の「社会教育主事、学芸員及び司書の養成、研修等の改善方策について」参考）

博物館法（平成 26 年 6 月 4 日最終改正より一部抜粋）

（この法律の目的）

第１条　この法律は、社会教育法の精神に基づき、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もって国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第２条　この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第２章の規定による登録を受けたものをいう。

２．　この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

３．　この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録を含む）をいう。

（博物館の事業）

第３条　博物館は、前条第１項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

１）　実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

２）　分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

３）　一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

４）　博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

５）　博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

６）　博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

７）　博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

８）　当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

９）　社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。

10）　他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

11）　学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

２．　博物館は、その事業を行うに当っては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員、その他の職員）

第４条　博物館に、館長を置く。

２．館長は館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

３．博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

４．　学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

５．　博物館に館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

６．　学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

（学芸員の資格）

第５条　次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

１）学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの

２）大学に２年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、３年以上学芸員補の職にあったもの

３）文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前２号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者

２．　前項第２号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

Ⅰ．大学における資格取得のための基礎条件

上記、博物館法第５条（1）に規程されている通りです。

Ⅱ．学芸員資格取得に必要な履修科目と単位数

1. 博物館に関する科目とその単位については、博物館法施行規則の第１条に次のように規定されています。（平成 27 年 10 月 2 日最終改正）

科 目 名	単位数	ね　ら　い	内　　容
生涯学習概論	2	生涯学習及び社会教育の意義を理解し、学習活動を効果的に援助する方法等の理解を図る。	・生涯学習の意義 ・生涯学習と家庭教育、学校教育、社会教育 ・生涯学習関連施策の動向 ・社会教育の意義 ・社会教育の内容・方法・形態 ・社会教育指導者 ・社会教育施設の概要 ・学習情報提供と学習相談の意義
博物館概論	2	博物館に関する基礎的知識の習得を図る。	・博物館の定義 ・博物館の歴史 ・博物館の目的と機能 (社会的存在意義・政治性) ・博物館の現状 ・学芸員の役割 ・博物館の館種・設置者 ・博物館関係法規
博物館経営論	2	博物館経営について理解を図る。	・ミュージアム・マネージメントの必要性 ・博物館倫理 ・博物館の行財政制度 ・博物館の施設・設備 ・博物館の組織 ・博物館の職員 ・博物館の管理・運営方式 (直営、財団、指定管理者、PFI等) ・博物館の財務、資金調達 ・マーケティング、広報・宣伝 ・博物館利用者の把握 ・博物館の危機管理 (リスクマネージメント) ・博物館とユニバーサル化 (バリアフリー等) ・博物館のネットワーク
博物館資料論	2	博物館資料の収集、整理保管、展示等に関する理論や方法に関する知識・技術の修得を図り、併せて博物館の調査研究活動について学ぶ。	・博物館資料の収集 ・博物館資料の整理保管 ・博物館資料の保存 ・博物館資料の展示 ・博物館における調査研究活動の意義と方法

科 目 名	単位数	ね　ら　い	内　　容
博物館資料保存論	2	博物館資料及び、その保存・展示環境を科学的に捉え、展示と保存という本来矛盾した博物館業務を円滑に行い、貴重な資料を良好な状態で保存していくための基礎を学ぶ。	・博物館保存科学の意義 ・資料保存の諸条件とその影響（温湿度・光・振動・大気など） ・収蔵庫と展示室の保存環境 ・伝統的保存方法とIPM ・生物被害の防除と対策 ・資料と環境の点検と記録（機器に対する知識を含む） ・災害の防止と対策（火災・地震・水害・盗難など） ・資料の現状の調査と把握 ・資料の修復 ・資料の移動（梱包と輸送の方法と知識）
博物館展示論	2	展示の歴史、展示メディア、教育、諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術の習得を図る。	・展示の意義 ・展示の歴史 ・展示の諸形態、展示の企画、デザイン、製作 ・業者の評価・効果の検証及び改善方法 ・展示の技術と効果 ・博物館展示の情報伝達機器 ・展示解説書の製作（展示図録・パンフレット等） ・展示活動と情報
博物館教育論	2	博物館における教育活動の基盤となる理論や方法に関する知識・技術の習得をはかる。	・教育の本質及び目標 ・生涯発達と教育 ・博物館教育の意義と方法 ・博物館教育の理念と理論（コミュニケーション、構成主義等） ・教育活動の企画と実施 ・博物館教育の諸形態（展示、体験学習、講演会、アウトリーチ活動、レファレンスサービス等） ・教育普及とコミュニケーション ・博物館と学校との連携 ・生涯学習と博物館 ・博物館教育の評価の目標と方法

科 目 名	単位数	ね　　ら　　い	内　　容
博物館情報・ メディア論	2	博物館における情報の意義と活用方法及び情報公開課題等について理解を図る。	・博物館における情報の意義 ・資料収集保管活動と情報 ・研究活動と情報 ・博物館における情報の提供と活用の方法 ・博物館における情報機器 ・博物館における著作権 ・資料公開の理念（アクセス権）と方法（IT技術等を用いた広報発信等を含む） ・博物館における情報管理と情報公開 ・ICT社会の中の博物館 ・博物館における情報化の現状と課題 ・博物館のホームページ ・コレクション情報のデータベース化とネットワーク化
博物館実習	3	博物館における実習を通じ、多様館種の実態や学芸員の業務の理解を図る。	・博物館資料の取扱い、展示、博物館の運営等についての学内（見学を含む）及び博物館における実習。事前・事後の指導を含む。

1）博物館実習は、博物館法第2条第1項に規定する博物館又は、第29条の規定に基づき文部科学大臣又は都道府県の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む）における実習により修得するものとする。

2）「博物館実習」の単位数には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。

2. 選択科目については博物館法施行規則第6条3項に次の様に規定されています。

授業科目名	
文化史 美術史 考古学 民俗学 自然科学史 物理 化学 生物学 地学	左記のうちから2科目を選択

本学では文化史関係と美術史関係を学べるよう開講しています。

本学の学芸員課程の履修科目の詳細は、「カリキュラム表」の「資格取得を目的とするもの」の欄「学芸員課程」に示すとおりです。

学芸員課程に関する科目

2009年度生より適用

（博物館法施行規則第1条による）			本学の該当科目	単位数	備考
規定科目		単位数			
必修	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	
	博物館概論	2	博物館概論	2	
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	
	博物館実習	3	博物館実習	3	

2009年度生より適用

（博物館法施行規則第6条による）			本学の該当科目	単位数	備考
系列					
選択	文化史	履修すること 2系列以上にわたり	現代デザイン論	2	
			西洋服飾文化史	2	
			日本服飾文化史	2	
			染織史	2	
			ファッションプレゼンテーション演習	2	
	美術史		西洋美術史	2	
			日本美術史	2	

X. 授業計画

【整理番号】

■専門科目■

【1】 日本服飾文化史
【2】 アパレル素材論
【3】 色材演習
【4】 マーケティング・データサイエンス論
【5】 現代ファッション論
【6】 CADパターンメーキング
【7】 モードクリエーションⅠ
【8】 モードクリエーションⅡ
【9】 ドレーピング＆ パターンメーキングⅠ
【10】 ドレーピング＆ パターンメーキングⅡ
【11】 モードデザインⅠ
【12】 服飾デザイン概論
【13】 装飾技法
【14】 ファッション史
【15】 インダストリアルパターンⅠ
【16】 インダストリアルパターンⅡ
【17】 感性産業デザインⅠ
【18】 感性産業デザインⅡ
【19】 CGデザインⅠ
【20】 CGデザインⅡ
【21】 人体工学設計技術Ⅰ
【22】 人体工学設計技術Ⅱ
【23】 テキスタイルデザインⅠ
【24】 テキスタイルデザインⅡ
【25】 ダイイングテクニックⅠ
【26】 ダイイングテクニックⅡ
【27】 素材設計論Ⅰ
【28】 素材設計論Ⅱ
【29】 ファッションプロダクトデザイン論
【30】 ファッションプロダクトデザインⅠ
【31】 ファッションプロダクトデザインⅡ
【32】 デザインプロセス
【33】 アクセサリーデザイン
【34】 デジタルデザインワークⅠ
【35】 デジタルデザインワークⅡ
【36】 プロダクトデザイン演習Ⅰ
【37】 消費者行動論Ⅰ
【38】 ビジネスプレゼンテーション技法
【39】 企業会計入門
【40】 グローバルマネジメント特論Ⅰ
【41】 ファッションエディトリアルⅠ
【42】 ファッションマーケティング論
【43】 プレゼミ(マネジメント)
【44】 プレゼミ(イノベーション)
【45】 画像設計演習
【46】 ドローイングⅡ
【47】 写真表現演習
【48】 立体造形演習
【49】 和服構成論・実習Ⅰ
【50】 和服構成論・実習Ⅱ
【51】 衣服管理
【52】 染色化学
【53】 繊維ファッション産業構造論
【54】 映像制作
【55】 基礎デザイン（平面）
【56】 基礎デザイン（立体）
【57】 ファッション販売上級
【58】 色彩実践学
【59】 ブライダルファッションプランニングゼミ
【60】 インターンシップ
【61】 長期インターンシップ
【62】 家庭経営学
【63】 家庭電気・機械
【64】 食物学（実践栄養学）
【65】 家庭情報処理

■キャリア■

【66】 キャリアプランニング

■教養科目■

【67】 心理学A
【68】 心理学B
【69】 憲法
【70】 社会福祉学A
【71】 社会福祉学B
【72】 化学A
【73】 化学B
【74】 体育B
【75】 英語（総合)A
【76】 英語（総合)B
【77】 ワールド・カルチャーA
【78】 ワールド・カルチャーB
【79】 実用英語 A
【80】 実用英語 B
【81】 ファッション英語 A
【82】 ファッション英語 B
【83】 フランス語（総合）A
【84】 フランス語（総合）B
【85】 ファッションフランス語 A
【86】 ファッションフランス語 B
【87】 中国語（総合）A
【88】 中国語（総合）B
【89】 中国語（会話）A
【90】 中国語（会話）B

■教職■

【91】 教育原理
【92】 教育課程論
【93】 特別支援教育概論
【94】 道徳の指導法
【95】 生徒指導論(進路指導を含む)
【96】 教科教育法基礎（家庭）
【97】 教育現場でのICT活用

■学芸員■

【98】 博物館経営論
【99】 博物館資料論
【100】 博物館資料保存論

日本服飾文化史

梅谷　知世

2年　前期又は後期　　必修　学芸員課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

アジアの東端に位置する日本は、古くから中国をはじめとする諸外国の影響をうけながら、独自の美意識に基づく豊かな服飾文化を作りだし成熟させてきました。この授業では、服飾・染織品の実物資料、文献資料、図像資料などを用いて原始・古代から近代にいたる日本服飾の移り変わりを概説します。さらに、各時代の服飾の特質を政治や社会との関係、造形性、美意識、同時代の演劇・美術・文芸との関連性、外国文化の影響などさまざまな視点から捉え、服飾の多様なあり方について考えます。

■到達目標（学修成果）

1、原始・古代から近代までの日本服飾の移り変わりを理解し、説明することができる。

2、各時代の服飾の特質について、同時代の資料に基づいて理解し説明することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門必修科目の卒業要件科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日本服飾文化史の視点	復習：シラバスを読み授業概要を理解する。	30分
2回	縄文・弥生時代の服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
3回	古墳時代の服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
4回	飛鳥時代の服飾：服制のはじまりと唐風摂取	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30分
5回	奈良時代の服飾：衣服令と唐風服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
6回	正倉院の服飾・染織	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
7回	平安時代の服飾（1）：和様の開花	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
8回	平安時代の服飾（2）：重ね色目	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
9回	鎌倉・室町時代の服飾：武家服飾の成立と発展	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
10回	小袖服飾の成立	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
11回	安土桃山時代の服飾：武家服飾の変容と南蛮服飾	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
12回	江戸時代の服飾（1）：武家服制の確立と町人服飾の充実	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
13回	江戸時代の服飾（2）：小袖の開花	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
14回	近代の服飾：西洋服飾の導入と和装の近代化	復習：授業内容を振り返り課題に取り組む。	30 分
15回	まとめ	復習：これまでの授業内容を振り返り、十分理解する。	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の課題（授業内容の復習）について、次回授業時にフィードバックを行います。質問は随時受け付けます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

使用しません。授業の進行にあわせてプリントを配布します。

■参考文献

増田美子編『図説日本服飾史事典』（東京堂出版）　増田美子監修『ビジュアル日本の服装の歴史①②③』（ゆまに書房）
その他の参考文献は授業中に紹介します。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業でお知らせします。　研究室：研究棟4階6042A

■備考　博物館や美術館に積極的に足を運び、服飾・染織の実物遺品や絵画作品など図像資料を見学する機会を持つよう心がけて下さい。

アパレル素材論

徳田　貴美江　田口　雅子

2年　前期又は後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

アパレルに使用される布に焦点を当て、基本的な知識、専門用語を理解するために説明する。応用力を育成するために、実物サンプルを提示しながら解説し、理解を深める。素材に関する知識と素材そのものが持つ手触りや布の表情など、服飾造形を作り出す素材に関心を寄せ、布の種類や構造を理解し、アパレル素材の基本的な知識を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な素材の名称や性質、専門用語、織物やニット生地に関する知識を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は専門選択科目で、全コース卒業要件科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	繊維→糸→布の製造プロセスと授業内容を説明する。ビデオ視聴	（予習）自分と繊維製品との関係性について考察する	30分
2回	何を着ているのか　素材について	（復習）周囲の布に興味を持つ	30分
3回	布の分類　織物とは　三原組織	（復習）日頃の経験をふまえ、構造から考える特性を考察する	60分
4回	織物の種類と規格、物性について	（復習）素材の特徴が織物に与える影響を考察する	60分
5回	綿について　綿織物	（予習）様々な織物の繊維や糸、加工からできる風合いを観察する	30分
6回	綿織物	（復習）織物名を覚え市場調査をする 布の手触りなどを確認する	30分
7回	ウールについて　ビデオ視聴	（復習）ウールの風合いを観察し特徴を理解する	30分
8回	毛織物	（復習）織物名を覚え市場調査をする	30分
9回	化合繊織物	（復習）長繊維の布の風合いを観察する	30分
10回	ニット　緯編	（復習）構造を立体的に捉え、特徴を理解する	30分
11回	ニット　緯編	（復習）雑誌や店頭に並ぶ商品を見て、布についてその特徴を理解する	30分
12回	ニット　経編・レース	（復習）構造を立体的に捉え、理解する 市場調査を行う	30分
13回	不織布・皮革	（復習）構造を立体的に捉え、理解する 布を分類し、理解を深める	30分
14回	染色・加工・産地	（復習）様々な技法があることを理解する	90分
15回	まとめ　課題（試験やレポート等）のフィードバックを行う	（復習）授業内容を振り返る	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業終了時にmanabaを用いた小テストを行い、翌週答え合わせをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

「アパレル素材の基本」繊研新聞社

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）
後期：水曜日（16：20～17：50）研究室（3011）

■備考

なし

色材演習

土屋　純一

2年　前期又は後期　　必修　　（ 1単位　演習 ）

■授業の方針・概要

素材の色彩と材質感についての観察、発見、収集、分類、検証、構成を行う。具体的には布素材のみならず、ひろく身の回りの「モノ・コト」に眼を向けたフィールドワークから「オリジナルな色と質の資料」を制作し、平面、立体デザインへと応用する。そして将来「素材からのデザインの提案～展開」が出来る視点や可能性を準備する。

■到達目標（学修成果）

造形を行う際の素材の選択や、その特徴を生かした表現方法など色彩と質の構造について理解し、今後の服飾造形表現に応用する素材活用ができるようになる力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定に必要な科目である。造形表現における素材の色彩と材質に対する知識と発想力を高める為の授業である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入／授業概要。「フィールドワーク」の目的、方法。イメージと素材との関係。	復習：ファイル準備。 予習：フィールドワークによる素材調査。	60分
2回	講義／「視覚と触覚／色材と表現方法」、フィールドワークの状況確認。	復習：色材、作品、作家研究。 予習：フィールドワークによる素材収集。	90分
3回	演習①「サンプリング ～ 資料制作」／収集、分類。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
4回	〃　／色と材質感。　アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
5回	〃　／素材の分類。　アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材と言葉の収集。	60分
6回	〃　／色とイメージの分類。色や質を表す言葉。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と質感と言葉のリサーチ。 予習：素材収集と分類。	60分
7回	講義／「集積した色と質」演習②「サンプリング＆リミックス ～ イメージからの展開」／導入～構造と構成。　※演習①講評。	復習：作家研究。色彩と質感のリサーチ。予習：素材収集と分類。	90分
8回	〃　／イメージからの素材の選択、色の分析。色彩表現と質感表現の技法。アクティブ・ラーニング	復習：色彩と材質の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
9回	〃　／織りによる平面構成。アクティブ・ラーニング	復習：構造と構成の再考察。 予習：素材収集と分類。	60分
10回	演習③「サンプリング＆リミックス ～ 立体への展開」／色の立体構成・質の変化。　※演習②講評。アクティブ・ラーニング	復習：準備課題「質の変化」完成。 予習：素材と画像の収集。	60分
11回	〃　／重層構造による立体表現。アクティブ・ラーニング	復習：立体表現としての材料の選択。 予習：素材と画像の収集。	60分
12回	〃　／立体的な視点からのデザイン構成。アクティブ・ラーニング	復習：立体的な視点からの自己作品の分析。 予習：素材と画像の収集。	60分
13回	演習④「サンプリング＆リミックス ～ 質のデザイン」／色と材質感のプレゼンテーション。オノマトペ。　※演習③講評。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
14回	〃　／デザインのトリミング。アクティブ・ラーニング	復習：画像スクラップの作成。 予習：素材と画像の収集。	60分
15回	まとめ「イメージファイル」／色と質感イメージ。 総合講評。	予習：色彩と質感に関するイメージファイルの完成。	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各課題終了後に講評を行う。最終作品ファイルは個別講評、採点後に返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	理解度、通常作品、ファイル等
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

進行に合わせて授業内で紹介し、プリントを配布する。

■オフィスアワー・研究室

月曜日、火曜日　(12時10分～12時50分)　連絡研究室　大学表現演習研究室（第三校舎1階）

■備考

毎回、授業で説明する「フィールドワーク」を通して、日頃から素材に対する幅広い考察を行うこと。　授業準備を怠ると課題演習ができない。すべての配布プリント及び作品はファイルにまとめて毎回授業に持参すること。

マーケティング・データサイエンス論

田中　康寛

2年　前期又は後期　　必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

データサイエンスとは何かを社会状況や技術などから理解しつつ、ビジネスにどのように活かせるかを学びます。企業へのアドバイスを行なっていた経験から、企業の進む方向などにも触れながら説明します。アパレルにおけるデータサイエンスへの取り組みは、特にマーケティング活動を中心に積極的かつ必須となっていますので事例を交えて学んでいけるようにします

・データサイエンスとは、そして必要性の背景そして生み出されるビジネス価値と活用事例

・統計学とＡＩ/深層学習（ディープラーニング）　・データサイエンスの倫理的留意　・発展的話題と今後の方向性

■到達目標（学修成果）

データサイエンスとは何かを理解し、アパレル、関連業界にて、どのように活用していくかを検討できるようにします

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、必修科目であり、また卒業要件科目の単位となります。

■授業計画

回数	授業内容(前期)	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	データサイエンスとは何か。そしてなぜ必要か（含：アパレル事例）を、コンサルティングを企業に実施した経験から話します	復習:データサイエンスとは何かを自分の言葉で説明できるようにします	60分
2回	データサイエンスはビジネスにどのように活用しているかを学びます　含：　ビッグデータに関して	復習:データサイエンスをどのように生かせるか。説明できるように	60分
3回	データサイエンスによるビジネス価値と活用事例　DX とは何か。ＤＸとデータサイエンスの関連も話します	復習:データサイエンスのビジネス価値整理。各業種でどのようなことに使われているかを理解します	90分
4回	データサイエンティストとはどのような役割や業務を推敲しているかを理解	復習:データサイエンスティストの役割業務を理解し、データサイエンスを理解	90分
5回	統計基礎１　統計学の必要性、データとは？さらに見える化など、統計ツールベンダーのアドバイザーを経験したことから、データに関してディスカッションし理解を高めます	復習：身近にあるデータから、データの意味を整理。見える化とは何か考えます	45分
6回	統計基礎２　データ発生のメカニズムとデータについて	復習：どのようなデータが必要か（含むオープンデータ、ビッグデータ）	90分
7回	統計概論１　Excel を使用して学びます　マナバでデータのやり取りも実施。平均、確率、分散　標準偏差　回帰分析	復習:それぞれの分析の意味を整理します。各分析の必要性を整理します	60分
8回	統計概論２　Excel を使用して学びます。正規分布　相関分析　定性データの定量化分析（次週に続く）	復習：それぞれの意味を理解します。そしてなぜその分析が必要かを考えます	60分
9回	統計　演習　例題(交通 IC の乗降データと購買データなどを利用)による分析と発表	復習：各自の発表から何を得られたか、分析の視点などを考え整理します	45分
10回	データ収集の現状　IOT、顔認証など　現状と将来像を説明します	復習:周りにどのようなデータがあるか考えます	45分
11回	AI とは何か。AI の利用及び AI はどのように分析をしているかなど基本を学びます	復習　AI とは何か。データサイエンスでの位置付けを理解します	60分
12回	AI の動向と現状を学びます	復習：AI の動向の整理をします	45分
13回	事例　小売業、アパレル業界でいかに AI が使われているか。なぜ今ＡＩを活用されているのかを説明します	復習：AI のアパレル業界での利用を自分で説明できるようにします	45分
14回	なぜディープラーニングが重要なのかを特徴から説明	復習:ディープラーニングの特徴を整理	60分
15回	データサイエンスの重要性と合わせて、実務におけるデータサイエンス倫理の重要性に関して学びます	復習：倫理について、及びデータサイエンスとは何かを事例を交えて自分の言葉で説明できるようにします。	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験を２回実施提します。提出された用紙に、評価と課題を記述し返却、同時に返却した回の初めにフィードバックをします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題	70%
期末試験・課題	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書　データ思考が未来を変える（繊研新聞社）　最初の講義時に販売します　加えて①補足資料②Excel で講義、

■参考文献　なし

■オフィスアワー・研究室

講師控え室に在籍

■備考

企業の上層部の方から、その業界、企業ならではの視点で話をいただく予定（ＶＩＤＥＯ）です

現代ファッション論

鈴木　桜子

2年　前期又は後期　　モードテクノロジー系必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

「ファッションとは何か？」この問いに答えるのは容易ではありません。ファッションは私たちにとって最も身近な存在でありながら、個人と社会、歴史、文化、思想等のあらゆる領域と複雑に絡み合いながら現在に至っています。

本授業では、衣服と直接的な身体との関係、社会現象としての流行とメディアとの関係、様々な視点からファッションの現在的意味を問う展覧会に焦点をあて、「ファッション」について深く考えて行くことを方針とします。本授業はディスカッション、学生同士の相互評価、プレゼンテーションによるアクティブラーニングを重視しています。

■到達目標（学修成果）

「ファッション」について、ディスカッションを通して自らのファッション論を導き出すことを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目はモードテクノロジー系の必修科目であり、卒業要件科目です。ファッションに関する多角的な視点を持ちながら専門性を高めていくための科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「ファッション」を考える　なぜ衣服を着るのか	予習：シラバスの確認	10分
2回	Ⅰ．ファッションと身体　①コルセット	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
3回	②化粧	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
4回	③女性の服・男性の服	復習：前回授業ノートの確認 ＋関連事項の調査	40分
5回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
6回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振返り	20分
7回	Ⅱ．ファッションとメディア　①ファッション写真	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
8回	②ファッション雑誌	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
9回	③かわいい世界	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
10回	④ディスカッション	予習：ディスカッションの準備	100分
11回	⑤レポートの評価	復習：レポート評価の振返り	20分
12回	Ⅲ．ファッションと展覧会①「ファッションと色彩」展	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
13回	②「ラグジュアリー」展	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
14回	③「○○○○○」展	復習：前回授業ノート確認 ＋関連事項の調査	40分
15回	プレゼンテーションと評価(フィードバック)	予習：プレゼンテーションの準備	100分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッション時のレポート、プレゼンテーションについては、受講者同士で評価をしあい、フィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ディスカッション＆授業内レポート2回＋プレゼンテーション1回
※上記についての受講生同士の相互評価

■教科書

毎回プリントを配布します。

■参考文献

適宜授業内で紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

沢山の服飾関連の授業を受講している皆さんにとって大事なことは、時に立ち止まり、物事を深く考える時間を持つことです。現在、ファッションについて社会学や哲学の立場から論じられている書物が数多く出版されています。それらをヒントに日頃からファッションについて深く考えてみましょう。

CADパターンメーキング

佐藤　奈未・羽賀　友美

2年　前期　　モードテクノロジー系必修　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

CAD（Computer Aided Design）の基本操作を学び、平面パターン設計を学修することを方針とします。CADの簡単な操作方法から学び、パターン設計→アパレルでの流れも学修します。

■到達目標（学修成果）

CADの基本操作とアパレルで必要な総合的なCADシステムの使用方法を修得する事を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、モードテクノロジー系必修科目であり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、CADの基本説明	予習：シラバスを読んでおくこと パソコンによる手慣らし	30分
2回	CADの基本操作	予習：パソコンによる手慣らし	30分
3回	ダーツ展開１（基本）	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
4回	ダーツ展開２（応用）	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
5回	袖	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
6回	ギャザー（身頃）	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
7回	ギャザー（スカート）1	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
8回	ギャザー（スカート）2	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
9回	前半の復習	予習：前半の整理、再確認しておく	30分
10回	キュロットスカート	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
11回	工業用パターン１（パーツ化）	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
12回	工業用パターン２（縫い代付け、マーキング）	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
13回	グレーディング（スカート）	終わらなかったところは終わらせておく(小テスト等)	30分
14回	まとめ１	予習：全体を整理、再確認しておく	30分
15回	まとめ２	予習：全体を整理、再確認しておく	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業の後半に、その回学んだことを復習の意味で小テストします。小テストは教員が添削し、次週返却し学生はそのデータの確認を行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	25%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

配布プリント

■参考文献

パターンメーキングの原理　（大野順之助著）

■オフィスアワー・研究室

・オフィスアワーの日時は初回の授業時にお知らせします。
・インダストリアルパターン研究室（第３校舎２階　３２１１）

■備考

ＣＡＤは自宅では使用出来ないコンピューターソフトのため、授業時間内に行うことをしっかり覚えていくこと、また欠席しないことをお奨めします。また進度により日程及び内容を変更することがあります。

モードクリエーションⅠ

中村　枝里子・設水　彩加

2年　前期　　モード必修　　（　3単位　実習　）

■授業の方針・概要

服飾造形基礎Ⅰ、Ⅱで修得した基礎的な知識と技術を基に、ワンピースドレスとパンツを制作しさらに必要な基礎を身に着ける。またワンピースドレスでは、マーケティングリサーチを行い、その時代の流行や市場の動向を感知し、各自がイメージすることを服の造形で表現できるようにデザインの考案、工業用パターン作成を行いオリジナルデザインの作品を制作する事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

ワンピースドレスとパンツのパターンメーキング、縫製方法を学び、作品制作を通して制作過程の理解と表現方法を身に付けることが出来る。さらに作品発表を通して、プレゼンテーション能力を高めることが出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目である。専門科目、服飾関係科目のモードクリエーションコース必修の実習科目である。卒業制作にあたり修得しておかなければならない知識や技術を含んでいる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション基礎課題・製図Ⅰ（ワンピースドレス各種）マーケティングリサーチについて	予習：シラバスを読む 復習：PATTERN MAKINGⅠテキストの製図を見直す　ワンピースのリサーチを行い、まとめる	30～60分
2回	基礎課題･縫製Ⅰ（ワンピースドレスの縫製方法について）部分縫い	復習：学んだことを確認する	30～60分
3回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作①）製図 マーケティングリサーチ報告	予習：デザインの考案　PATTERN MAKINGⅠテキストの製図を確認する	30～60分
4回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作②）トワル作成・点検	復習：遅滞作業を行う	30～60分
5回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作③）製図訂正・型紙作成	予習：製図、SEWINGⅠテキストのパターン、縫い代について確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
6回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作④）裁断・印付け	予習：SEWINGⅠテキストの裁断図を確認する　　復習：遅滞作業を行う	30～60分
7回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作⑤）身頃縫製	予習：SEWINGⅠテキストの身頃の縫製を確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
8回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作⑥）衿、袖縫製	予習：SEWINGⅠテキストの衿、袖を確認する　　復習：遅滞作業を行う	30～60分
9回	応用課題Ⅰ（ワンピースドレス制作⑦）仕上げ・提出 縫製指示書について	復習：遅滞作業を行う、縫製指示書を確認する	30～60分
10回	基礎課題・製図Ⅱ（パンツ各種、1/2大製図）	復習：遅滞作業を行う、PATTERN MAKINGⅠテキストの製図を見直す	30～60分
11回	基礎課題・製図Ⅱ（パンツ実物大製図、型紙作成）	予習：SEWINGⅡテキストのパンツについて確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
12回	基礎課題・縫製Ⅰ（パンツ縫製①）	予習：SEWINGⅡテキストのパンツについて確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
13回	基礎課題・縫製Ⅰ（パンツ縫製②）	予習：SEWINGⅡテキストのパンツについて確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
14回	ワンピースドレス　プレゼンテーション　講評会 基礎課題・縫製Ⅰ（パンツ縫製③）	予習：プレゼンテーション準備 復習：遅滞作業を行う	30～60分
15回	応用課題Ⅱ グループワーク まとめ	復習：前期の課題を振り返り確認する	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題により授業内で解説、返却を行う。試験、レポート返却については別途日程を伝達する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席が原則として授業時間の2/3未満の場合、 提出物が未了の場合は、再履修とする。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	60%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN MAKINGⅠ、SEWINGⅠ、SEWINGⅡ
電子教材

■参考文献　　図解服飾用語事典　その他

■オフィスアワー・研究室　　第1回目の授業に指示。研究室　大学服飾造形研究室

■備考

特別授業「工場見学(期日未定)」を含む。
進度により、日程および内容を変更する場合もある。
準備学修の時間はあくまで目安であり、各自の状況に合わせて増減すること。

モードクリエーションⅡ

中村　枝里子・設水　彩加

2年　後期　　モード必修　　（　3単位　実習　）

■授業の方針・概要

服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ、モードクリエーションⅠで修得したパターンメーキングを基に、工業用パターンを学び、総裏付きジャケットの構成を理解する。素材に合わせたパターン修正、展開方法などを学ぶ事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

ジャケットのパターンメーキング、縫製方法を学び、作品制作を通して制作過程を理解し表現方法を身に付けることが出来る。さらに作品発表を通して、プレゼンテーション能力を高めることが出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定科目である。専門科目、服飾関係科目のモードクリエーションコース必修の実習科目である。前期モードクリエーションⅠに続き、卒業制作にあたり修得しておかなければならない知識や技術を含んでいる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	基礎課題・製図Ⅰ（ジャケット各種） 基礎課題・縫製Ⅰ（ジャケットの縫製方法について） 部分縫い①　マーケティングリサーチについて	予習：シラバスを読む 復習：PATTERN MAKINGⅡテキストの製図を見直す、ジャケットのリサーチを行い、まとめる	30～60分
2回	基礎課題・縫製Ⅰ（ジャケットの縫製方法について） 部分縫い②　マーケティングリサーチ報告 応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作①）製図①	予習：PATTERN MAKINGⅡテキストのテーラードジャケットの製図を確認する 復習：遅滞作業を行う	30～60分
3回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作②）製図②	復習：遅滞作業を行う	30～60分
4回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作③） トワル作成・点検・製図訂正① 応用課題Ⅱ グループワーク	復習：遅滞作業を行う	30～60分
5回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作④） トワル作成・点検・製図訂正②	復習：遅滞作業を行う	30～60分
6回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑤） 型紙作成（表地、芯）	復習：遅滞作業を行う、SEWINGⅢテキストの展開図について見直す	30～60分
7回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑥） 裁断、印付け、縫製準備	予習：SEWINGⅢテキストの裁断、接着芯等について確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
8回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑦） 身頃縫製、ポケット縫製	予習：SEWINGⅢテキストのポケットについて確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
9回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑧） 型紙制作（裏地）、裁断、印付け	予習：SEWINGⅢテキストの裏地について確認する　復習：遅滞作業を行う	30～60分
10回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑨） 裏地縫製、衿作り	復習：遅滞作業を行う	30～60分
11回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑩） 身頃の合わせ、衿付け	復習：遅滞作業を行う	30～60分
12回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑪） 袖作り、袖付け	復習：遅滞作業を行う	30～60分
13回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑫） 中とじ、裾始末	復習：遅滞作業を行う	30～60分
14回	応用課題Ⅰ（テーラードジャケット制作⑬） ボタン付け、ボタンホール、仕上げ 縫製仕様書について	予習： SEWINGⅢテキストのボタン付け、ボタンホールについて確認する 復習：遅滞作業を行う、縫製仕様書を確認する	30～60分
15回	ジャケットプレゼンテーション発表 まとめ	予習：プレゼンテーション準備 復習：後期の課題を振り返り確認する	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題により授業内で解説、返却を行う。試験、レポート返却については別途日程を伝達する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席が原則として授業時間の2/3未満の場合、 提出物が未了の場合は、再履修とする。 色彩検定3級を取得する。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	60%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ドレメ式原型、基礎テキスト、PATTERN　MAKINGⅡ、SEWINGⅢ（購買部で各自購入しておくこと）
電子教材

■参考文献　　図解服飾用語事典　その他

■オフィスアワー・研究室　　第1回目の授業に指示。研究室　大学服飾造形研究室

■備考　進度により日程および内容を変更する場合もある。準備学修の時間は目安であり、各自の状況に合わせて増減すること。

ドレーピング＆ パターンメーキングⅠ

関　雅男

2年　前期　　モード必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

将来ファッション業界でデザイナー、パターンメーカー、マーチャンダイザー、バイヤー等の仕事をする上で、最も大切な基本理論を学ぶ。パターンメーカーとしての実務経験を活かして、服作りの現場で応用できる基礎の考え方、服の見方に軸を置いた授業を展開する。

服作りの基礎となる原型作りを通して、着る人の体型を考慮した服の見方や考え方の基本を学ぶ。ファッション業界において仕事をするためのファーストステップを確立する事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

婦人服におけるパターンの基本理論と基本技術を習得できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエーションコースの必修で卒業認定に必要な科目であり、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容		準備学修	
			具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	立体裁断とは　人台・天竺の扱い		予習(準備)：上身頃用天竺の用意（90cm幅×50cm丈）	15分
2回	原型のドレーピング	前身頃	復習：1回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
3回		後身頃	復習：2回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
4回	〃	前スカート・後スカート	復習：3回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：スカート用天竺用意（45cm幅×70cm丈×2枚）	30分
5回	〃	上下のはぎ合わせ	復習：4回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
6回	〃	パターン作成	復習：5回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
7回		組み立て　修正	復習：6回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
8回	原型のユルミ入れ	前身頃	復習：7回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：天竺の用意（45cm幅×50cm丈×2枚）	20分
9回	〃	後身頃・前後スカート	復習：8回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：天竺の用意（45cm幅×70cm丈×2枚）	20分
10回	〃	組み立て修正	復習：9回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
11回	袖の考え方	袖のパターンメーキング	復習：10回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：袖の天竺用意（45cm幅×70cm×1枚）	15分
12回	〃	袖付け	復習：11回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
13回	〃	修正	復習：12回目の授業内容・授業内課題の完了	10～30分
14回	袖の応用	ティパードスリーブ	復習：13回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：袖の天竺用意（45cm幅×70cm丈×1枚）	15分
15回	原型完成	ケント紙原型作成	復習：14回目の授業内容・授業内課題の完了 予習(準備)：半切ケント紙×1枚用意	15分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断　「基本理論」　　小山千曉他著　　㈲ｃｆｋ１９９１

■参考文献

「工業用パターンガイドブック」　　小山千曉他著　　㈱アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

第2新校舎2402教室　事前に出席の申告を必要とする。＊（曜日・時間については授業内で別途連絡する）

【連絡研究室】ドレーピング＆パターンメーキング研究室（第3校舎1階3106教室）

■備考

授業に必要なテキスト、道具・組立などの準備は必ず時間前に用意すること。

ドレーピング＆ パターンメーキングⅡ

関　雅男

2年　後期　　モード必修　　（ 1単位　実習 ）

■授業の方針・概要

前期に学んだドレーピング（立体裁断）方法を活かして、立体を意識しながら平面上でのパターン操作を学ぶ。
服作りの基礎となる原型からの展開方法を学び、実際にトワルを組むことで立体と平面との兼ね合いを掴む訓練をする事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

服作りの基本理論を立体と平面の両面から学ぶことでファッション業界において仕事をするためのファーストステップを確立する事が出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエーションコースの必修で卒業認定に必要な科目であり、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ダーツの考え方	予習（準備）：ケント紙原型・天竺用意	40分
2回	身頃のパターン展開 ダーツの展開・移動・回転	復習：1回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
3回	身頃のパターン展開 ウエストギャザー	復習：2回目の授業内容、課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
4回	身頃のパターン展開 水平ヨーク・ギャザー	復習：3回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
5回	身頃のパターン展開 ラウンドヨーク・ギャザー	復習：4回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
6回	身頃のパターン展開 水平ヨーク・ウエストギャザー	復習：5回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃）トレース・天竺用意	10～40分
7回	スカートの展開 ギャザースカート	復習：6回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（スカート）トレース・天竺用意	40分
8回	半袖のパターン展開 ギャザースリーブ	復習：7回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（袖の目）・天竺用意	40分
9回	長袖のパターン展開 ティパードスリーブ	復習：8回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（袖の目）トレース・天竺用意	10～40分
10回	長袖のパターン展開 マトンスリーブ	復習：9回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（袖の目）トレース・天竺用意	10～40分
11回	衿のパターンメーキング フラットカラー シャツカラー	復習：10回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（身頃上部）のトレース・天竺用意	10～40分
12回	衿のドレーピング フラットカラー	復習：11回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：衿の天竺用意	15分
13回	衿のドレーピング シャツカラー	復習：12回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：衿の天竺用意	10～30分
14回	Aラインスカートのドレーピング	復習：13回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：スカートの天竺用意	30分
15回	Aラインスカートのパターンメーキング	復習：14回目の授業内容、授業内課題の完了 予習（準備）：原型（スカート）トレース	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内で課題を点検し、その場で学生に対して個別指導を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

立体裁断　「基本理論」　　小山千曉他著　　㈲ｃｆｋ１９９１

■参考文献

「工業用パターンガイドブック」　　小山千曉他著　　㈱アミコファッションズ

■オフィスアワー・研究室

第2新校舎2402教室　事前に出席の申告を必要とする。＊（曜日・時間については授業内で別途連絡する）
【連絡研究室】ドレーピング＆パターンメーキング研究室（第3校舎1階3106教室）

■備考

授業に必要なテキスト、道具・組立などの準備は必ず時間前に用意すること。

モードデザインⅠ

白木　ゆみ香

2年　後期　　モード必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

モードデザインⅠは、モードクリエーションコースにとって必要不可欠な、「デザイン力」や「表現力」を養う授業です。１年時に学んだ基礎的なファッションデザイン画の技術や２年前期のデザイン概論の知識を元に、更に向上させるべく自分のイメージするデザイン画が自由に描けるようになるための技術や手法を学びます。

大学図書館やネットなども活用し、デザインの情報や資料収集がすぐに出来る環境の中、オリジナルのデザインを発想できる力を養えるよう指導、訓練をしていく事を方針とします。

■到達目標（学修成果）

自分のイメージするデザインを、自由に描ける力を養うこと。また、デザインを発想するための基礎を身に付けることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、モードクリエーションコースの必修科目で、卒業要件の単位となります。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション ブランドコレクション（レディース）①	予習：シラバスを読む。	30分
2回	ブランドコレクション②（ブランド分析、デザインポイント、ターゲット層、ハンガーイラスト、オリジナル）	復習：作品課題を完成させる。	60分
3回	ブランドコレクション（メンズ）①	復習：作品課題を完成させる。	60分
4回	ブランドコレクション（メンズ）②（ブランド分析、デザインポイント、ターゲット層、ハンガーイラスト、オリジナル） 色彩検定用課題①配布	復習：作品課題を完成させる。	60分
5回	ポーズのバリエーション4～5体	復習：作品課題を完成させる。	60分
6回	素材研究、マテリアル各種７～１０、各種画材での表現	復習：作品課題を完成させる。	60分
7回	マテリアルのファッション画① デザイン画１体、ハンガーイラスト　下絵 色彩検定用課題②配布	復習：色彩検定過去問題集 作品課題を完成させる。	60分
8回	マテリアルのファッション画② デザイン画１体、ハンガーイラスト　仕上げ	復習：作品課題を完成させる。	60分
9回	デザイン発想Ⅰ　テーマ：人体 （アイデアスケッチ、）① 色彩検定用課題③配布	予習：図書館・インターネットにて資料収集	60分
10回	デザイン発想Ⅰ　テーマ：人体 （デザイン画）②	復習：作品課題を完成させる。	60分
11回	デザインバリエーション① コレクションから１体選び描く。そのデザインポイントやテーマに基づき、オリジナルで２体バリエーションを考える。 色彩検定用課題④配布	復習：色彩検定過去問題集	60分
12回	デザインバリエーション② ベースのデザイン画１体＋オリジナル２体 それぞれにハンガーイラスト、デザインポイント説明。	復習：作品課題を完成させる	60分
13回	デザイン発想Ⅱ　テーマ：建築 コンセプトシート① 色彩検定用課題⑤配布	予習：図書館・インターネットにて資料収集 復習：色彩検定過去問題集	60分
14回	デザイン発想Ⅱ　テーマ：建築 アイデアスケッチ、デザイン画②	復習：作品課題を完成させる	60分
15回	デザイン発想Ⅱ　テーマ：建築 プレゼン発表③	予習：プレゼン資料を完成させる	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・作品課題の提出は、教室またはデザインCG研究室（研究棟１F）まで、指定された日時までに提出のこと。
・作品課題の返却は、採点または手直し後、教室にて返却。期末試験はなし。
・色彩検定試験（2級・3級）用、課題提出あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	55%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	15%

■教科書　必要に応じてプリント配布。

教材「Fashion Illustration Sheet」「Fashion Ruler」

ファッション色彩能力検定試験３級準拠、３級・２級問題集。

■参考文献　MODE Et MODE

■オフィスアワー・研究室

【前期】木　14：30～16：00【後期】水　15：00～16：00

【研究室】デザインCG研究室（研究棟１F）

■備考　進度により、日程および内容の変更あり。必要と思われる展示会や美術展などの見学あり。

コロナの感染状況に応じて、zoomでの遠隔授業対応になる可能性あり。

服飾デザイン概論

鈴木　桜子

2年　前期　　モード必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

「デザイン」は、単に「もの」(服飾)のイメージに合わせて色や形にしていくことではなく、最も重要な目的の一つとして、「もの」を通して人と社会をコーディネートしていくことがあげられます。そのためには時代を知り、人と社会に関心を持つ姿勢が求められ、どのようなプロセスを通して最終的な素材や色や形にしていくかが問われます。

本授業の方針として、服飾デザインを多角的な視点から捉え、自らの服飾デザイン観が社会とどのように結びついていくのか、理論的・実践的思考を高めてプレゼンテーション、ディスカッションを行っていくアクティブラーニングを重視します。

■到達目標（学修成果）

服飾デザインについて、自らの見識を持ち、デザインコンセプトを構築していく姿勢を持つことを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエーションコース専門科目として卒業認定の卒業要件科目です。服のデザイン・考え方・プレゼンに必要な技術等が修得でき、モードクリエーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、卒業制作Ⅰ・Ⅱの授業での製作する際のデザイン考案に関連しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション　なぜ、服をデザインするのか？	予習：シラバスの確認	10分
2回	Ⅰ．時代と社会に向き合うデザイン①	復習：時代・社会に向けた衣服の在り方を考える	40分
3回	〃　②	復習：時代・社会に向けた衣服の在り方を考える	40分
4回	Ⅱ．歴史と文化に向き合うデザイン①	復習：歴史の衣服に目を向けてみる	40分
5回	〃　②	復習：歴史の衣服に目を向けてみる	40分
6回	Ⅲ．未来のファッション	復習：未来のファッションを考える	40分
7回	プレゼンテーションとディスカッション （ポートフォリオ提出）	予習：プレゼンの準備 ポートフォリオ作成	100分
8回	デザイナーの仕事	復習：デザイナーの仕事を考える	40分
9回	Ⅳ．装飾の功罪①	復習：装飾の在り方を考える	40分
10回	〃　②	復習：装飾の在り方を考える	40分
11回	Ⅴ．構造とフォルム	復習：構造とフォルムの事例を調べる	40分
12回	Ⅵ．ファッションと技術	復習：最新の技術を知る	40分
13回	Ⅶ．色彩・装飾・素材・構造・フォルム・コンセプト	復習：デザイン要素を総合的に捉える	40分
14回	プレゼンテーションとディスカッション （ポートフォリオ提出）	予習：プレゼンの準備 ポートフォリオ作成	100分
15回	まとめと評価	復習：講評を受けて自分の作品を振り返る。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション＋ディスカッションの中で受講生双方の評価をフィードバックしていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※プレゼンテーション＋ポートフォリオ
※上記に関する受講生同士の相互評価

■教科書

必要に応じてプリントを配布

■参考文献

必要に応じて授業の中で紹介していきます。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

進度により、日程及び内容は変更することがあります。

装飾技法

中村　枝里子・設水　彩加

2年　後期　　モード必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

装飾技法の歴史は古く、服飾の世界では様々な技法を用いた服作りが行われている。
この授業においては、服作りの幅を広げるヒントとなる装飾技法の基礎的手法を学ぶ事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

この科目を履修することにより、装飾技法の基礎的技法を習得することが出来るようになる。また服飾造形に活かすことを目標とし、更に基礎的技法を発展させ作品に付加価値をつけたり、新たにデザインを発想したりするなど、応用力を身につけることも目指す。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目である。モードクリエーションコース学生の必修で、モードクリエーションⅢ、Ⅳや卒業制作での服飾造形表現に必要とする技法技術の向上に資する科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、ギャザー	予習：シラバスを読む。 復習：ギャザーについて学んだ内容を確認する。	30分
2回	シャーリング	復習：シャーリングについて学んだ内容を確認する。	30分
3回	フリル	復習：フリルについて学んだ内容を確認する。	30分
4回	プリーツ、タック	復習：プリーツ、タックについて学んだ内容を確認する。	30分
5回	ニードルパンチ	復習：ニードルパンチについて学んだ内容を確認する。	30分
6回	フリーレース	復習：フリーレースについて学んだ内容を確認する。	30分
7回	スラッシュキルト	復習：スラッシュキルトについて学んだ内容を確認する。	30分
8回	キルティング	復習：キルティングについて学んだ内容を確認する。	30分
9回	フランス刺繍	復習：フランス刺繍について学んだ内容を確認する。	30分
10回	ビーズ刺繍	復習：ビーズ刺繍について学んだ内容を確認する。	30分
11回	スモッキング	復習：スモッキングについて学んだ内容を確認する。	30分
12回	リボン刺繍	復習：リボン刺繍について学んだ内容を確認する。	30分
13回	パイピング	復習：パイピングについて学んだ内容を確認する。	30分
14回	結びと編み	復習：結びと編みについて学んだ内容を確認する。	30分
15回	その他技法について	予習:授業で学んだ技法以外の装飾技法について調べてくる。 復習：配布した技法資料と自身の作品を振り返り、技法を確認する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題により授業内で解説、返却を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	原則として出席日数が2/3に満たない場合、提出物が未了の場合は再履修とする。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリントを配布。

■参考文献

必要に応じて授業内に紹介。

■オフィスアワー・研究室

各担当から授業内で指示。
連絡研究室：服飾造形研究室（研究棟内）、造形教室

■備考

日程及び内容は、進度状況により変更する場合もある。
必要材料を授業内で配布する為、材料費として1,500円程集金する。

ファッション史

鈴木　桜子

2年　前期又は後期　　モード必修　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

私たちがいま着ている現代衣服の源流は、およそ100年前に遡ります。その間、多くの革新的なデザイナーが誕生し、流行のファッションが繰り広げられてきました。しかし、一見、一過性の流行と思われがちなその現象の背後には、政治的・社会問題や同時代の芸術・デザイン運動との関連性が見受けられます。

上記より本授業の方針として、近現代を中心に、芸術・デザイン諸領域の動向を理解しながら、服飾デザインの理論とその歴史性を探っていく視点を重視していきます。

■到達目標（学修成果）

時代のデザイン思考を学ぶことによって、学生一人ひとりがファッションに対する考え方を確立していくきっかけの一つになることが本授業の目標です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

モードクリエーションコースの必修であり卒業要件科目です。1年次の必修科目「西洋服飾文化史」と合わせて服飾史として通史が完成される内容になっています。モードクリエーションコースをはじめ、本学学生には必須の授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション　現代ファッションの100年	シラバスの確認	20分
2回	Ⅰ．デザイン運動とファッション①　ジャポニスム	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
3回	②　改良服運動	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
4回	③　アール・ヌーヴォー	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
5回	④　ウィーン工房	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
6回	⑤　ロシア構成主義とデ・スティル	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
7回	⑥　バウハウス	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
8回	Ⅱ．モードの革新者たち①　マドレーヌ・ヴィオネ	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
9回	②　ガブリエル・シャネル	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
10回	③　エルザ・スキャパレリ	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
11回	戦後のモード　ディオールからサンローランまで	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
12回	モードの多様化　アンチ・モード	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
13回	日本人デザイナーたち	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
14回	北欧デザインとファッション	復習：前回ノートの確認＋manaba復習	30分
15回	まとめと復習	予習：これまでのノート＋manaba復習の確認	40分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回提出するノートプリントを次回授業時に返却します。また進度に合わせて評価を付けてフィードバックします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

※ノートプリントの提出
※manaba復習の取組
※授業内小テスト

■教科書

Web教材：塚田耕一・鈴木桜子「ファッション史年表：現代ファッションの100年」
（杉野学園衣裳博物館HP：www.costumemuseum.jp）＊プリントとして配布もします。

■参考文献

授業内容に応じて紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回の授業でお知らせします。

■備考

なし

インダストリアルパターンⅠ

羽賀　友美

2年　前期　　インダストリアル必修　　（　2単位　実習　）

■授業の方針・概要

パターンとトワル組み立ての基本を学ぶことを方針とします。服作りは人体を考えることにより、機能的で美しいシルエットを作り出すことができます。基本的なＣＡＤ操作をし、平面パターン設計を学修します。ボディを使って面やダーツ位置の確認をしながら、立体の組み立てを行います。

■到達目標（学修成果）

平面製図→立体を連動して服の形状を学んでいきます。ダーツ展開・ワンピース・衿・袖の基本を学び、パターンをトワルとして組み立てバーチャルではない現実の立体として検証し、パターン力を向上させます。ＣＡＤの基本的な操作を学ぶと共にトワル作成の基本的なテクニックを身に付け、被服製作の総合的な技術を学修することを目標とします。提出作品はポートフォリオとしてまとめ、学生の自己点検と教員との意見交換も行います。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、インダストリアルパターンコース必修科目であり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、ワンピース1製図・組み立て ・タイトシルエット　・Aライン	予習：シラバスを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
2回	ワンピース2製図・組み立て ・プリンセスライン	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
3回	ダーツ展開1（タック）製図・組み立て	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
4回	ダーツ展開2（ヨーク、切り替え線）製図・組み立て	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
5回	袖のバリエーション1製図・組み立て ・タックスリーブ	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
6回	袖のバリエーション2製図・組み立て ・パフスリーブ	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
7回	袖のバリエーション3製図・組み立て ・シャツスリーブ	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
8回	衿のバリエーション1製図・組み立て ・スタンドカラー　・ショールカラー	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
9回	衿のバリエーション2製図・組み立て ・フラットカラー　・セーラーカラー	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
10回	衿のバリエーション3製図・組み立て ・シャツカラー　　・台衿付きシャツカラー	予習：テキストを確認しておく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
11回	工業用パターン、グレーディング	予習：授業全体を再確認してまとめられるようにしておく	45分
12回	まとめ1	予習：授業全体を再確認してまとめられるようにしておく	45分
13回	まとめ2	復習：授業で行った工業用パターン、グレーディングの確認	30分
14回	縫製仕様書	復習：授業で行った縫製仕様書の確認	30分
15回	まとめ3　・manaba提出 ・アクティブラーニング（プレゼンテーション）	予習：manaba提出のための写真等の整理	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

製図は教員が添削して後日学生に返却する。作成したトワルは教員と共にその場でシルエット確認する。トワルとCADデータはPowerPointでまとめて提出し教員は講評を返信する（学内システムmanaba利用）。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	25%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

PATTERN MAKING Ⅰ（杉野学園）、SEWING Ⅰ（杉野学園）、配布プリント

■参考文献

PATTERN MAKING Ⅰ（杉野学園）、SEWING Ⅰ（杉野学園）、被服構成の基礎（奥田有希著）、ドレメ式原型（杉野学園）

■オフィスアワー・研究室

・オフィスアワーの日時は初回の授業時にお知らせします。
・インダストリアルパターン研究室（第３校舎２階　３２１１）

■備考　・進度により日程及び内容を変更することがあります。

インダストリアルパターンⅡ

羽賀　友美

2年　後期　　インダストリアル必修　　（　2単位　実習　）

■授業の方針・概要

前期のインダストリアルパターンⅠを基礎に、手書きとCADでのパターンメーキングを行います。トワルの組立てを行うことで、平面→立体の相互関係を学ぶことを方針とします。ピンワークでの組立ても行い、パターン検定に備えます。また感性産業デザインⅡの授業と連動し、同授業でジャケットのパターンメーキングも行います。

■到達目標（学修成果）

ＣＡＤの操作方法とパターンメーキングの方法を学修します。またパターンをトワルに縫製することで具現化出来る力を養うことを目標とします。提出作品はポートフォリオとしてまとめ、学生の自己点検と教員との意見交換も行います。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、インダストリアルパターンコース必修科目であり、服飾造形の基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、前期CAD復習 パターンメーキング技術検定試験3級について	予習：シラバスを読んでおく 復習：授業時作業の完了	30分
2回	パンツ製図・組み立て1	予習：テキストを読んでおく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
3回	パンツ製図・組み立て2	予習：テキストを読んでおく 復習：授業で行った製図・組み立ての完成	45分
4回	デザインブラウス1製図	予習：テキストを読んでおく 復習：授業で行った製図の完成	45分
5回	デザインブラウス1組み立て（ピンワーク）	予習：テキストを読んでおく 復習：授業で行った製図の完成	45分
6回	デザインブラウス2製図	予習：天竺の準備 復習：授業で行ったピンワークの完成	45分
7回	デザインブラウス2組み立て（ピンワーク）	予習：天竺の準備 復習：授業で行ったピンワークの完成	45分
8回	ブラウス　まとめ	予習：授業全体を再確認してまとめられるようにしておく	60分
9回	パターンメーキング技術検定3級試験対策	予習：復習　検定に向けてブラウスの製図とピンワークの手順を再確認する	60分
10回	インバーテッドプリーツスカート製図・組み立て	予習：テキストを読んでおく 授業で行った製図・組み立ての完成	45分
11回	ゴアードスカート製図・組み立て	予習：テキストを読んでおく 授業で行った製図・組み立ての完成	45分
12回	4枚パネルジャケット製図1	予習：テキストを読んでおく 復習：授業で行った製図の完成	45分
13回	4枚パネルジャケット製図2	予習：テキストを読んでおく 復習：授業で行った製図の完成	45分
14回	4枚パネルジャケット製図3	予習：天竺の準備 復習：授業で行った製図の完成	45分
15回	まとめ（manaba提出）	予習：manaba提出のための写真等の整理	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

製図は教員が添削して後日学生に返却する。作成したトワルは教員と共にその場でシルエット確認する。トワルとCADデータはPowerPointでまとめて提出し教員は講評を返信する（学内システムmanaba利用）。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	25%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
外部評価・検定試験結果	10%

（ﾊﾟﾀｰﾝﾒｰｷﾝｸﾞ技術検定3級）

■教科書

PATTERN MAKING Ⅰ・Ⅱ（杉野学園）、パターンメーキング技術検定試験3級試験問題解答・解説集、配布プリント

■参考文献

PATTERN MAKING Ⅰ・Ⅱ（杉野学園）、ドレメ式原型（杉野学園）

■オフィスアワー・研究室

・オフィスアワーの日時は初回の授業時にお知らせします。
・インダストリアルパターン研究室（第３校舎２階　３２１１）

■備考

進度により日程及び内容を変更することがあります。

感性産業デザインⅠ

佐藤　奈未

2年　前期　　インダストリアル必修　　（　3単位　演習　）

■授業の方針・概要

現在流行している洋服にとらわれず、パターンカッティングの概要を学習し、デザインの実験を行います。それを、実験デザイン学というオリジナル学問体系の中の一つとして開講します。CADによってパターンを描き1/2大による作品製作を行います。素材とパターンの違いや、緩み・衣服形状を学びます。縫製技術とCADリテラシーの技術力を養成する事を方針とします。

■到達目標（学修成果）

工業縫製を意識したCADパターンメーキングや、縫製技術を向上させることを重点とし、期間内に効率よく作業が行えるようになります。また様々な素材とパターンの関係を理解できるようになることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業認定に必要な科目で、インダストリアルパターンコース必修科目です。服飾造形の基礎的な知識を得ることが出来ます。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 裁断・縫製について・CAD導入	予習：シラバスを読んでおく 復習：裁断	30分 30分
2回	ボディ ストラクチャー（各種素材） ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断準備 復習：素材選びの検証	30分 30分
3回	ボディ ストラクチャー（各種素材） ・縫製・CAD	予習：縫製手順を考えてくる 復習：素材選びの検証	30分 30分
4回	サーキュラー(綿・ウール) ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断 復習：素材選びの検証	30分 30分
5回	サーキュラー ・縫製・CAD	予習：縫製手順を考えてくる 復習：素材選びの検証	30分 30分
6回	ゴアード（ニット・布帛・化繊・シルク） ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断 復習：素材選びの検証	30分 30分
7回	ベル（綿・ポリエステル）・バルーン(綿・アセテート) ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断 復習：素材選びの検証	30分 30分
8回	ベル・バルーン ・縫製・CAD	予習：縫製手順を考えてくる 復習：素材選びの検証	30分 30分
9回	フレアー（シルクジョーゼット・アセテート） ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断準備 復習：素材選びの検証	30分 30分
10回	フレアー ・縫製・CAD	予習：縫製手順を考えてくる 復習：素材選びの検証	30分 30分
11回	パターンとシルエット研究 ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断 復習：素材選びの検証	30分 30分
12回	パターンとシルエット研究・縫製　パターンとシルエットについてアクティブ・ラーニング(グループディスカッション)	予習：縫製手順を考えてくる ：素材の検証、必要資料を用意	30分 30分
13回	オーバーレイ（ニット） ・縫製・CAD	予習：材料用意・裁断 復習：素材選びの検証	30分 30分
14回	オーバーレイ 作品撮影・写真まとめ	予習：撮影の構想を練っておく 復習：写真の確認	30分 30分
15回	ポートフォリオまとめ　プレゼンテーション まとめ（課題のフィードバックを含む）	予習：プレゼンテーションの準備 復習：授業まとめ	30分 30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

1/2作品は教員が添削して後日学生に返却し個別指導する。15回目に課題についての解説をし、作品返却を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	25%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

Fabric, Form and Flat Pattern Cutting　　Winifred Aldrich著　Blackwell Science Ltd

配布資料

■参考文献

各種ファッション雑誌等

■オフィスアワー・研究室

・【連絡研究室】インダストリアルパターン研究室（第3校舎2階3211）

・時間は初回授業でお知らせします

■備考

進度により、日程および内容の変更あり

感性産業デザインⅡ

佐藤　奈未

2年　後期　　インダストリアル必修　　（　3単位　演習　）

■授業の方針・概要

基本のジャケット製作をし、工業用パターンで表記されている事項が実際の縫製工程でどのように展開されていくのか製作を通して理解していきます。またジャケットの内部構造を学び、ジャケットがどのように構成されているかを学修します。インダストリアルパターンⅡで作成したCADパターンを縫製する事を方針とします。

■到達目標（学修成果）

ジャケット製作を通して基本的なジャケットの内部構造を理解し、応用させることができるようになります。また、工業用パターンでの縫製力を養うことによって工場とのサンプルによるコミュニケーションが出来るようになることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業認定に必要な科目で、インダストリアルパターンコース必修科目です。服飾造形の基礎的な知識を得ることが出来ます。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション ジャケット展開図（表衿・見返しの展開）　縫製仕様書	予習：シラバスを読んでおく 復習：展開図の完成	30分 30分
2回	ポケットの構造を学ぶ フラップ付きパッチポケット	予習：素材準備 裁断 復習：パッチポケットの完成	30分 30分
3回	ポケットの構造を学ぶ 玉縁フラップポケット	予習：素材準備 裁断 復習：玉縁フラップポケットの完成	30分 30分
4回	ポケットの構造を学ぶ 箱ポケット	予習：素材準備 復習：箱ポケットの完成	30分 30分
5回	ジャケット製作　表地裁断　芯裁断 芯貼りプレス　テープ貼り	予習：裏地の作業手順を考えておく 復習：芯貼りプレスとテープ貼り完了	30分 30分
6回	ジャケット製作　裏地裁断 表組み立て　地衿合体	予習：裏地の作業手順を考えておく 復習：地衿合体まで終了させる	30分 30分
7回	ジャケット製作 ポケット作り　ポケット付け	予習：衿付け作業手順を考えておく 復習：ポケットを完成させる	30分 30分
8回	ジャケット製作 裏組み立て　表衿合体	予習：作業手順を考えておく 復習：表衿合体まで終了させる	30分 30分
9回	ジャケット製作　衿付け　四つ止め 袖作り　袖付け　裄綿	予習：裄綿準備 復習：袖付けの完了	30分 30分
10回	パターン検定3級試験の対策	予習：3級講座の準備 復習：3級講座の作業を終了させる	30分 30分
11回	ジャケット製作　肩パッド付け 裾始末　中とじ	予習：肩パッド準備 復習：中とじの完了	30分 30分
12回	ジャケット製作　星止め　ボタン付け　仕上げ ボタンホール	予習：ボタン準備 復習：星止め完了	30分 30分
13回	シャツの構造を学ぶ 袖口あき	予習：布準備 裁断 復習：袖口あき部分の完了	30分 30分
14回	ブラウスの構造を学ぶ　袖口始末 ジャケット課題提出（manaba）	予習：布準備 裁断 復習：袖口始末の完了	30分 30分
15回	ポートフォリオまとめ　プレゼンテーション まとめ（課題のフィードバックを含む）	予習：プレゼンテーションの準備 復習：全体のまとめ	30分 30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説をし、作品返却を行う。個々の課題添削（学内システムmanaba利用）

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	35%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

PATTERN MAKING Ⅱ　　学校法人　杉野学園
SEWING Ⅲ　　学校法人　杉野学園
配布プリント

■参考文献

ドレメ式原型　　学校法人　杉野学園　　基礎テキスト　　学校法人　杉野学園
SEWING Ⅳ　　学校法人　杉野学園

■オフィスアワー・研究室

・火曜日　16：20～17：50
・インダストリアルパターン研究室（第3校舎2階3211）

■備考　進度により日程及び内容を変更することがあります。

ＣＧデザインⅠ

水越　綾

２年　前期　　インダストリアル必修　　（　１単位　実習　）

■授業の方針・概要

１年次の基礎で学んだコンピュータースキルと、配色の知識を活かし、実践で使いこなせるよう、座学と演習を取り入れて授業を進めてゆく。この授業では、“色”を客観的に見る力を養う。“色”を客観的に扱うために、様々な環境的要因や心理的要因からの影響を理解し、ニーズに合った提案ができるよう、“色の見え”に関するメカニズムを様々な練習課題を通して涵養してゆく。

授業では、Word, Excel, PowerPoint, Photoshop, Illustrator と、１年次に学んだアプリケーション全てを、より実践的に活用してゆく事を方針とする。これらの学びを対面・manaba を通じて双方向型授業で実施してゆく。

■到達目標（学修成果）

自身のファッションコーディネートや、作品制作、ポートフォリオ等に色彩を効果的に活用する事ができるようになるだけではなく、客観的な視点を持って、根拠あるエビデンスを提示しながら色を扱えるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー(学位授与)については、インダストリアルパターンコース必修科目であり、服飾造形の基礎力及び、総合的な判断力の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	初回ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、いままでの色彩の学びのおさらい。 第１章産業における色彩（産業と色彩）	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習：問題集を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。	45 分
2 回	第４章流行配色・調和の技術・ファッションイメージとカラーコーディネーション①流行配色のパターン・調和の技術を活かしたファッションイメージを表現する。	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習と課題：問題集を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。課題を進めておく。	45 分
3 回	第４章流行配色・調和の技術・ファッションイメージとカラーコーディネーション②流行配色のパターン・調和の技術を活かしたファッションイメージを表現する。	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習と課題：問題集を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。課題を進めておく。	45 分
4 回	第５章パーソナルコーディネーションと色彩① 座学の後、グループに分かれ相互にパーソナルカラー診断を行なう	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習：シーズン毎のファッションイメージ収集。確認問題を解き、不十分な箇所に関しては再度教科書を読込んでおく。	45 分
5 回	第５章パーソナルコーディネーションと色彩② ペアワーク、お互いのシーズンカラーを活かしたファッションコーディネート提案。提案の為のヒアリングを行い、企画立案・ディスカッション。／イメージコラージュ、ファッション画・ハンガーイラストの作成	予習：シーズン毎のファッションイメージ収集。 課題：課題に必要なデーターの収集／課題を進めておく	45 分
6 回	第５章パーソナルコーディネーションと色彩③ ペアワーク、お互いのシーズンカラーを活かしたファッションコーディネート提案。イメージコラージュ、ファッション画・ハンガーイラストの作成／発表用資料の作成	予習：シーズン毎のファッションイメージ収集。 課題：課題に必要なデーターの収集／遅滞している場合は時間外に作業を進めておく。	45 分
7 回	第５章パーソナルコーディネーションと色彩④ 提案コーディネートについてのプレゼンテーションと振り返り（発表時に manaba を通じて学生間相互評価を実施。振返り）	復習：他者の発表を見た上で、自分の発表の振り返りを manaba に提出してもらう。自分の作品をブラッシュアップさせる。	45 分
8 回	目黒区民まつり、ポスターデザイン作成① 目黒区役所担当者からの説明／ポスターデザインに向けたリサーチと、アイデア案の作成	課題：目黒区に関してのリサーチとアイデア案作成 Manaba に設定した過去問に挑戦し、間違った箇所は再度教科書を読み込んでおく。	45 分
9 回	目黒区民まつり、ポスターデザイン作成②ディスカッション／デザインの確定／制作ツール・手順の確認の後制作	課題：課題を進めておく。Manaba に設定した過去問に挑戦し、間違った箇所は再度教科書を読み込んでおく。	45 分
10 回	目黒区民まつり、ポスターデザイン作成③ 制作／進捗確認（ディスカッション）	課題：課題を進めておく 。Manaba に設定した過去問に挑戦し、間違った箇所は再度教科書を読み込んでおく。	45 分
11 回	目黒区民まつり、ポスターデザイン作成④ 制作／提出・内容確認（ディスカッション）／必要があれば修正	課題：発表した内容について必要があれば修正・再提出 Manaba に設定した過去問に挑戦し、間違った箇所は再度教科書を読み込んでおく。	45 分
12 回	第２章色彩理論①（光と色：波長による色の見えについて観察と実験（講義に沿ってワークシートとまとめた後、波長による色の見えを調査してまとめる)）	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 課題：身の周りの“波長による色の見え”を探して記録する。 復習：問題集該当箇所を解いて理解度の確認・教科書確認。	45 分
13 回	第２章色彩理論②（色覚のしくみ・色彩と心理：視覚のしくみ・色覚説・色覚の恒常性・色覚異常・色彩の知覚的効果）講義にそってワークシートをまとめた後、カラーユニバーサルデザインを考慮した配色デザインを考える。	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 街中に見られるカラーユニバーサルデザインを探す。 復習：問題集該当箇所を解いて理解度の確認・教科書確認。 課題：色覚の特性を意識したユニバーサルな配色バリエーションを検討しておく。	45 分
14 回	第２章色彩理論③色彩の知覚的効果① 環境による色の見えの違い／カラーユニバーサルデザインを考慮した配色の作成練習	復習：問題集該当箇所を解いて理解度の確認・教科書確認。 課題：色覚の特性を意識したユニバーサルな配色バリエーションを検討しておく。	45 分
15 回	第２章色彩理論③色彩の知覚的効果② プレゼンテーション／振返り／	予習：発表の準備をしておく 復習：自分の発表を振り返る	45 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題は基本的に manaba に提出してもらう。プレゼンテーション時の学生間のフィードバックも manaba を通じて行なう。また提出作品へのコメント等も基本的に manaba で行なう。また、面談によるフィードバックもあり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での振り返り等総合して成績評価する。 それ以外の評価基準については、授業内に指示する。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

ファッション色彩[Ⅱ]、ファッション色彩能力検定試験２級問題集（財団法人　日本ファッション教育振興協会）

■参考文献：デザインを学ぶすべての人に贈る　カラーと配色の基本 BOOK　大里浩二著　ソシム株式会社発行

■オフィスアワー・研究室：初回授業時にアナウンスする・研究室　研究棟１階 6012B

■備考：１年次の情報演習Ⅱ、色彩のテキスト、カラーペーパ等を使用する事があるので用意しておくように、また、授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスする。USB 等を用意しておくと良い。

ＣＧデザインⅡ

水越　綾　　２年　後期　　インダストリアル必修　　（　１単位　実習　）

■授業の方針・概要

１年次の基礎で学んだコンピュータースキルと、配色の知識を活かし、実践で使いこなせるよう、座学と演習を取り入れて授業を進めてゆく。この授業では、“色”を客観的に見る力を養う。
“色”を客観的に扱うために、様々な環境的要因や心理的要因からの影響を理解し、ニーズに合った提案ができるよう、“色の見え”に関するメカニズムを様々な練習課題を通して涵養してゆく。
授業では、Word, Excel, PowerPoint, Photoshop, Illustrator と、１年次に学んだアプリケーション全てを、より実践的に活用してゆく事を方針とする。これらの学びを対面・manaba を通じて双方向型授業で実施してゆく。

■到達目標（学修成果）

自身のファッションコーディネートや、作品制作、ポートフォリオ等に色彩を効果的に活用する事ができるようになるだけではなく、客観的な視点を持って、根拠あるエビデンスを提示しながら色を扱えるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー(学位授与)については、インダストリアルパターンコース必修科目であり、服飾造形の基礎力及び、総合的な判断力の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	第 3 章色名（基本色名・固有色名（慣用色名）・系統色名・伝統色名）講義に沿ってワークシートをまとめた後、雑誌や端切れ等様々な色片を集め、バーリンとケイが挙げたベーシックカラーチームに分類し、それを更に系統色名で表現する。	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習：確認問題を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。課題：課題を進めておく	45 分
2 回	第 5 章 01 ファッション産業において色彩を取り扱う姿勢 講義を聞きながらポイントを manaba にまとめる テキスタイルデザインにおける配色展開① Illustrator を用いた柄作成と色合わせ課題①	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習：確認問題を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。課題：課題を進めておく	45 分
3 回	第 5 章 01 ファッション産業において色彩を取り扱う姿勢 講義を聞きながらポイントを manaba にまとめる テキスタイルデザインにおける配色展開② Illustrator を用いた柄作成と色合わせ課題②	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習：確認問題を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。課題：課題を進めておく	45 分
4 回	テキスタイルデザインにおける配色展開③ オリジナル柄の作成①	予習：ﾃｷｽﾄ該当頁に目を通し、疑問・不明な点をまとめておく。 復習：確認問題を解いて理解度の確認／必要があれば再度教科書を確認する。課題：課題を進めておく	45 分
5 回	テキスタイルデザインにおける配色展開④ オリジナル柄の作成② 成果発表。(発表内容に関して学生間相互評価を行う。自身の作品に対して振返り)	予習：発表の準備をしておく。 課題：発表に対する振り返りを manaba に記入し、今後の課題に活かせるようにする。	
6 回	第 5 章 01 ファッション産業において色彩を取り扱う姿勢／02 情報としての色彩①～step1:結果情報を分析し予測を立てる	予習：課題に必要な情報を集めておく（内容については授業内で指示する） 課題：コレクションのデーターを集める	45 分
7 回	第 5 章 02 情報としての色彩②～step1:結果情報を分析し予測を立てる	課題：課題を進めておく	45 分
8 回	第 5 章 02 情報としての色彩③～step2:1 シーズン毎にまとめたデーターから経年変化を読み取り、テーマ・配色・素材・デザインの視点から資料としてまとめる	課題：課題を進めておく	45 分
9 回	第 5 章 02 情報としての色彩④～step2:1 シーズン毎にまとめたデーターから経年変化を読み取り、テーマ・配色・素材・デザインの視点から資料としてまとめる	課題：課題を進めておく	45 分
10 回	中間プレゼンテーション Step2 としてまとめた内容をプレゼンテーション／振り返り	予習：プレゼンテーションの準備をしておく 復習：発表の振り返りを manaba に書き込み、次に活かせるようにする。	45 分
11 回	第 5 章 03 商品企画における色彩計画⑤／～step3:過去の情報から今後のトレンド予測をおこなう	課題：ファッション画（線画）を作成する／必要な素材・情報を集めておく	45 分
12 回	第 5 章 03 商品企画における色彩計画⑥／～step3:過去の情報から今後のトレンド予測をおこなう	課題：必要な素材・情報を集めておく	45 分
13 回	第 5 章 03 商品企画における色彩計画⑦／～step3:過去の情報から今後のトレンド予測を行う	課題：必要な素材・情報を集めておく	45 分
14 回	第 5 章 03 商品企画における色彩計画⑧／～step4:プレゼンテーションの為の資料作成	課題：課題を進めておく	45 分
15 回	第 5 章 03 商品企画における色彩計画⑨／～step5:企画発表／（発表内容に関して学生間相互評価を行う。自身の作品に対して振返り）	予習：発表の準備をしておく 課題：発表に対する振返りを行ない、manaba に記入する。	45 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出課題へは添削後、返却する。面談によるフィードバックもあり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での振り返り等総合して成績評価する。 それ以外の評価基準については、授業内に指示する。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書　ファッション色彩[Ⅱ]、ファッション色彩能力検定試験２級問題集（財団法人　日本ファッション教育振興協会）

■参考文献　デザインを学ぶすべての人に贈る　カラーと配色の基本 BOOK　大里浩二著　ソシム株式会社発行

■オフィスアワー・研究室　初回授業時にアナウンスする・研究室　研究棟 1 階 6012B

■備考　1 年次の色彩テキストを使用する事があるので用意しておくこと。授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスする。

人体工学設計技術Ⅰ

住野　雅子

2年　前期　　インダストリアル必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

１年次に人体工学論で学習したアパレル設計を基礎とし、パターンカッティングの原点を探求する。フィッティングを学び、マス・カスタマイゼーション〔顧客への個別対応〕の考察をする。この考え方は、従来の工業ボディを使用するだけではなく、体型別に顧客データをパターン化し、ターゲットサイズの設定から、原型作り、補正（規格外サイズへの対応）の後、縫製工程に進めるというプロセスを学習する。Customizing Design bodyを製作しそのサイズで販売した指導者の経験をいかして指導を行う事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

人体工学的なパターン作りによる的確なサイズ設定と、ハンドで引く製図との整合性が理解出来るようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコース必修科目で卒業認定・学位授与の該当授業科目である。次世代におけるハイブリットなパタンナー育成のための専門知識を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	シラバス日程　被服設計と人体工学の概要（採寸について）	準備　A4ファイル順義	10分
2回	標準体型から個人原型（補正について）	復習　教科書暗記、プリント整理	90分
3回	ダーツについて	復習　ダーツについて　ノート作り	90分
4回	そでの補正	復習　そでの補正　ノート作り	90分
5回	ドロップショルダー応用　スクエアースリーブ	復習　ドロップショルダー応用　スクエアースリーブ　ノート作り	90分
6回	ラグランスリーブ	復習　ラグランスリーブ　ノート作り	90分
7回	スカートの補正	復習　スカートの補正　ノート作り	90分
8回	ゴアードスカート	復習　ゴアードスカート　ノート作り	90分
9回	企業による講演会　（ボディについて）	復習　ボディ購入について検討	90分
10回	ヨーク付きフレアースカート	復習　ヨーク付きフレアースカート　ノート作り	90分
11回	カラーの補正	復習　カラーの補正　ノート作り	90分
12回	ピーターパンカラー	復習　ピーターパンカラー　ノート作り	90分
13回	コルシャールテーラーカラー	復習　コルシャールテーラーカラー　ノート作り	90分
14回	プリント確認	復習　教科書暗記、プリント整理	90分
15回	まとめ（フィードバック　ファイル点検）	復習　プリント確認	10分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目　授業内小テスト、ファイルを一人ずつ採点し返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	出席を毎回確認する
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	35%	スタイル画とパターン
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%	15回目で課題返却
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

PATTERN　MAKING　Ⅰ・Ⅱ　　杉野学園

配布プリント

■参考文献

パターンメーキング技術検定試験２級試験問題　　一般財団法人日本ファッション教育振興協会

ISO　8559　　Garment construction and anthropometric surveys　Body dimensions

■オフィスアワー・研究室

木曜日　10：40～12：00　【連絡教室】インダストリアルパターン研究室（第３校舎２階）

■備考

日程により予定変更あり

人体工学設計技術Ⅱ

住野　雅子

2年　後期　　インダストリアル必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

人体工学・計測・設計技術Ⅰで学んだ人体と衣服の空隙量にともなう理論展開をする。人体の動きやそれにともなう素材を学修する。［歩く］という動きの中に必要な運動量を実験する。日常生活における動作を服の中に取り入れることによって、空隙量の変化を学修する。Customizing Design bodyを製作しそのサイズで販売した指導者の経験をいかし指導を行う事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

パタンナーとして、正確に修正が出来、様々なデザイン画を読み取ることができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

インダストリアルパターンコース必修科目で卒業認定・学位授与の該当授業科目である。次世代におけるハイブリットなパタンナー育成を目指す。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	衣服設計と人体のメカニズムについて 人体を3次元から平面展開する理論	予習　A4ファイル1冊	10分
2回	首に対する衿の考え方BNPとFNPにおける前屈、後伸の可動範囲からの知見で衿を作るとは何か考える。	復習　首の形状を描く	90分
3回	肩における傾斜における補正値を理解する。 体型によるデザイン　1 体型によるデザイン　2	復習　カラーと肩の形状をまとめる	90分
4回	コートのバリエーション（スタイル画とパターン）	復習　コート　プリント整理	90分
5回	ジャケット（スタイル画とパターン）	復習　ジャケット　プリント整理	90分
6回	デニム素材（スタイル画とパターン）	復習　1980年代をまとめてくるNO.1	90分
7回	ファーとレザー（スタイル画とパターン）	復習　1980年代をまとめてくるNO.2	90分
8回	生産管理1（布選びからのスタイル画）	復習　布からのデザインの考案NO.1	90分
9回	パターメーキング3級対策模擬試験	復習　試験準備	90分
10回	テーマを決めて布からのスタイル画を描く	復習　テーマについて考案してくる	90分
11回	各自で選んだスタイル画で、パターンの確認を行う。	復習　パターン確認	90分
12回	プレゼンテーションからのグループ分け	復習　グループ間の情報交換	90分
13回	配布プリントのまとめ	復習　プリント整理	90分
14回	人の動きを含め、服の空隙量を考える。劇団山の手事情社とコラボレーションによる実験。オドラデク	復習　感想文A4縦　横書き　表紙付ける	90分
15回	フィードバック　ファイル点検　感想文提出	復習　まとめ	10分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目　スタイル画とパターンを提出確認し、適切かどうか考慮し評価する。一人ずつ採点し、返却する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	35%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%	15回目でファイル返却
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

PATTERN　MAKING　Ⅰ・Ⅱ　　杉野学園

配布プリント

■参考文献

パターンメーキング技術検定試験3級試験問題　　一般財団法人日本ファッション教育振興協会

ISO　8559　　Garment construction and anthropometric surveys　Body dimensions

■オフィスアワー・研究室

水曜日12：30～13：30【連絡教室】インダストリアルパターン研究室（第3校舎2階）

■備考

日程変更あり　3級パターンメーキング検定取得あり

テキスタイルデザインⅠ

山川 智子

2年　前期　　テキスタイル必修　　（ 2単位　実習 ）

■授業の方針・概要

この授業は主に「織物」に関するデザイン、表現技法などの基礎的なことから学び、専門用語、用具、制作工程を理解し、作品制作することによって修得する入門的な内容で授業構成している。自由な発想で「織物」を考えることができる基本的な基礎知識、技術を修得することを方針とする。

■到達目標（学修成果）

基本的な制作技術を使って小作品が自立して制作できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	織物組織Ⅰ　経糸の準備	(予習)身の回りの「布」を意識的に見る。分解鏡で身の回りの「布」を観察する	45分
2回	織物組織Ⅰ　織布準備	（予習）織機・組織の仕組みを理解する	45分
3回	織物組織Ⅰ　織布	（復習）糸配列と組織の関係を理解し、先染めによる豊富なバリエーションを観察する	30分
4回	織物組織Ⅰ　織布　測定・まとめ	（復習）身の回りの「三原組織」各種の製品を見つけ、違いについて考える	30分
5回	織物組織Ⅱ　経糸の準備	（予習）組織と経緯糸の関係性を観察する	45分
6回	織物組織Ⅱ　織布準備	（復習）組織と織機との関係性を考察する	30分
7回	織物組織Ⅱ　織布　測定・まとめ	（復習）デザインについて市場調査する	30分
8回	マフラーの制作（市販の糸からの設計、織布）織布準備	（復習）市販糸のバリエーションと織について考える	45分
9回	マフラーの制作（市販の糸からの設計、織布）織布	（予習）織機の使い方とその意味を再考する	30分
10回	マフラーの制作（市販の糸からの設計、織布）織布　始末	（復習）設計に対し、再度検討し糸の形状や太さと織の関係について考える	30分
11回	刺繍ミシンを使用した生地の作成①図案作成	（予習）刺繍のデザインのためのリサーチを行う	60分
12回	刺繍ミシンを使用した生地の作成②刺繍データ作成	（復習）Photoshop・Illustratorの使用方法を確認する	30分
13回	刺繍ミシンを使用した生地の作成③制作①	（復習）刺繍データの作り方の確認をする	30分
14回	刺繍ミシンを使用した生地の作成④制作②	（予習）刺繍ミシンの使用方法について確認をする	30分
15回	まとめ・プレゼンテーション	（復習）前期の学修についてまとめる	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションを行う。課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

・オリジナルテキスト配布

■参考文献

・適宜資料配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

・ダイイングテクニックⅠに関連した授業展開である。

テキスタイルデザインⅡ

田口　雅子

2年　後期　　テキスタイル必修　　（　2単位　実習　）

■授業の方針・概要

テキスタイルデザインⅠの延長上に位置する科目である。基礎的な要素を持ちつつ、応用力を身につける内容で進める。高機手織機を使用し、「織物」の用途を意識して設計・制作できる能力の育成を方針とする。

■到達目標（学修成果）

自立してイメージを織物として具現化し、色彩との関連を意識して制作できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ビックストールの制作 織布準備・織布1	（予習）糸の種類・太さと織物の厚さを意識しながらリサーチする	30分
2回	ビックストールの制作 織布2	（復習）前期課題の設計書の確認をする	60分
3回	ビックストールの制作 織布3	（復習）素材と風合いの確認をする	30分
4回	ビックストールの制作 織布4　始末・測定	（復習）素材と風合いの確認をする	30分
5回	綿バックの制作 織機の準備	（予習）具体的な使用をイメージしたデザインをし、技法と特徴や制作工程の確認をする	60分
6回	綿バックの制作 織布・始末・縫製	（復習）最終的な仕上りを明確にイメージし、バックを完成させる	30分
7回	織の表現　綴織の制作　　デザイン　経糸準備	（予習）綴れ織の特徴ついて調査する	100分
8回	織の表現　綴織の制作　　織布	（予習）綴れ織の歴史ついて調査する	45分
9回	応用課題２　コンクール形式 デザイン・面接・設計	（復習）コンクールに向け、リサーチ、準備を行う	45分
10回	応用課題２　コンクール形式 サンプル	（復習）企画、設計について自ら考えて実行できるかの確認を行う	180分
11回	応用課題２ 制作	（予習）課題について理解し、技法について調べ考案する	60分
12回	応用課題２ 制作	（予習）素材などのリサーチをする	60分
13回	応用課題２ 制作	（復習）デザインと結果を照合する	60分
14回	応用課題２ プレゼン準備	（復習）プレゼンの準備をする	60分
15回	コンクール形式：プレゼンテーション、審査会、外部評価員による講評、まとめ	（復習）結果について理解する	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションもしくは課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	60%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	10%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書

・オリジナルテキスト配布

■参考文献

・適宜資料の配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

・博物館、美術館および関連した展示会などの見学

■備考

・ダイイングテクニックに関連した授業展開である
・ダイイングテクニック・テキスタイルデザインⅠの単位を取得していること
・コンクールは外部評価員による審査会の実施

ダイイングテクニックⅠ

山川　智子・鎌田　美恵

2年　前期　　テキスタイル必修　　（　2単位　実習　）

■授業の方針・概要

作を通して「糸・布染め」を基本とする、糸・布準備、精練、染料と染め方、染料による色彩の特徴などを学修する。実践的な染色方法の基本を、ウール・綿素材を使って学修し、染色の基礎力を身につけることを方針とする。

■到達目標（学修成果）

染色工程の基礎として、染料と助剤、染法を学修し、目指す色彩に染色できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	染色基礎ガイダンス　染色と染法基礎	（復習）繊維に応じた様々な染色方法を理解する	30分
2回	ウール糸染め染色見本の作成準備	（復習）染色方法を顧みる	30分
3回	ウール糸染め・まとめ	（復習）色の表現を理解する	30分
4回	カラー織見本の作成 織布準備	（復習）経緯糸の交錯による色彩変化について観察する	30分
5回	カラー織見本の作成 織布	（復習）色、濃度、糸の交錯による変化を整理する	30分
6回	フェルト制作　デザイン　準備	（予習）フェルトを基布として様々な表情になる方法を調査する	45分
7回	フェルト制作　フェルティング	（予習）柄と手の力との関係、様々な表現を整理する	45分
8回	フェルト制作　始末	（予習）細かいデテールについてどのように仕上げるか考え、必要な材料を用意する	30分
9回	布染め基礎　シーチング精練・染色(グループワーク)	（復習）各精練剤の効果を考察しレポート作成	60分
10回	布染め基礎　ろうけつ染　　カラーサンプル作成	（復習）ろうけつ染について調べレポート作成	60分
11回	絞り染(基礎)　糸入れ・絞り	（復習）学修した以外の絞り技法を調べレポート作成	60分
12回	絞り染(基礎)　染色(グループワーク)　　糸解き	（予習）絞り	60分
13回	絞り染(応用作品制作)　デザイン・糸入れ・絞り	（予習）修得した技法を活かしたタペストリーのデザイン考案	60分
14回	絞り染(応用作品制作)　染色　後処理	（予習）絞りの実践	60分
15回	絞り染　ディスカッション　講評	（予習）作品提出の準備	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

オリジナルテキスト配布

■参考文献

適宜資料配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

・テキスタイルデザインに関連した授業展開である

ダイイングテクニックⅡ

田口　雅子・鎌田　美恵

2年　後期　　テキスタイル必修　　（　2単位　実習　）

■授業の方針・概要

ダイイングテクニックⅠの延長上に位置する科目である。植物性繊維に目を向けセルロース系の糸染めを修得する。原材料の異なる素材の染色実習を通して、素材と染料・助剤の使い方を学び、染色技法の視野を広げることを方針とする。

■到達目標（学修成果）

綿・ウールなどの原材料違いによる染色方法の違いを修得して、イメージした色を自立して染められる知識、技術の基礎的な内容を修得することと布染めにおける伝統的な染色方法を修得することができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ビックストールの作成 紡毛糸の染色準備・精練	（予習）糸取りおよび、毛糸の精練の方法について確認する	30分
2回	ビックストールの作成 紡毛糸の染色	（予習）毛糸の染法について確認する	30分
3回	綿素材バックの制作 綿糸の精練・染色	（復習）綿糸の精練について理解する	30分
4回	綿素材バックの制作 綿糸の染色	（復習）綿の染法について理解する	30分
5回	織の表現　ノッティング（点描の色彩） 経糸の準備	（予習）毛足の長さと密度について考える	40分
6回	織の表現　ノッティング（点描の色彩） 織布	（復習）用途について考える	45分
7回	織の表現　ノッティング（点描の色彩） 織布　始末	（復習）色糸のミックス効果について考える	30分
8回	型紙捺染(一型)　デザイン　型彫り　紗張り　地染	（予習）デザイン考案 （復習）型染につい調べレポート作成	60分
9回	型紙捺染(一型)　捺染試染　捺染　蒸し　水洗	（復習）浸染・捺染方法のまとめ	15分
10回	型紙捺染(一型)　藍染	（予習）藍染について調べレポート作成	60分
11回	型紙捺染(一型)　藍染抜染　ソーピング	（復習）抜染方法のまとめ	60分
12回	型紙捺染(複数型)　生地精練(グループワーク) 型彫り　試染	（予習）デザイン考案　色彩計画	60分
13回	型紙捺染(複数型)　捺染　蒸し　水洗　後処理	（予習）型彫りの実践 （復習）型紙捺染のまとめ	60分
14回	型紙捺染　ディスカッション　講評	（予習）作品提出の準備	45分
15回	まとめ	（復習）後期作品を振り返り、技法における表現の特徴を理解する	50分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションもしくは課題返却時に講評をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

オリジナルテキスト配布

■参考文献

適宜配布

■オフィスアワー・研究室

水曜日（16：00～17：00）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考

・テキスタイルデザインに関連した授業展開である
・テキスタイルデザイン・ダイイングテクニックⅠの単位を修得していること
・「色彩能力検定3級」検定試験を受検する

素材設計論Ⅰ

田口　雅子

2年　前期　　テキスタイル必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

織物設計の基礎である繊維、糸、その構造を示す組織について詳しく解説する。組織図が理解でき、糸の太さや形状が布の風合いに影響し、さらに「服の着心地」に影響するという基本的な概念を身につけることと知識を活かし設計できる基礎能力を身に着けることを授業の方針とする。

■到達目標（学修成果）

テキスタイルデザイン・ダイイングテクニックⅠ・Ⅱの課題に対して具体的な設計を理解し、自立して設計し、糸量・染料の算出ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入　テキスタイルとは	（予習）身近に使われる布のリサーチ・考察する	45分
2回	設計1「組織Ⅰ」組織図36種類の作成 順通しによる基本的な組織図の表現と設計、糸量の算出	（予習）配布したオリジナルテキスト「組織」とは何か考える	30分
3回	設計2「組織Ⅱ」組織図5種類の作成 乱通しによる基本的な組織図の表現と設計、糸量の算出	（予習）組織によるバリエーションと通しについて考え「テキスト組織Ⅱ」を読む	30分
4回	組織図の仕組み・書き方について	（復習）身の回りにある糸配列や組織による織表現についてリサーチする	30分
5回	設計3「マフラー」の設計　市販糸の長さからの設計	（予習）身の回りの繊維製品について 糸と織物組織の関係でリサーチする	30分
6回	染色理論Ⅰ	（予習）染色計算について確認する	45分
7回	染色理論Ⅱ	（復習）糸の形状と密度について確認する	60分
8回	染色・織物道具の名称と使用方法 小テスト	（復習）制作に必要な道具類の名称と操作方法について確認する	30分
9回	設計4「ビッグストール」の設計　　グループワーク ウールによる多色ボーダー柄の提案　話し合い・工程確認	（予習）マフラー、ストールについてリサーチする	90分
10回	PCによる織物作成「組織Ⅰ」「組織Ⅱ」	（予習）PC上でのテキスタイル表現について理解する	30分
11回	設計5「綿バック」の設計 綿素材による立体物のデザイン	（予習）テキスタイルバックをリサーチする	30分
12回	設計5「綿バック」の設計 綿素材による立体物のPCデザイン、設計	（予習）立体物を平面に捉え、テキスタイル柄を考案する	30分
13回	素材とテキスタイル1　フィールドワークによる調査	（復習）身近にある布を再度リサーチし、何に気づきがあるか確認する	45分
14回	素材とテキスタイル2　レポート制作とプレゼンテーション	（予習）繊維の特徴と糸形状、生地の風合いを確認する	30分
15回	講評、解説、まとめ　　小テスト	（復習）学修した内容をまとめる	45分

■フィードバック方法（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストを行い理解の確認を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

授業内小テスト、プレゼンテーション、課題等から評価します

■教科書　・オリジナルテキスト（テキスタイルデザイン・ダイイングテクニック共有）

■参考文献　適宜配布

■オフィスアワー・研究室

月曜日（11：00～12：30）テキスタイルデザイン研究室（3011）
水曜日（10：40～12：10）テキスタイルデザイン研究室（3011）

■備考　なし

素材設計論Ⅱ

土岐　千春

2年　後期　　テキスタイル必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

素材設計論Ⅰで学んだことにデザイン展開の要素を加え、デザインをおこすための基礎となる描画力と商品企画の基礎を学修する。講師の企業実務に基づきファッション業界におけるテキスタイルプランナーの役割と業務の現状について解説する。

■到達目標（学修成果）

ファッションテキスタイルの基礎を修得し、アイディアからデザインへの展開と情報収集に裏付けされた商品企画、プレゼンテーションが行えるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

テキスタイルデザインコース必修科目で卒業要件科目

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業の内容と計画の説明 ・テキスタイルプランナーの役割と業界の現状を解説	予習:テキスタイルプランナーの業務についてリサーチする	30分
2回	先染め、後染め、ジャカード、プリント、レースなどの素材とデザインの位置づけ	予習:各素材について調査しサンプルを集める	60分
3回	描画の基礎： デッサンを通して写実的描画を学ぶ	予習:デッサンの方法、作品をリサーチする	60分
4回	描画の基礎： 水彩画を通して写実的描画を学ぶ	予習:水彩描画の方法、作品をリサーチする	60分
5回	プリント柄デザインへの展開　　※アクティブラーニング 写実的な表現からデザインに展開する	復習:対象物の特徴をいかしてデザイン化が出来たか確認する	30分
6回	カラーバリエーションや柄レンジの作成 バリエーション作成のポイント解説	予習:プリント柄のカラーバリエーションについてリサーチする	30分
7回	トレンド分析と市場調査 トレンド情報を分析し企画に反映させる方法	予習：コレクション雑誌(GAP)やトレンド資料を見て概要を理解する	60分
8回	企画におけるコンセプト、テーマのたて方 デザインと言葉による表現の関係性	予習:コンセプトやプレゼンテーションに使われる言葉をリサーチする	30分
9回	素材の特徴と適した用途について ・服に使われる素材を確認し特徴を解説	予習:服の素材・取扱い表示を確認して使われる素材をリサーチする	30分
10回	デザインにおける構図とリピート ・リピートの必要性と作り方を学ぶ	復習:プリント柄のリピートを読みとり送りを確認する	60分
11回	リピートのついた図案の作成 ・絵とプリント図案の違い	予習：プリント柄の資料を集める	30分
12回	商品企画におけるコンセプトマップの作成 ・プレゼンテーションにおけるビジュアルの重要性	予習:トレンドを意識した商品企画になるようトレンド分析を行う	30分
13回	コンセプトに合わせたデザインの作成 ・カラーバリエーションやカラーイメージの作成ポイント	予習:ビジュアル作成のための資料集め	60分
14回	プレゼンテーションを通してデザインの表現方法を学び 相互評価を行う　　※アクティブラーニング	予習:プレゼンテーションのシナリオ作成等の準備	60分
15回	まとめ ・課題内容の振り返りと修得内容のまとめ	学習内容の振り返りと改善点の確認	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題作品は採点後、返却します。授業内、または返却時に講評します。

■成績評価の方法・基準

授業態度、姿勢	30%	
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	課題作品　表現力、完成度
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

適宜プリント資料配布

■考文献

図書館内資料等

■オフィスアワー

連絡先　テキスタイルデザイン研究室（3011）

木曜日（9:00～12:10）

■備考

素材設計論Ⅰを修得していること

ファッションプロダクトデザイン論

肉丸 美香子

2年　前期　　プロダクト必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインの世界を、企業(製造業・販売、流通業)の現状と消費者の視点にたち、外部企業の現役の担当者により講義を行う。学生にとり自身の将来にどのような職域や職種が存在するのか、又現在の学びがそれらとどのような繋がりがあるのか数多くの疑問点や関心事があると思われる。更に企業サイドではどのような人材を必要としているのかを企画、制作、製造、販売などの部門ごとに実際の仕事の内容を具体的に学修する事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

自身の特性や能力を生かし今後の学修をより効果的な学びに繋げることができる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、ファッションプロダクトデザイン論の概要（肉丸）	予習：シラバスを読む	30分
2回	ファッションプロダクトデザインの職域について（肉丸）	復習：実際に店頭へ行って確認する	30～60分
3回	パリコレ・東コレの商品開発の現場での経歴と学んだこと。私が洋服だけでなく、帽子作りに惹かれた理由。	予習：好きなファッションプロダクトとその理由を調べてくる	30～60分
4回	アイディアから商品レベルまでのプロセスについて。表面のデザインを支えるための仕立て方や、裏側の構造を探究する楽しさを知る。（レポートの課題）	復習：実際に帽子店に行ってリサーチする	30～60分
5回	資本主義経済の流れと消費(伊藤) ・供給と市場マインド ・日本の優位性（1）	復習：授業の内容を理解できるようにする	30～60分
6回	二極化市場での戦い方(伊藤) ・求められる企画と顧客創造について ・日本の優位性（2）	復習：自分の強み、独自性を考える	30～60分
7回	マーチャンダイジングについて(伊藤) ・狭義のMDから広義のMDへ ・日本の優位性（3）（レポートの課題）	復習：マーチャンダイザーになったつもりで、改良点を見出す習慣をつける	30～60分
8回	ファッションビジネスの仕組み(津曲) ・産業界を取り巻く環境　・産業界の構造	予習：「ファッション」とは何だろう？自分なりにまとめてくる	30～60分
9回	ファッション業界を数字で見てみよう(津曲) ・数字で見る環境　・業界という「川」の流れ	予習：川上・川中・川下について調べてくる	60～90分
10回	ファッションビジネスのサプライチェーンとは？(津曲) ・流通の構造　・流通新時代とは？	予習：SPAとは？事前研究してくる	60～90分
11回	ファッションビジネスに未来はあるか？(津曲) ・業界の利益構造とは？　・ファッション業界の未来とは （レポート提出）	予習：ビジネスの基本は何か？自分なりにまとめてくる	60～90分
12回	情報収集の目的と方法(池田) ・イタリア展示会取材・ストリートスナップ ・ファッション誌キーワードチェック	復習：情報収集の方法の確認をする	30～60分
13回	商品企画とデザイン→製造→販売の流れについて(池田) ・商品企画から商品開発までのフロー・店頭イメージの立案	復習：商品企画のフローチャートの確認をする	30～60分
14回	トレンド情報とファッションプロダクト③(池田) ・シーズントレンド情報・マーケットトレンド情報 （レポートの課題）	復習：シーズントレンド・マーケットトレンドとは何かを理解する	30～60分
15回	ファッションプロダクトデザイン論　まとめと解説(肉丸) 課題のフィードバックを行う 各先生方よりフィードバックが行われる。	復習：フィードバックされたものをもう一度確認する	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

4回、7回、11回、14回目にレポートを提出する。15回目に課題のフィードバックを行う。

■　成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	レポート提出
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書　必要に応じてプリントを配布する。

■参考文献　ブランディングの基本(安原智樹著)、マーケティングの基本(安原智樹著)、ジャルフィックトレンド情報誌

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日 11:00～12:00
【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室（第三校舎４階　３４０９）

■備考

東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

ファッションプロダクトデザインⅠ

野田　梓

2年　前期　　プロダクト必修　　（　2単位　演習　）

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながる基礎科目である。そもそも「ファッション」や「プロダクトデザイン」とは何なのか。デザインするとはどのようなことを指しているのか。これらの言葉の意味、内容を正しく理解しなければならない。その上で、実際にデザイン考案を行いモノ作りの楽しさ、厳しさを体験することに重点を置く。その後、段階的にデザイン条件をより複雑に設定し、課題制作を行っていく。

ファッションアイテムの中でも、特にバッグや靴は構造、機能、素材、色彩などの諸要素が直接デザインと強く結びついている。このことを強く意識し、デザイン能力を鍛え、物作りを行う内容である事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

初期のデザインイメージを、プロセスを通し発展させ、最終案に至るまでの流れを確認し、デザインの役割とモノ作りの意味を認識できる能力を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス ファッションプロダクトデザインⅠについての概要	予習：シラバスを確認	30分
2回	デザイン画の描き方-バッグ- ① 初期イメージスケッチから最終デザイン画まで	復習：バッグのデザイン画５点描く	30分
3回	デザイン画の描き方-帽子- ② デザイン画の描き方-靴- ③	復習：帽子/靴のデザイン画各５点描く	60分
4回	リサーチ、デザインソースの集め方、イメージ制作 個人面談(ディスカッション)	復習：リサーチしたものをまとめておく	60分
5回	紙モックアップ制作、プレゼンテーションの練習	復習：プレゼンテーションで講評を再確認しておく	60分
6回	【学外見学-(1)】 東京レザーフェア(TLF)　世界のカバン博物館	復習：世界のカバン博物館・東京レザーフェアの見学レポートを提出	60分
7回	革用特殊ミシンのトレーニング 平ミシン・腕ミシン・革漉き機の使い方	復習：各自ミシンの使い方の復習	60分
8回	革用特殊ミシンのトレーニング 加工、部分縫い①　ヘリ返し	復習：革の加工縫製サンプルを完成	60分
9回	革用特殊ミシンのトレーニング 加工、部分縫い②　金具類の取り付け	復習：金具の縫製サンプルを完成	60分
10回	【学外見学-(2)】 YKKものづくり館見学 YKKのプロダクト製品について	復習：YKKものづくり館見学レポートを提出	60分
11回	革を使って手縫いの道具入れを作る (1)デザイン画　(2)モックアップ（紙）	復習：モックアップを完成させる	60分
12回	革を使って手縫いの道具入れを作る (3)縫製	復習：縫製を完成させる	60分
13回	バッグの製図 (1)底マチ　(2)横マチ	復習：(1)底マチ (2)横マチ製図の確認	60分
14回	バッグの製図 (3)通しマチ　(4)金具の書き方	復習：(3)通しマチの製図の確認 (4)金具の書き方の確認	60分
15回	プレゼンテーション 課題作品に対する講評	復習：修正等の確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	作品の完成度・プレゼンテーション能力
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

『鞄・ハンドバッグ・小物』(社団法人日本皮革産業連合会)
『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』(日本革類卸売事業協同組合)

■参考文献

新かばん・バッグの商品知識(エフ・ワークス)
工業用ミシンと漉き機の基本操作とメンテナンス(STUDIO TAC CREATIVE)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日　13:00～14:00
【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎４階　３４０９)

■備考

東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

ファッションプロダクトデザインⅡ

高橋　大夢・大場　有希子・野田　梓

2年　後期　　プロダクト必修　　（ 2単位　演習 ）

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながる基礎科目である。
対象となるアイテムは多岐に渡る。特にバッグ・帽子・シューズ等のファッショングッズの果たす役割はとても重要である。それぞれの持つ基本的な機能・構造をよく理解し、バッグに加えて靴・帽子のデザインと制作を行う。バッグ・靴・帽子には多くの作業工程があり、デザイン画から制作までの基本的な流れを把握し、実物の完成までを学ぶ。徹底的なリサーチを行い、自らが所有し使ってみたいと感じると同時に一般ユーザーを更に満足させることを心がけデザインを考案する事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

初期のデザインイメージを、プロセスを通し発展させ、最終案に至るまでの流れを確認し、デザインの役割と物作りの意味を認識できる能力を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコースの必修科目で卒業要件単位となる。
ディプロマポリシーについては、専門教育課程の科目で服飾造形の基礎力を基に専門職として広く社会に受け入れられる人材の育成を目標とする科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	芯材を使用するトートバッグ制作①型紙、裁断	予習：シラバスを読む	60分
2回	芯材を使用するトートバッグ制作②縫製	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成	60分
3回	芯材を使用するトートバッグ制作③縫製、完成	予習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成	60分
4回	Ⅰ　レザートートバッグ制作 ①　モックアップ型紙制作	予習：トートバッグについてのリサーチを行っておく	30分
5回	②　モックアップ型紙制作、生地裁断	復習：型紙、裁断した生地の確認	60分
6回	③　モックアップ縫製、完成	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成	60分
7回	ファッション色彩検定試験対策講座	予習：試験対策としてテキストを熟読する	60分
8回	ファッション色彩検定試験対策講座	復習：試験対策としてテキストを熟読する	60分
9回	④　実物制作　縫製　本体制作	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに進めておく	60分
10回	⑤　実物制作　縫製　本体制作、完成	復習：時間内に終了できなかったものを次回までに完成させる	60分
11回	Ⅲ ガイダンス（帽子） ①種類・素材・歴史について	復習：種類や素材・歴史について確認する	60分
12回	②パターン作成→１枚の紙から帽子らしい立体の形を作成	復習：時間内に終了できなかった物を次回までに完成	60分
13回	③パターン作成→立体になった紙からパターン作成 縫製　生地を裁断	復習：帽子のパターンを完成	60分
14回	④　縫製　仕上げ	復習：遅れている作業をすすめ帽子を完成 予習：プレゼンテーションの準備	60分
15回	⑤　プレゼンテーション 帽子、レザートートバッグの作品　講評	復習：修正の確認	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーション及び提出物に関しては授業内で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業態度(欠席・遅刻も含む)
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%	作品の完成度・プレゼンテーション能力
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	20%	ファッション色彩検定試験を含む

■教科書

『鞄・ハンドバッグ・小物』(社団法人日本皮革産業連合会)
『レザーソムリエ資格試験公式テキスト』(日本革類卸売事業協同組合)

■参考文献

BAG DESIGN -A HANDBOOK FOR ACCESSORIES DESIGNNERS (FASHIONARY)
工業用ミシンと漉き機の基本操作とメンテナンス(STUDIO TAC CREATIVE)

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：金曜日　13:00～14:00
【連絡研究室】ファッションプロダクトデザイン研究室(第三校舎４階　３４０９)

■備考

ファッション色彩検定３級を受験する。
東京レザーフェア、ファッション雑貨フェアなど、各種展示会については授業の中で紹介をする。

デザインプロセス

桐山　征士

2年　前期　　プロダクト必修　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

架空のブランドを立ち上げ、ロゴマークのデザインをし、金属でエンブレムを制作する。

デザインは学習することで習得が可能である。デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。美術家兼デザイナーの担当教員のもと、アートとデザインの違いを認識するとこから始め、デザインの役割や、デザインのプロセス、コミュニケーション力をディスカッションしながら学んでいく。

デザインとは基本的に自己表現ではないことを忘れないこと。

■到達目標（学修成果）

デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。コミュニケーション能力が養える。ビジュアルコミュニケーションに不可欠な描写力、illustrator によるレイアウト能力、言葉を使いこなす能力が身につく。デザインにおけるニーズ(needs)・ウォンツ(wants)・シーズ(seeds)の中から、対象者に対するアプローチの仕方を選択する意味と目的が理解できるようになる。

全ての造形に関わる授業に必要なディスカッション・プレゼンテーションの基礎力を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコース必修科目。卒業要件科目。造形の課題全てに経験が活かせる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違いの講義　デザインプロセスの説明 実際にロゴデザインをしている担当教員が解説する	復習：講義で配布した資料をもとに内容を復習しておく。	60分
2回	既存のロゴの情報収集　まずはたくさんのデザインを集めることで、イメージの幅を広げる。	復習：帰宅時間などを利用し、街中にあるさまざまなロゴやマークを観察する。	60分
3回	既存のロゴの分析　既存のロゴのデザインコンセプトを調べる。コンセプトとカタチの関連性を読み解く。	復習：さまざまなロゴの成り立ちを考察、分析する。	60分
4回	情報収集・分析②　ロゴに限らず、ピクトグラムや標識などを調べ、コンセプトとカタチの関連性を読み解く。	復習：さまざまなピクトグラムや標識の成り立ちを考察、分析する。	60分
5回	エスキース①　コンセプトを立案する。担当教員、助手、学生の3者でディスカッションをする。	予習：次回に向けてディスカッションの情報を整理する。	60分
6回	エスキース②　まずはたくさんのエスキースをする。数を出すことを目的とする。3者ディスカッションをする。	予習：次回に向けてエスキースの数(バリエション)を増やしておく。	60分
7回	エスキース③　数のエスキースから良いものを選び、質をあげるエスキースをする。3者ディスカッションをする。コンセプトとの関係を確認する。	復習：コンセプトとロゴの関係を再確認し、ロゴの密度を上げておく。	60分
8回	Illustrator の使い方講義　Illustrator を使ってデザイン活動をしている担当教員による講義。図形制作に特化した、ベジェ曲線の扱い方とパスファインダー扱いを学ぶ。	復習：Illustrator の使い方の復習をする。	60分
9回	Illustrator による作図　エスキースをスキャンしパスを引く。わからないことは積極的に質問する姿勢を身につける。	予習：作図を進めておく。次週のボード制作のための資料を集めておく。	60分
10回	illustrator による作図②　ロゴをデザインした図形とコンセプトをプレゼンボード用にレイアウトする。基本的なレイアウトの方法を講義する。	復習：ボードを完成させる。ロゴの無駄なパスを削除・合体させておく。	60分
11回	プロッターによるシート制作　真鍮板を塩化第二鉄で腐食。	授業の空き時間で制作を進めておく。	20分
12回	工具・機械の安全講習及び練習　美術家(金属彫刻)である担当教員とジュエリー作家の助手が実演を交えて講習をする。	授業の空き時間で制作を進めておく。次回の工程を計画しておく。	20分
13回	金属加工①　主に糸鋸による切断	授業の空き時間で制作を進めておく。	20分
14回	金属加工②　主にヤスリによる研磨	授業の空き時間で制作を進めておく。	20分
15回	色上げ　完成　メッキなどを施し、表面処理を行う。	今後の資料としてデータを整理する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分は manaba を用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　適宜プリントを配布

■参考文献

プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ／JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会（著）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考

初回はパソコン教室で授業を行う。初回に 300 円の材料費と消耗品代を集める。

アクセサリーデザイン

桐山　征士

2年　後期　　プロダクト必修　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

２年前期のデザインプロセスの経験を活かし、金属を用いたアクセサリーをデザインし、制作する。ただし、アクセサリーをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。美術家兼デザイナーの担当教員の指導のもと、デザインとアートの違いを認識するとこから始め、デザインの役割とは何かをデザインプロセスに沿った授業の中で体験し学んでいく。

デザイナーとして必要な経験は、圧倒的な量の蓄積である。ひとつの成功の裏には膨大な量のトライ&エラーが必要だ。プロフェッショナルと素人の違いはここにある。ひとつの課題に対し、ひとつの答えを導き出すための時間と労力を惜しまない情熱を育むことと、圧倒的な量をこなすことを課題とする。

また、コミュニケーションの訓練を積み重ねることで、的確に自分の考えを伝える「言葉という道具の操り方」を身につける。教員と積極的にディスカッションする姿勢が成長の鍵となる。

■到達目標（学修成果）

ターゲットの設定が重要であるという意識が芽生える。デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション力を養う。ビジュアルコミュニケーションに不可欠な描写力、言葉を使いこなす能力を養う。デザインにおけるニーズ(needs)・ウォンツ(wants)・シーズ(seeds)の中から、対象者に対するアプローチの仕方を選択する意味や目的を理解できるようになる。

全ての造形に関わる授業に必要なディスカッション・プレゼンテーションの基礎力を身につける。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

ファッションプロダクトデザインコース必修科目。卒業要件科目。造形の課題全てに経験が活かせる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違い･デザインプロセスの講義(美術家兼デザイナーの担当教員)　アクセサリーの分析	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集　幅広い情報を集めイメージの幅を広げる。既成概念を取り払う。	予習：アクセサリーを見に行く。	30分
3回	情報収集・分析　アクセサリーのコンセプトやターゲットを読み解く。	復習：アクセサリーを見に行く。コンセプトを分析する。	30分
4回	コンセプトの設定　担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習ベースとなる思想の確認。誤差の修正。	30分
5回	ターゲットの趣向の考察　担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：ターゲットの行動範囲の現地調査。	30分
6回	エスキース①　量のエスキース　バリエーションを出す。 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習:エスキースのバリエーションを出す。	60分
7回	エスキース②　質のエスキース　ブラッシュアップ 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習:エスキースをブラッシュアップする	60分
8回	図面作成もしくはレンダリング制作　視覚的コミュニケーション力を養う。	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
9回	制作②　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
10回	制作③　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
11回	制作④　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
12回	制作⑤　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
13回	制作⑥　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
14回	制作⑦　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
15回	制作⑧　表面処理　完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　適宜プリントを配布

■参考文献　プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ／JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会（著）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006 工芸室

■備考

初回はパソコン教室で授業を行う。初回に300円の材料費と消耗品代を集める。

デジタルデザインワークⅠ

川越　健太

2年　前期　　プロダクト必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

最も頻繁に利用される画像編集ソフトウェアであるAdobe Illustrator及びPhotoshopの使い方を学ぶことを通して、デザインの基礎的な考え方を身につけていく授業である。

表現のためには、道具と技術、そして素材が欠かすことのできない要素としてある。これらの要素は相互に様々な働きをするため、一概に順序立てることができない。一方、視覚表現には論理的な構造（ルール）がある。それは決してただ恣意的に作られているのではない。道具（アプリケーション）は、その論理構造を技術のパッケージとして保存している。だから私たちがアプリケーションについて学ぶことは、それらが成立した技術について学び、さらにその先にある視覚表現の論理構造を学ぶことに繋がる。そしてその論理構造（が適用された生産物）＝表現は、再び素材に制約を受けることになる。こうした連続的な関係性を理解し、アプリケーションを自らの表現のための道具として扱うことができるようになることを目指す。

■到達目標（学修成果）

Illustrator, Photoshop/Lightroomの基本的な操作方法を修得することにより、デザイン／レイアウトされたものの意味を読み取れるようになる力を身につけることができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションプロダクトデザインコース必修科目で卒業要件科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期ガイダンス（前期授業内容の確認、自己紹介など）	復習:授業内容の確認	30分
2回	メディア・リテラシー1（PCの使い方について）	復習:PCの基本的な考え方・操作方法について確認する	120分
3回	メディア・リテラシー2（Webツールの使い方について）	復習:各種サービスの使い方、自分に合ったツールを見つける	120分
4回	素材を加工する1：ベクターとビットマップ	復習:画像の形式の違いを理解する	60分
5回	素材を加工する2：写真の基礎1	復習:露出の考え方、カメラの基本操作	60分
6回	素材を加工する2：写真の基礎2	復習:RAW現像、レタッチの作業工程、	60分
7回	素材を加工する3：レイアウトの基礎	復習:Illustratorの基本操作	60分
8回	素材を加工する3：文字と文字組み	復習:Illustratorの基本操作	60分
9回	レイアウト演習1	復習:Illustratorの基本操作	60分
10回	レイアウト演習2	復習:Illustratorの基本操作	60分
11回	前期末制作1　［課題発表／制作］	復習:課題に対して各自テーマを考える／エスキス（下図）をつくる	120分
12回	前期末制作2　［制作］	復習:課題に対して各自テーマを考える／エスキス（下図）をつくる	120分
13回	前期末制作3　［制作］	復習:エスキスをつくる／各自制作を進める	120分
14回	前期末制作4　［制作］	復習:素材の収集／各自制作を進める	120分
15回	前期末制作5　［提出／講評］	予習:作品提出の準備	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常に質問を受け付ける。また各提出物に対しては都度講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

水曜日 13:00-15:15　研究室：第3校舎4階3409

■備考

履修人数によって授業計画を若干変更する可能性がある。

デジタルデザインワークⅡ

川越　健太

2年　後期　　プロダクト必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

前期で学習した内容を踏まえ、Adobe Illustrator の操作方法の応用学習として図形表現、InDesign を使ったエディトリアル・デザインについての理解を深める授業である。

表現のためには、道具と技術、そして素材が欠かすことのできない要素としてある。これらの要素は相互に様々な働きをするため、一概に順序立てることができない。一方、視覚表現には論理的な構造（ルール）がある。それは決してただ恣意的に作られているのではない。道具（アプリケーション）は、その論理構造を技術のパッケージとして保存している。だから私たちがアプリケーションについて学ぶことは、それらが成立した技術について学び、さらにその先にある視覚表現の論理構造を学ぶことに繋がる。そしてその論理構造（が適用された生産物）＝表現は、再び素材に制約を受けることになる。こうした連続的な関係性を理解し、アプリケーションを自らの表現のための道具として扱うことができるようになることを目指す。

■到達目標（学修成果）

Illustrator, Photoshop の基本的な操作方法を修得することにより、デザイン／レイアウトされたものの意味を読み取れるようになる力を身につけることができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションプロダクトデザインコース必修科目で卒業要件科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	後期ガイダンス	復習:前期の復習／後期授業内容の確認	30分
2回	ロゴをつくる1	復習:ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
3回	ロゴをつくる2	復習:ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
4回	ロゴをつくる3	復習:ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
5回	ロゴをつくる4	復習:ロゴ制作の考え方／ILの応用	120分
6回	連続模様パターンをつくる	復習:反復するパターンの制作／ILの応用	120分
7回	情報を整理する／ページネーションと編集1	復習:ポートフォリオの考え方／Adobe InDesignの使い方について	120分
8回	情報を整理する／ページネーションと編集2	復習：ポートフォリオの考え方／Adobe InDesignの使い方について	120分
9回	後期末課題1［課題発表／制作］	復習:課題に対して各自テーマを考える／エスキス（下図）をつくる	120分
10回	後期末課題2［制作］	復習：課題に対して各自テーマを考える／エスキス（下図）をつくる	120分
11回	後期末課題3［中間発表／制作］	予習:制作プランのプレゼンテーションの準備	120分
12回	後期末課題4［制作］	復習：各自制作を進める	120分
13回	後期末課題5［制作］	復習：各自制作を進める	120分
14回	後期末課題6［制作］	復習：各自制作を進める	120分
15回	後期末課題7［提出／講評］	予習：作品提出の準備	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常に質問を受け付ける。また各提出物に対しては都度講評を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

火曜日 09:45-12:10　研究室：第3校舎4階3409

■備考

履修人数によって授業計画を若干変更する可能性がある。

プロダクトデザイン演習Ⅰ

日比　淳史

2年　後期　　プロダクト必修　　（　2単位　演習　）

■授業の方針・概要

ファッションプロダクトデザインコース専門課程につながるデザイン基礎科目として、平面/立体デザイン作品の制作演習を行います。この授業では国内外での作品発表、環境造形、メディアや店舗/空間/グラフィック、企業デザイン顧問の業務実績がある担当教員の経験を生かし、デザインの方法（発想・展開・定着・表現・伝達）を実施します。

■到達目標（学修成果）

学生はこの科目を履修し目的を達成すれば、発想力の柔軟性、オリジナル性高いデザイン力を身に付けることができプレゼン、コミュニケーション力も鍛えられます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目です。プロダクトデザインコースの必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	授業ガイダンス / デザインの基礎的考察と著作権の解説。小課題の実施。	復習：著作に関する注意事項の復習 予習：次回課題の準備	180分
2回	デザイン基礎プログラム① オリジナルフォントデザイン演習/提出	復習：オリジナルアイディアについて再考 予習：次回課題の予習	180分
3回	デザイン基礎プログラム② ジャケットのデザイン演習/提出	復習：オリジナルデザインについて再考 予習：次回課題の予習	180分
4回	デザイン基礎プログラム③ 缶飲料のラベルデザイン制作/提出	復習：構造上のデザイン特性の再考 予習：次回課題の予習	180分
5回	デザイン基礎プログラム④ 立体カードの制作/提出	復習：立体構造について再考 予習：プレゼンテーションの準備	180分
6回	提出作品のプレゼンテーション。ディスカッションと講評の実施。	復習：講評内容について再考 予習：次回課題の予習	180分
7回	発想強化プログラム。モチーフの観察とインスピレーションをデザインに展開する演習。	復習：展開する発送力について復習 予習：コラージュのための素材画像の準備	180分
8回	デザイン演習プログラム。包装紙をイメージしたコラージュ作品の制作。	復習：提出作品についての再考 予習：プレゼンテーションの準備	180分
9回	コラージュ作品を包装紙に見立て梱包の検証。プレゼンテーション及びディスカッション。	復習：講評内容の考察 予習：ブラッシュアップのための準備	180分
10回	デザイン演習プログラム。ケント紙による立体造形作品の制作。	復習：多面体の再考 予習：プレゼンテーションのための準備	180分
11回	立体造形作品発表とディスカッションおよび講評。	復習：立体造形に関する復習 予習：次課題のデザインイメージ予習	180分
12回	デザイン実践プログラム。ランプシェードの制作。	復習：途中経過の考察 予習：ブラッシュアップのための準備	180分
13回	ランプシェードの制作（ブラッシュアップ）および完成提出。	復習：制作作品の構造とデザインの確認 予習：プレゼンテーションのための準備	180分
14回	ランプシェード作品発表とディスカッションおよび講評。	復習：提出作品について再考 予習：後期作品総評のための準備	180分
15回	プロダクトデザイン演習Ⅰ総評、小課題と解説	復習：講評内容の復習と、今期提出作品を振り返り、今後の生かし方の考察を行う	180分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

作品提出後に解説やディスカッションを設け採点と返却をする。質問は授業時間外でもＥメールにて受け付ける。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	理解度、積極性、授業態度、出席状況を加味する
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	作品完成度、アイディア、デザイン性、表現力を評価
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

必要に応じて資料を配布

■参考文献

適宜紹介

■オフィスアワー・研究室

授業前後は講師控室または教務課まで連絡してください。

■備考

デザイン作業に必要な画材、筆記用具などは準備してください。
進度により課題内容を変更する場合があります。

消費者行動論Ⅰ

中山　英士

2年　後期　　ビジネス系必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

消費者行動に関わる基本的な概念を紹介するとともに、消費者行動の諸理論をマーケティング活動へと展開させる実践方法について企業にコンサルティングを行っている経営コンサルタントの実務家教員から示し、その手法を得ることを方針とします

■到達目標（学修成果）

① 消費者行動の基本的な概念を把握できる（消費者ニーズ・買い物行動・購買意思決定等）

② 消費者行動に基づくマーケティング活動への展開方法を把握できる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。ファッションビジネス系学生の共通必修で、ファッションビジネスを理解し、応用する理論の基礎力向上に資する科目です

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	【イントロダクション】 消費者行動とは何か	予習 ： シラバスを読み講義の全体構成を把握	30分
2回	消費者ニーズ	予習 ： アパレル業界における消費者ニーズの変化についての考察を整理	30分
3回	買い物行動	予習 ： 直近の買い物では、自分自身の何の欲求を満たしたかを内省し整理	30分
4回	買い物の意思決定メカニズム	予習 ： 直近の買い物について、購買に至った経緯を振り返りプロセスを整理	30分
5回	消費者行動とマーケティング活動	【レポート提出】 実体験における消費者行動のプロセスを分析	60分
6回	顧客戦略（STP）	復習 ： STPの一連の流れを理解	30分
7回	消費者行動の分析（定性調査・定量調査）	復習 ： 定性・定量調査から導出する顧客データの種類を理解	30分
8回	DX時代における消費者行動データの分析	復習 ： 消費者行動に関わるデジタルデータの種類を理解	30分
9回	ブランドとコミュニケーション①	復習 ： 自分自身の興味関心がある広告とその興味関心理由を自己分析し整理	30分
10回	ブランドとコミュニケーション②	【レポート提出】 印象に残った広告を事例にした、消費者インサイトを分析	60分
11回	店頭マーケティング	復習 ： マス広告と店頭販促の繋がりについて理解	30分
12回	デジタルマーケティング（リアルとデジタルの融合）	復習 ： これまでの講義資料の復習によりマーケティングプロセス全体を理解	30分
13回	アクティブ・ラーニング：ペルソナ設定	復習 ： 授業内のワークで作成したペルソナを精緻化	30分
14回	アクティブ・ラーニング：カスタマージャーニー作成	復習 ： 授業内のワークで作成したカスタマージャーニーを精緻化	30分
15回	全体まとめ	【レポート提出】 ワークから導出したコミュニケーション施策の企画案	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポート提出がない回は、授業内のワークで作成したワークシートを提出し、次回授業時やmanaba上で講評を行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

特になし

■参考文献

参考資料は、各授業時に出典を指し示します

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：初回授業時に呈示

連絡研究室:ファッションビジネス・流通イノベーション実習室（3207教室）

■備考

なし

ビジネスプレゼンテーション技法

水越　綾

2年　前期　　ビジネス系必修　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

ビジネスプレゼンテーションとは、ファッション分野において、企画、MD（製品・商品計画）デザイン等を取り組んでいく上で、ビジュアル・コミュニケーション・デザイン（Visual communication design）or ビジュアル・デザイン（Visual design）ともいわれ、視覚（伝達）デザインにより、自らも主観的に認識・識別し、情報を客観的に相手（第三者）に伝えることを目的としたデザインである。人間の五感である認識・識別できる能力の一つである視覚から入る伝達能力は、80%以上だと言われている。本授業では Photoshop, Illustrator による表現手法の修得を主としつつも、総合的に「伝える力」を身につけてゆく事を方針とする。

その為には授業内だけでなく時間外の作業（企画案・デザイン案の作成、ヒアリング調査、アイデア出し等）時間外の学習に対してどれだけ自身の企画に向き合い、丁寧に取り組んでいるかも重要視する。この授業では対面・manaba で双方向型授業を実施する。

■到達目標（学修成果）

1年次に学んだ AdobePhotoshop, Illustrator、PowerPoint の基礎力を定着させ、さらに表現手法のバリエーションを身に付ける事ができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ビジネスコースの必修科目であり、また卒業要件科目の科目である。ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、Photoshop 基本操作の確認	予習：情報演習Ⅱで使用したテキストを確認しておく。 課題：企画書案の作成（ターゲット、コンセプト等詳細にまとめる）ブランドリサーチ	90分
2回	Photoshop 基本操作の確認と応用 企画書提出：企画内容に関するディスカッション。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：企画書案のブラッシュアップ、ブランドリサーチ	90分
3回	Photoshop を使用した課題①（企画書の為の素材作成：ブランドイメージコラージュ） 企画書提出：企画内容に関するディスカッション。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：素材収集、ターゲットインタビュー、課題を進めておく	90分
4回	Photoshop を使用した課題①（企画書の為の素材作成、ブランドイメージコラージュ） 企画書提出：企画内容に関するディスカッション。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：素材収集、ターゲットインタビュー、	90分
5回	Photoshop を使用した課題②（企画書の為の素材作成、ファッション画作成） データースキャニング。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ファッション画（線画）を描いて来る	90分
6回	Photoshop を使用した課題②（企画書の為の素材作成、ファッション画作成）。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ターゲットインタビュー	90分
7回	Illustrator 基本操作の確認と応用 データースキャニング。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ハンガーイラストを手描きで描いておく	90分
8回	Illustrator 基本操作の確認と応用 Illustrator を使用した課題①ハンガーイラスト作成。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ハンガーイラストを手描きで描いておく	90分
9回	Illustrator を使用した課題①ハンガーイラスト作成。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ブランドコンセプトに基づいたロゴ案を考えておく。	90分
10回	Illustrator を使用した課題①ハンガーイラスト作成。提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ブランドコンセプトに基づいたロゴ案を考えておく。	90分
11回	Illustrator を使用した課題②ロゴ作成 提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：ロゴ案作成	90分
12回	Illustrator を使用した課題②ロゴ作成 提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：課題制作	90分
13回	プレゼンテーション用資料作成（PowerPoint）提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	課題：課題制作	90分
14回	プレゼンテーション用資料作成（PowerPoint）提出物に関するフィードバックは対面（個別）あるいは manaba でおこなう。	発表に向けた資料作成	90分
15回	課題発表と振り返り（発表時に manaba を通じて学生間相互評価をしてもらう。客観的に自分の作品を振り返り）、ブラッシュアップしてもらう。発表内容に関してのフィードバックは全体、あるいは manaba で実施する。	リフレクションシート作成	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

学内システム（manaba）等を使用してフィードバックを行なう。面談でフィードバックを行なう場合もある。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業に対する積極的な態度、提出物の内容、発表での態度と発表内容、manaba での振り返り等総合して成績評価する。 それ以外の評価基準については、授業内に指示する。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書　なし

■参考文献

1年次の情報演習Ⅱで使用したテキスト（Illustrator&Photoshop 操作とデザインの教科書）を持参する事を勧める。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーについては、第1回目の授業で指示する。研究室：研究棟1階 6012B

■備考：データー保存用の USB を用意しておくと良い。授業内容は進行具合により、前後する可能性がある。その場合は事前にアナウンスする。

企業会計入門

田中　恵美子

2年　前期　　ビジネス系必修・モードテクノロジー系選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

就職活動を開始すると、それぞれの会社の目標、理念、経営方針などが、さまざまな言葉で語られていることに気づきます。自分の才能を十分に発揮できる会社はどこなのか迷ってしまうことも少なくありません。そこで本講義では、財務諸表を通じて企業の本来の姿を数字で読み解く手法を学び、言葉では語られることのない企業の強みや弱みを分析します。まず使用されている数字が私たちにどのようなイメージや意味を与えるのかを確認し、次に企業会計のしくみ、財務諸表の構造を学習します。さらに演習を通じていっそうの理解を深め、最後にこれらの数字を比較・検討、分析できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

本講義の到達目標は、財務分析の基本的手法を体系的にとらえ、企業実態を読み取る力を習得することにあります。したがって、次の3段階がその目標の目安となります。

(1) 企業の成績表といえる財務諸表の基本構造が理解できるようになる。
(2) 基本的な財務分析の手法が使用できるようになる。
(3) 数値結果をもとに企業の収益性や安全性が理論的に分析できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

「企業会計入門」はビジネス系の必修科目であり、モードテクノロジー系は専門選択科目です。いずれも卒業要件に必要な科目となります。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、授業計画、授業の概要説明 身近な会計数字を知る	復習：身近に溢れる会計数字がどのような意図で使用されているかを確認	15分
2回	損益計算書の構造	復習：基本的な損益計算書で構造を確認	30分
3回	損益計算書の作成①	復習：損益計算書のひな型を実際に作成	30分
4回	損益計算書の作成②	復習：損益計算書の全体構造と5段階の利益の意味を理解	60分
5回	貸借対照表の構造	復習：基本的な貸借対照表の構造を確認	30分
6回	貸借対照表の作成①	復習：貸借対照表の各項目の細分類を理解し、実際に作成	30分
7回	貸借対照表の作成②	復習：貸借対照表と損益計算書のつながりを総合的に理解し、両計算書類を作成	60分
8回	収益性の分析（分析指標と分解）①	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
9回	収益性の分析（分析指標と分解）②	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
10回	収益性の分析（分析指標と分解）③	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
11回	安全性の分析（分析指標）①	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
12回	安全性の分析（分析指標）②	復習：各分析指標の意味と計算結果を確認・分析内容の理解	30分
13回	総合比較分析（演習Ⅰ）	復習：財務諸表の全体構造を理解し、収益性、安全性の総合分析を整理・確認	60分
14回	総合比較分析（演習Ⅱ）	復習：財務諸表の全体構造を理解し、収益性、安全性の総合分析を整理・確認	60分
15回	総まとめと演習問題	復習：演習問題を振り返る	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に演習問題についての解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　特にありません。

■参考文献

田中恵美子著　『精説　簿記論』大学教育出版

■オフィスアワー・研究室

出講日：前期　水曜日
連絡先：教務課（本校舎1階）

■備考　受講者の理解度を確認しながらゆっくり進行していきますので、会計知識や数字に強い必要はありません。配布するレジュメはファイルに整理し、電卓とともに毎時間持参してください。

グローバルマネジメント特論Ⅰ

山田　晶子

２年　後期　　ビジネス系必修　　（　２単位　講義　）

■授業の方針・概要

本授業では社会潮流をベースとした、グローバル時代におけるファッションビジネスの課題を様々な観点から捉え、今後のファッション産業に求められる企業経営の方向性を、ファッションビジネス・マネジメント視点で探究していきます。グローバル市場と文化、ファッションの関係性を学び、商品のみならず、その経営理念、組織形態、リーダーシップ等、ブランドエクイティとしての成立を、事例により研究。担当講師の現場における実務経験や、業界リサーチャーの視点等から、時代性に根差した学習を実施、２１世紀における、グローバル市場への考え方や、その戦略に関して、入門的理解を深めます。実感値の醸成を主眼とした、アクティブラーニングによる授業運営も実施してまいります。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修し、学修の目標を達成できた結果、社会潮流とファッションの関係性をベースに、入門編としての２１世紀型グローバル市場の理解、今後のファッションビジネス・産業界の方向性の捉え方、起業家としての考え方・着眼点が修得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、ファッションビジネス・マネジメントコース、流通イノベーションコースの卒業要件科目、必修専門科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	イントロダクション ファッションビジネスにおけるグローバルマネジメントとは	予習：シラバスの確認 復習：配布資料の振り返り	30 分
2 回	グローバル市場のブランディング① 「日本」×「文化」⇨「ファッション」～グループディスカッション	予習：日本発グローバルファッション① 復習：「文化」とファッションの関係性	30 分
3 回	グローバル市場のブランディング② グローバル視点と日本発ブランド～グループディスカッション	予習：日本発グローバルファッション② 復習：当回のディスカッション振返り	30 分
4 回	グローバル市場のブランディング③ ＜事例研究＞社会潮流とブランドに求められるもの	復習：日本発グローバルファッション③ 経営理念とビジネスモデル	30 分
5 回	実習「レポート作成」 演習へのベースを整理確認するため、テーマに沿って着眼点の整理	予習：演習へのベースとしての内容整理と確認	30 分
6 回	社会潮流とグローバルマネジメント① 第５回のフィードバック、持続可能と企業のミッション背景研究	予習：社会潮流における持続可能と企業のミッションを確認	30 分
7 回	社会潮流とグローバルマネジメント② 生活・ファッションへのキーワード～国内外の事例研究を共有	予習：直近のグローバルムーヴメント収集	30 分
8 回	グローバルマネジメントⅠ演習①　グループワーク これからのＦビジネス（社会潮流共有～ファッションビジネスの芽）	予習：ビジネスへの骨格づくり 復習：自グループの意見確認	30 分
9 回	グローバルマネジメントⅠ演習②　グループワーク これからのＦビジネス（ファッションビジネス具現化への５Ｗ２Ｈ）	予習：テーマへの５Ｗ２Ｈ考案 復習：自グループのテーマ深掘り	30 分
10 回	グローバルマネジメントⅠ演習③　グループワーク これからのＦビジネス（ファッションビジネス具現化への深掘り）	予習：持続可能と企業のミッション	30 分
11 回	グローバルマネジメントⅠ演習④　グループワーク これからのファッションビジネス（時代性、企業のミッション）	予習：全体観およびリアリティあるファッションビジネス創造	30 分
12 回	グローバルマネジメントⅠ演習⑤　グループワーク これからのファッションビジネス（グローバル展開への視点）	予習：プレゼンテーション準備	30 分
13 回	グローバルマネジメントⅠ発表①　プレゼンテーション 各班より発表（生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成）	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30 分
14 回	グローバルマネジメントⅠ発表②　プレゼンテーション 各班より発表（生活者視点で他グループ内容に関するレポート作成）	予習：プレゼンテーション準備 復習：他グループの内容確認	30 分
15 回	グローバルマネジメントⅠ発表③　プレゼンテーション 各班より発表、プレゼンテーション内容のフィードバック	復習：講評から、全体観とポイントの整理 期末レポート作成・提出	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

プレゼンテーションとレポート実施（期中・期末）に関して、第６回、第 15 回にて、確認と講評を行ないます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

指定教科書はなし。毎回、学習資料を配布します。
授業形態は「配布資料を基にパワーポイントで講義～グループディスカッション」となります

■参考文献

授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

ファッションビジネスマネジメント研究室（第４校舎３階/授業終了後）

■備考

毎回、配布する学習資料を持参してください。
授業の進行状況により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

ファッションエディトリアルⅠ

千代崎　寛

2年　後期　　ビジネス系必修　　（　2単位　演習　）

■授業の方針・概要

ファッションビジネスの場において情報を伝達するための方法、考え方を「エディトリアル（編集）デザイン」の視点から学んでいく。画像イメージを得るための撮影から編集を経て最終プロセスまでを段階ごとに確認・検証しながら進めていく。ルックブックやカタログなどの制作を編集デザインのワークフローから学び、他のメディアへの応用を通じてコミュニケーションとメッセージ表現のアプローチと方法を探る。各自の思考の拡がりと表現力、社会との関係における自身の視点を準備していく事を方針とする。

■到達目標（学修成果）

1.ビジュアルイメージを具体化するための基礎的な「表現能力」を身に付けることが可能となる
2.制作とプレゼンテーションを通して「つたえる・つたわる」関係の重要性について考察や理解ができる
3.デジタル制作環境・ネットワーク環境の基礎的な理解と活用する「術」を身に付けることが可能となる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門必修科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については「ファッションエディトリアルⅠ」はファッションビジネスの企画・提案や流通の場において活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・授業概説と導入 エディトリアルデザインについて～（メディアリテラシー）	復習：カリキュラム表・プリントの内容を熟読しておく。	30分
2回	エディトリアルデザイン（編集デザイン） DTP演習①「DTPのワークフロー」レイアウトと出力	予習：リサーチや進行に必要なリソースの収集・準備など	60分
3回	DTP演習② レイヤー、チャンネル、パスのテクニック	予習：画像撮影のための準備、スタイリングとロケーションプランの準備	90分
4回	テーマⅠコンテンツ制作① 自然光による撮影・補正・レタッチのワークフロー	予習：撮影後のコンタクトシートによる選定とスタジオ撮影プランの準備	60分
5回	テーマⅠコンテンツ制作② 人工光による撮影・補正・レタッチのワークフロー	予習：撮影後のコンタクトシートによる選定とスタジオ撮影プランの準備	30分
6回	テーマⅠコンテンツ制作③ グリッドシステムによるレイアウトのワークフロー	予習：レイアウト資料の作成と準備	60分
7回	テーマⅠコンテンツ制作④ プリント出力から校正までのワークフロー	予習：中間プレゼンテーションをもとにプランを練り上げる	60分
8回	テーマⅠコンテンツ制作⑤ 研究テーマ中間プレゼンテーション	予習：中間プレゼンテーションをもとにプランを練り上げる	30分
9回	テーマⅠコンテンツ制作⑥ レイアウト・出力から校正	予習：プランに沿った制作と確認・検証	30分
10回	テーマⅠコンテンツ制作⑦ レイアウト・出力から校正	予習：プランに沿った制作と確認・検証	30分
11回	テーマⅠコンテンツ制作⑧ 完成データ出力と製本	予習：様々なメディア表現のリサーチ	60分
12回	テーマⅡコンテンツ制作① メディア表現・デザインのワークフロー	予習：プランに沿ったメディア表現の制作と確認・検証	60分
13回	テーマⅡコンテンツ制作② ラフレイアウトとプレビュー	予習：テーマⅠ・Ⅱプレゼンテーションのための準備	30分
14回	テーマⅡコンテンツ制作③ レイアウトとプレビュー	予習：制作ノート提出のための準備	180分
15回	まとめ・展開 テーマⅠ・Ⅱプレゼンテーションと講評	復習：まとめと考察	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッションとノート、プレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する。

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：第1回目の授業で指示する。研究室：先端ファッション表現研究室（目黒校舎研究棟3F）

■備考

表出されるイメージは過去にみた「もの・こと」からのみ産み出される。イメージをOutputし続けるためには常にInputし続ける必要がある。その円環する環境・システムを自分の中に構築して欲しい。

ファッションマーケティング論

岩佐　彰則

2年　前期　　ビジネス系必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

モノが売れないといわれる現代において、マーケティングの重要性は一層増しています。アパレル業界において、大小様々な企業で事業を立ち上げ、経営に携わってきた実務家の視点で、ファッションビジネスにおけるマーケティングを論理的、かつ実践的に学んでいきます。

■到達目標（学修成果）

マーケティングの面白さを知ってもらい、常に経営視点でのマーケティング思考を身につけることで、変化の激しいファッション業界をリードし、アントレプレナーとして、新たな市場を創造できるようになることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。ファッションビジネス系コースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション：マーケティングとは？	講義の振り返り【レポート提出】	40分
2回	基礎編：マーケティングのマネジメント＿製品	プロダクトについて理解	30分
3回	基礎編：マーケティングのマネジメント＿価格	プライスについて理解	30分
4回	基礎編：マーケティングのマネジメント＿広告	プロモーションについて理解	30分
5回	基礎編：マーケティングのマネジメント＿チャネル、サプライチェーン、営業	2～5回講義の振り返り【レポート提出】	40分
6回	基礎編：関係のマネジメント＿顧客関係、ビジネスモデル、顧客理解	講義の理解	30分
7回	基礎編：関係のマネジメント＿ブランド構築、ブランド組織、社会責任	6～7回講義の振り返り【レポート提出】	40分
8回	グループによるプレゼン	他グループのプレゼン評価【レポート提出】	60分
9回	応用編：マーケティングの目的と基本のおさらい	講義の理解	30分
10回	応用編：マーケティングの戦略と考え方	9～10回講義の振り返り【レポート提出】	40分
11回	応用編：ベンチャービジネス	講義の理解【レポート提出】	40分
12回	応用編：IT/ソーシャルディア・マーケティング	講義の理解	30分
13回	応用編：ビジネスモデル	12～13 回講義の振り返り【レポート提出】	40分
14回	グループによるプレゼン	他グループのプレゼン評価【レポート提出】	60分
15回	まとめ	最終【レポート提出】	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

講義毎にレポートを提出していただきます。また、中間発表（グループ）、最終発表（グループ）を行っていただきます。フィードバックは可能な限り講義内で行い、ディスカッションしながら、理解を深めていきます。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

石井淳蔵、他(2020)『1からのマーケティング＜第4版＞』碩学舎

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

講師控室　詳細は初回授業に連絡します

■備考

日程及び内容は授業の進行具合に合わせて変更する事もあります

プレゼミ（マネジメント）

長瀬　泰典 ・大极　勝 ・ 鈴木　康久

2年　通年　マネジメント必修　　（ 2単位　講義・演習 ）

■授業の方針・概要

本科目は３年次以降における専門性の高い科目受講に向けた基盤作りとしてファッションビジネスやマーチャンダイジングの基礎を修得出来ます。前期フェーズ①では生活者の消費行動からマーチャンダイジングに至る過程を中心に学習し、後期フェーズ②ではファッションビジネスをキーワードに、業界理解・職種理解を通じた広範分野の職種研究や企業訪問等を通じた体験型学習を実施していきます。加えて総合的な学習基礎能力の醸成を目指し ICT 基礎学習やキャリアプラン学習を行います。授業内でグループによるディスカッションやディベート等のアクティブラーニングを活用した理解浸透を図っていきます。

本科目運営は３人の講師によるオムニバス形式のカリキュラムとなります。長年にわたる実務経験者である３人の教員のそれぞれの専門分野に即して、ファッションビジネスを川上～川下まで広域な学習による授業運営となります。（長瀬－生産関連、大极－アパレル企画、鈴木－リテール・生活者）

■到達目標（学修成果）

①ファッション産業を取り巻く広範な分野について企業・団体・職種に対して体系的に知識習得が出来ます。
②業界実企業訪問や実務経験者のゲスト講師の来校等、臨場感があり、かつ実践的な業界理解を得られます。
③アクティブラーニングを通じて、自主性、コミュニケーション能力、強調性、ディベート力の醸成が図れます。
④上位学年で活用されるマーチャンダイジング関連の基礎知識の習得とプレゼン資料作りの一端が早期に習得できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目はファッションビジネス・マネジメントコースの必修科目であり、また卒業要件科目の単位となります。

■授業計画　前期フェーズ①　　長瀬　泰典・鈴木康久　担当

回数	授業内容(前期)	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回 鈴木	全体ガイダンス、グループワーク キャリアプラン＆自発的学習プラン策定	予習　シラバスの確認 復習　授業課題と配布資料振り返り	30分
2回 鈴木	ファッションビジネス業界理解 川上～川下、職種理解、グループワーク	予習　職種調査 復習　配布プリントの振り返り	30分
3回 鈴木	ＩＣＴの基礎学習① Google プラットフォームのビジネスへの活用	予習　Google アカウント確認 復習　フォーム作成と学習内容振り返り	40分
4回 鈴木	ＩＣＴの基礎学習② ファッションビジネスと ICT 活用（プレゼンテーションスキル）	予習　前回提示の課題の取組み 復習　配布プリント振り返り	40分
5回 鈴木	生活者の消費行動変化 コロナ禍の生活者の消費行動変化、インサイト グループワーク、ディベート、プレゼン	予習　コロナ禍における各自の消費行動変化を抽出 復習　グループ発表の振り返り	30分
6回 長瀬	EC プラットフォームビジネスの仕組み （ZOZO 事業部長）	予習　シラバスの 6～15 回の確認 復習　仕組みを理解した上で様々なプラットフォームの違いを検証する	40分
7回 長瀬	テレビショッピングビジネスの流れ （QVC ビジネス関係者）	予習　業界関連企業と放映内容の確認 復習　仕組みを理解した上で課題や対策を検証する	60分
8回 長瀬	ファンマーケティングとグッズ販売の可能性 （ノベルティー作成会社）	予習　自身の経験を元にファンマーケティングを考える 復習　成長するグッズ販売の可能性をシュミレーションする	60分
9回 長瀬	無人レジ・デジタルマーケティング技術の進化 （エブリデイデニソン（RFID）マネージャー）	予習　身近な無人レジの確認 復習　デジタル技術の進化と顧客目線の利便性を再考する	45分
10回 長瀬	海外貿易（輸出入）の仕組みと業界との関係 （アリスペッドジャパン部長）	予習　身近な輸入商品の確認 復習　購入した洋服がどのような仕組みで店頭まで到着したのかを検証する	45分
11回 長瀬	商社の機能と海外マーケットの可能性 （元三菱商事繊維本部長）	予習　商社の事前学習 復習　業界全体を調査し、各商社の特徴や違いを検証する	45分
12回 長瀬	NPO・NGO ビジネスからみたコットン業界 （コットンイニシアチブ協会）	予習　身近なコットン製品の確認 復習　コットン業界の課題や解決方法を自身の考えで整理する	45分
13回 長瀬	検品業界からみた二次流通業界の成長 （ファッションクロスフルシマ）	予習　身近な二次流通製品の確認 復習　成長する二次販売業界の裏側をイメージし業界の変化を検証する	60分
14回 長瀬	欧州で進化するサーキュラーファッション （COVEROS フィンランド社）	予習　身近なサーキュラー製品の確認 復習　欧州と日本のサーキュラーファッションの違いを調査する	45分
15回 長瀬	SPA 業界の成長と変化 （大手 SPA アパレル事業部長）	予習　身近な SPA 商品の確認 復習　SPA のメリットとデメリットを検証し、業界の変化を整理する	45分

■授業計画　　後期フェーズ②　大枝　勝・鈴木康久　担当

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
16 回 鈴木	生活者変化考察・新顧客創造① 市場調査、顧客ターゲット、ﾌﾞﾗﾝﾃﾞｨﾝｸﾞ	予習　前期配布資料の読み込み 復習　配布プリントの振り返り	30 分
17 回 鈴木	生活者変化考察・新顧客創造② グループワーク、ディベート、企画作り	予習　提示課題の取組み 復習　作成した企画プランの読み込み	40 分
18 回 鈴木	新ビジネス創造・新ブランド創造① 市場分析、ポジショニング、MD 戦略考察	予習　提示課題の取組み 復習　配布プリントの振り返り	30 分
19 回 鈴木	新ビジネス創造・新ブランド創造② グループワーク、ディベート、企画作り	予習　提示課題の取組み 復習　作成した企画プランの読み込み	40 分
20 回 鈴木	総合プレゼン 生活者変化～インサイト～ビジネスプラン	予習　プレゼン準備 復習　チームプレゼン内容の振り返り	30 分
21 回 大枝	教室：オリエンテーション＝実社会で必要な知識のまとめ 第 18 回～22 回の講座内容の総合学習	予習　シラバスの確認 復習　学内外を問わず、人との関わり方や倫理観などについて考える	40 分
22 回 大枝	品質検査業務研究（ニッセンケン品質評価センター） 今日の品質検査のあり方について学ぶ	予習　品質管理を検索する 復習　品質検査業務とファッション産業の関連性を考える	40 分
23 回 大枝	企画・制作業務研究①（ジャパンスコープ） 布帛製品からニットまで、その製作工程全般を学ぶ	予習　ＯＥＭ・ＯＤＭを検索する 復習　アパレル産業の企画～製造を考える	40 分
24 回 大枝	企画・制作業務研究③（トゥモローランド） 企画担当社によるアパレルマップ作成実習指導	予習　企業の事前学習 復習　配布資料の振り返り	40 分
25 回 大枝	化粧品業界研究（企業訪問・Lebel 化粧品） モードとヘアメイクの関係について	予習　企業研究 復習　化粧品業界とモードの関わりを考える	40 分
26 回 大枝	内装、マネキン、什器業界研究(七彩マネキン) マネキンの歴史とマネキン着脱実習	予習　企業研究 復習　マネキン･内装業界の今を考える	40 分
27 回 大枝	リペア業務研究（外資系企業訪問・パタゴニア）	予習　訪問企業の事前研究 復習　外資系アパレル産業の業務全般と地球環境保護について考える	40 分
28 回 大枝	ニット・カットソー工房研究（小倉メリヤス） オリジナルカットソー制作実習	予習　身近なニット製品の確認 復習　ニットアパレル産業の業務全般を考える	40 分
29 回 大枝	雑誌、カタログ等の印刷業務研究（共同印刷） 印刷業の歴史とファッションとの関連性について学ぶ	予習　身近なカタログを確認 復習　印刷会社の今とファッションの関わりを考える	40 分
30 回 大枝	教室：第 23 回～28 回の復習と期末レポート指導	予習　該当回のレジュメ確認 復習　ファッション業界の今と未来の考察	40 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フェーズ①　課題に関しては、次回授業時の始めにフィードバックをします。
　　発表はグループ、個人での発表があります。

フェーズ②　各回の企業訪問時間内に振り返りレポート提出。期末レポート提出後に掲示板にて総評によるフィードバック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	50%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	20%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　フェーズ①　資料を授業で配布
　　フェーズ②　指定教科書なし。各回で担当企業ごとの参考資料を配布します。

■参考文献　フェーズ①　尾原蓉子著グロ―バライゼーションとデジタル革命から読み解く Fashion Business　創造する未来
　　フェーズ②　授業に関連した参考文献を随時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

フェーズ①　FB マネジメント教室〔4035 教室〕にて授業前 30 分前待機。
フェーズ②　FB マネジメント教室〔4035 教室〕にて授業前 30 分前待機。

■備考　フェーズ①　企業の担当者を通じ、その業界、企業ならではの視点で話をいただく予定です
　　毎回、配布する学習資料を持参してください。
　　フェーズ②　学外への企業訪問時は開始時刻が遅くなるために終了時刻が遅くなる可能性がありますので
　　ご注意ください。
　　授業の進行状況により、スケジュール及び授業順番や内容が変更される場合があります。

プレゼミ(イノベーション)

五月女　由紀子・田中康寛

2年　通年　　イノベーション必修　　（　2単位　演習　）

■授業の方針・概要

流通イノベーションコースの導入ゼミの位置づけです。前期はリテールコンサルタントの実務家教員により、デジタルマーケティングの基礎を学びます。生活者の最近の購買行動の変化から、デジタル化した社会やオムニチャネルについて理解を深め、個々のデジタル生活行動についてプレゼンテーションを実施します。SNS運営に関しては、教員のアカウント管理のもと、チーム別にTikTokによる短尺動画を発信していきます。また、Instagramのリール投稿も行い、大学生活のさまざまな場面を動画として表現することで、インターネット上でコンテンツを発信するスキルを習得します。後期にはブログnoteの執筆をして、コースとしてのnoteマガジンを編集し、WEB記事によるSNS運用の幅を広げます。SNS運営の活動は、3年のネットショップ運営ゼミの導入となると同時に、学生自らが実施するというアクティブラーニングとなります。後期は、アパレル企業、商業施設、ファッションテック企業、メディア関係など複数の企業の協力により、ファッション業界で促進しているデジタル販売スキルの向上とECの基礎知識の習得を目指します。

■到達目標（学修成果）

アパレル企業で必要とされているデジタルマーケティングの基礎を学び、実際にSNS運営を体験するなど、アパレル業界のデジタル運用の基礎イメージを固めることができます。ファッションビジネスのデジタル手法を修得し、3年からのコース専門科目への導入を促します。リアルとデジタル双方でのオムニチャネル販売を理解できる成果として、「ファッション販売能力検定」に合格するための知識を習得します。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目、学位授与科目です。ファッションビジネス・流通イノベーションコースのディプロマポリシーに即した必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
前期 1回	オリエンテーション、流通イノベーションコースの説明	予習：シラバスを読む。	30分
2回	SNS運営の実践① ファッションビジネスのSNS運用の特徴	復習：授業について振り返る	30分
3回 田中	オムニチャネル時代の生活者 オムニチャネルとは何か。なぜ誕生したのか。	復習：授業について振り返る	30分
4回 田中	生活者の購買動向の特徴 オムニチャネル時代の生活者（消費者）行動変化	復習：授業の課題を提出する （自分の消費行動をまとめる）	60分
5回	SNS運営の実践②　TikTokアカウント管理について チームに分かれて動画の目標を決める プロジェクトリーダー、企画担当、撮影担当、編集担当、運用担当、分析担当の決定をする。	復習：動画を撮る準備をする	60分
6回 田中	生活者消費行動 共通ポイントなどを中心に	予習　共通ポイントの種類を調査 復習　共通ポイントとは何かを整理	60分
7回 田中	決済手段の変化や店舗のあり方の変化　今求められること QRコード決済、D2C　SDGs等を説明	復習：授業について振り返る	30分
8回 田中	デジタルマーケティングとは （各種決済やビッグデータ）	復習：授業の所感を提出する	30分
9回	SNS運営の実践③　TikTokを発信する チーム別の目標に沿った動画制作をする（短尺動画）	復習：動画の制作をする	60分
10回 田中	SNSを使った生活者とのコミュニケーション現場	予習：発表内容を整理する 復習：各種SNSへの個人の意見整理	60分
11回 田中	デジタルマーケティングとは 生活者の行動をグループ別ディスカッションして発表	復習:デジタルマーケティングとは何かの整理する 生活者行動に関してプレゼン資料作成	60分
12回 田中	デジタルマーケティング　プレゼンテーション実施Ⅰ	復習：自分の発表を整理作成	30分
13回 田中	プレゼンテーション実施Ⅱ	復習:他者のプレゼンテーションの整理	30分
14回	SNS運営の実践④　TikTok　チーム別インサイト分析 発信後の視聴者数やフォロワー数の確認	復習:インサイトから発信内容と方法を振り返る	60分
15回 田中	生活者行動、デジタルマーケティングに関して　まとめ	予習：考察事案について振り返る	90分

後期 16 回	業界別企業事例研究①商業施設　SHIBUYA109 若者（Ｚ世代）研究と調査結果	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
17 回	SNS 運営の実践⑤　ブログ note 運用指導とコンセプト決め アプリでの執筆方法、下書き投稿→原稿公開	復習：マナバに note 下書きを提出する	60 分
18 回	業界別企業事例研究②アパレル企業：マークスタイラー 商品企画と生産管理	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
19 回	業界別企業事例研究③アパレル企業：マークスタイラー ランウェイチャンネル（EC）と店舗スタッフの連携	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
20 回	SNS 運営の実践⑥　Instagram 発信 新チームによる後期の学生生活の動画をリールで発信	復習：動画の制作をする	60 分
21 回	業界別企業事例研究④：オンワードクローゼット EC モールの MD と店舗との関係	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
22 回	「ファッション販売能力検定」の理解と指導 過去問と問題傾向の確認	復習：12 月検定合格に向けての復習	60 分
23 回	SNS 運営の実践⑦　ブログ note 運用指導の続き ダッシュボードによるインサイト分析とマガジン編集	復習：マナバに投稿記事を提出する	60 分
24 回	SNS 運営の実践⑧　Instagram 発信 新チーム別　リール動画のインサイト分析、見直しと修正	復習:インサイトから発信内容と方法を振り返る	60 分
25 回	業界別企業事例研究⑥アパレル企業：PAL グループ PAL クローゼット（EC）と店舗スタッフの連携	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
26 回	アパレルとメディア①動画広告とは WEB 広告の分類と動画広告について	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
27 回	アパレルとメディア②WEB 雑誌、雑誌社の YouTube 配信 紙媒体から WEB 媒体への転換	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
28 回	業界別企業事例研究⑦アパレル企業：アダストリア ドットエスティ（EC）と店舗の関係、店舗スタッフの活動	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
29 回	3 年ゼミに向けて　EC プラットフォームの変遷と基礎編 古着屋ネットショップ事例からショップページについて	復習：マナバに授業の所感を提出する	30 分
30 回	総括的まとめの発表とフィードバック SNS 運営の最終結果を確認する	予習：まとめの発表を準備する。	90 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

企業の特別講義の授業では、ワークの実施あるいは講義の感想と自分の考えを書きマナバに提出する。
その後、教員からのフィードバックを行う。
SNS は教員がアカウント管理を行い、チームや個人で発信する内容についてフィードバックしてから公開する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
外部評価・検定試験結果	10%

■教科書

田中康寛（2022)『データ思考が未来を変える』織研新聞社
授業初回に著者割引価格で販売をします。

■参考文献

「ファッション販売 3－ファッション販売能力検定試験 3 級公式テキスト」日本ファッション教育振興協会

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの日時は授業初回に提示します。ファッションビジネス・流通イノベーション実習室（3207 教室）

■備考

外部講師の予定により、授業内容の順番変更があります。

画像設計演習

白木　ゆみ香

2年　前期又は後期　　選択　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

画像設計演習での使用ソフトは、Photoshop、4D-BOX（素材設計）、 Power Point の計３つです。それぞれのソフトの基本操作や特徴を学び、実際に作品を制作しながら技法を習得し、表現力の拡大を図ります。

■到達目標（学修成果）

それぞれのソフトを活用し、連動させながら、デザイン考案やプレゼンテーションが出来る技術を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は、専門選択科目で卒業要件科目の単位となります。専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 4D-BOX（素材設計） 基本操作　ポルカ	予習：シラバスを読む。 復習：ノートの整理。	30分
2回	4D-BOX（素材設計） 基本操作　ストライプ、MIX	復習：ノートの整理。	20分
3回	4D-BOX（素材設計） 基本操作　織り柄	復習：ノートの整理。	20分
4回	ブランド立案に向けてのデザイン出し①	予習：図書館・インターネットにて資料収集。	20分
5回	ブランド立案に向けてのデザイン出し② ハンガーイラスト５体	復習：ノートの整理。	20分
6回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOXで作成した柄をのせる	復習：ノートの整理。	20分
7回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOXで作成した柄をのせる	復習：ノートの整理。	20分
8回	Photoshop 作成した絵型に、4D-BOXで作成した柄をのせる	復習：ノートの整理。	20分
9回	Photoshop テキスタイルのレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
10回	Photoshop 絵型のレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
11回	Power Point 絵型のレイアウト、画像作成。	復習：ノートの整理。	20分
12回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：図書館・インターネットにて資料収集	20分
13回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：資料準備。	60分
14回	Power Point プレゼン資料作成。	予習：資料準備。	60分
15回	Power Point 各自の作品をプレゼンテーション。	予習：プレゼン準備。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・作品課題の提出は、PC関係はデスクトップ上の配布提出BOXへデータでの提出。
　指定された日時までに提出のこと。元データは各自で保存しているため、返却はなし。
・試験はなし。
・プレゼンテーションにて発表の際に講評あり。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じてプリント配布。
Fashion Ruler（教材）は各自購買部にて購入してください。

■参考文献　なし

■オフィスアワー・研究室

【前期】木　14：30～16：00【後期】水　15：00～16：00
【研究室】デザインCG研究室（研究棟１F）

■備考　進度により、日程および内容の変更あり。

ドローイングⅡ

瀬古　徹

2年　前期又は後期　　選択　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

1点ずつ丁寧に「絵」＝「作品」を制作していく。テーマは色彩による空間表現である。闇雲に筆を走らせるのではなく、描画の技法やシステムをテーマに作品を制作しながら、徐々に「自分の世界」をつくり上げていく。デザイン画やイラストレーションへ向かうだけではなく、発想や構想などのイメージクリエーションのウォーミングアップに展開することを期待する。

■到達目標（学修成果）

1.「抽象的」なものの見方（現象的ではない）を身に付けるきっかけをつくる
2.型にはまらないフリースタイルな発想法を発見する
3.1.2.を導き出すための制作の「方法論」、具体化するための「技法」を身に付ける
4.手ごたえを感じるディティールの集積によって自分の表現の「世界」をつくりあげる実践力を身に付ける

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、選択科目である。服飾における感性の精鋭に活かされる科目として位置づけている。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション　→カリキュラムの流れとその構造、材料、技法の説明など	予習；鉱物系顔料ガッシュ、細密描画用筆の購入準備	30分
2回	自画像　―グラフィティーから― →2トーンによる稜線の選択、形態の分析〔技法：ガッシュ、不透明色の塗り重ね〕　［アクティブラーニング（A.L）］	予習;頭部骨格、パーツの位置に関して、自らの頭部のスタイリング 復習；鉛筆による頭部のドローイング	60分
3回	〃 →ガッシュ（黒）による塗分け作業　［A.L］	予習；頭部の立体形態の確認 復習;モチーフとしてのファッション雑誌よりの写真の収集	60分
4回	色面による写真の分析　→3トーンによる形態の選択、強調、省略〔技法：ガッシュ、不透明色の塗り重ね〕　［A.L］	復習；図像の転写 予習；1年次「色彩演習」にて得た知識を基にした色彩プランニング	90分
5回	〃 前回作品の講評、フィードバック　［A.L］	復習、予習；明部、暗部の作成	90分
6回	〃　［A.L］	復習；作品の完成 予習；柔らかい鉛筆の準備	90分
7回	オートマティズムによるドローイング-1 →“偶然”からの出発、選択、構成〔技法：ガッシュ、ウォッシュによるファンデーションと細密表現〕　［A.L］	復習；“描画”の進行とその検証	30分
8回	〃 前回作品の講評、フィードバック　［A.L］	復習；“描画”の進行	90分
9回	〃　［A.L］	復習；画面際への意識、完成 予習;モチーフとしての雑誌写真の準備	90分
10回	ファッションフォトコラージュとそこからの制作 →ビジュアルイメージのサンプリング、リミックス〔技法：コラージュ、ガッシュ総合的技法〕　［A.L］	復習;ファンデーション後、モチーフの転写	90分
11回	〃　［A.L］	復習；“描画”の進行とその検証	60分
12回	〃 前回作品の講評、フィードバック　［A.L］	復習；“描画”の進行とその検証	60分
13回	〃　［A.L］	復習；作品の完成 予習；人体パーツ写真コピー準備	60分
14回	オートマティズムによるドローイング-2 →“偶然”からの展開、作品の発想へ〔技法：コラージュ、ガッシュ、ドライブラシ〕　［A.L］	復習；人体骨格を意識したパーツ配置	45分
15回	〃 まとめ→「作品」としての成立、「表現」のありかたに関して 前回作品の講評、フィードバック　［A.L］	予習；ドライブラシ技法の練習 復習;ドローイングの専門への応用を考える	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回の提出作品の採点後、次回課題授業途中に、作品の全体的な評価点、問題点等を優秀作品の抜粋により解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	出席状況、取り組みの姿勢等
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	通常作品等
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書　授業の進行に合わせて、必要な場合プリントを配付する

■参考文献　必要に応じて授業時に指示

■オフィスアワー・研究室　オフィスアワーの曜日、時間は授業内で指示　連絡研究室　大学表現演習研究室　（第3校舎1階）

■備考　なし

写真表現演習

中野　希大

2年　前期又は後期　　選択　　（ 1単位　演習 ）

■授業の方針・概要

写真は誰でも撮ることができますが、思い通りの表現をするにはカメラのコントロールができなければなりません。またコンピュータによるフォトレタッチの技術は、クリエイターの世界観を具体的にイメージ化することを可能にしました。この授業では撮影とフォトレタッチの基本技術を、実践的な演習（撮影・データ制作）を通して学びます。

■到達目標（学修成果）

①カメラの基本的な仕組みを理解し、目的に合わせてコントロールして撮影できるようになる。
②Photoshop、Illustrator の基本的な操作方法とフォトレタッチ技術を修得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件科目となります。服飾文化において、イメージ発信者の基礎知識として活きる科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	Introduction1　オリエンテーション	復習：レポートの内容を考えておく。また、カメラの準備をする。	60分
2回	Theme1　焦点距離（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：焦点距離によるイメージの違いの確認、カメラ操作に慣れておく。	30分
3回	Theme1　焦点距離（2）	復習：焦点距離を意識した応用課題に取り組む。	60分
4回	Theme2　シャッター速度、絞り、ISO感度（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：露出決定メカニズムの理解とカメラ操作に慣れておく。	30分
5回	Theme2　シャッター速度、絞り、ISO感度（2）	復習：露出を意識した応用課題の撮影に取り組む。	60分
6回	Theme3　露出補正、ホワイトバランス（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：光を意識した露出や色の理解、カメラ操作に慣れておく。	30分
7回	Theme3　露出補正、ホワイトバランス（2）	復習：光と色を意識した応用課題の撮影に取り組む。	30分
8回	Theme4　スチルライフ　演出された写真（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	予習：スチルライフの課題で必要な素材を準備する。	60分
9回	Theme4　スチルライフ　演出された写真（2）	復習：テーマを決めて応用課題の撮影に取り組む。	60分
10回	Theme5　フォトレタッチ　Photoshop演習（1）	予習：雑誌の表紙に使用する写真素材を準備する。	60分
11回	Theme5　フォトレタッチ　Photoshop演習（2）	復習：レタッチを行い、各自のイメージに合わせた画像制作に取り組む。	30分
12回	Theme5　フォトレタッチ　Photoshop演習（3）	復習：雑誌の表紙デザインの仕上げに取り組む。	30分
13回	Theme6　スタジオライティング（1）アクティブ・ラーニング（課題制作、グループワーク）	復習：ライティングによるイメージの変化を確認し、効果を理解する。	30分
14回	Theme6　スタジオライティング（2）	復習：撮影した写真の違いを確認し、課題レイアウトに取り組む。	30分
15回	学習のまとめ、課題の整理・提出	予習：これまでの全ての課題を整理し、提出の準備をしておく。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

提出課題については、授業内講評あるいは返却時にコメントを添付する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	レポートと基本課題作品50%、応用課題作品20%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

特に指定しない。

■参考文献

写真の教科書、Photoshop、Illustrator の入門書など、各自のスキルに合わせて持っているとよい。

■オフィスアワー・研究室

前期：月・火曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階）　または本校舎1階教務課
後期：木曜日（12時10分～12時50分）表現演習研究室（第3校舎1階）　または本校舎1階教務課

■備考

・ デジタルカメラを各自で用意すること。一眼レフやミラーレスを推奨する。標準ズームレンズが望ましい。コンパクトデジタルカメラは推奨しない。スマートフォン、トイカメラ、フィルムカメラは基本課題ができないので使用不可。購入等についての相談は初回授業後に受け付ける。ただし、第２回から使用するので必ず用意できるように予め検討しておくこと。
・ 教室のプリンタ使用は原則として授業時間内に行うこと。

立体造形演習

日比　淳史

2年　前期又は後期　　選択　　（ 1単位　演習 ）

■授業の方針・概要

立体造形力を磨くため、自然物の観察と、自分なりの美しさを考察します。この授業では、金属彫刻を国内外での作品発表、環境造形、メディアや店舗/空間デザインなどの実務経験ある担当教員の経験を生かし実施します。

■到達目標（学修成果）

クリエイティブの現場において、オリジナル性の高い力が要求されます。この科目の目的を達成すれば、立体造形への理解と、オリジナル性高い造形能力を身に付けることができます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	「立体造形演習」授業内容についてのガイダンスと小演習	予習：次回課題の準備	90分
2回	課題① ケント紙による美しい陰影のレリーフ作品/制作開始	復習：デザインバリエーションの確認 予習：ブラッシュアップの準備	90分
3回	制作/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
4回	作品発表、ディスカッション、講評	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
5回	課題② 紙素材による自然物の立体作品演習/制作	復習：モチーフの観察 予習：次回制作に向けて予習	90分
6回	制作(大まかな造形完了)	復習：作品制作過程（段取り）の確認 予習：次回制作に向けて予習	90分
7回	制作(ブラッシュアップ)/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
8回	作品発表、ディスカッション、講評	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
9回	課題③ スチレンボードの積層による立体造形の演習/制作	復習：デザインバリエーションの確認 予習：次回課題の予習	90分
10回	制作	復習：作業内容の復習 予習：次回制作段取りの予習	90分
11回	制作/作品提出	復習：完成作品の問題点を考察 予習：プレゼンテーションの準備	90分
12回	作品発表、ディスカッション、講評	復習：講評内容の確認 予習：次回課題の準備	90分
13回	課題④ 粘土造形の演習（自然物の観察として手の摸刻）制作	復習：粘土の扱い方法の復習 予習：動きのあるポーズの考察	90分
14回	制作（骨格や表情の観察、自然の造形美を表現）、作品提出	復習：粘土の扱いや観察した内容の復習 予習：プレゼンテーションの準備	90分
15回	完成作品の講評と立体造形についてのまとめ後、粘土片付け	復習：講評内容と全授業内容の確認	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題ごとに提出作品のディスカッションを行い採点、返却する。授業時間外の質問は、Eメールにて受け付ける。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

必要に応じて資料を配布

■参考文献

適宜紹介

■オフィスアワー・研究室

授業前後は３４１３または講師控室。または教務まで連絡してください。

■備考

必要な材料や筆記用具、画材などは各自で用意いただきます。

授業内容は進度により変更することがあります。

定員：演習授業につき25名程度とし、大幅に超える場合は調整することもあります。

和服構成論・実習Ⅰ

平塚　由美子

2年　前期　　選択　教職課程必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

我が国の民族服である和服（平面構成）の形状を理解し、手縫いで基本的な基礎技術を習得し、実物（大裁ちひとえ長着ゆかた）の制作をすることによって更に技術と知識の向上と和服に対しての感心を深め、次世代へと継承する力を養う。

■到達目標（学修成果）

和服（きもの）の縫製を学び、進めていく為の総べての手縫いの技法を学び正確に速く縫う技術を習得することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で教職課程の学生は必修である。いずれも卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	和服（平面構成）の特徴・和服の基礎知識と名称の説明 大裁ちひとえ長着（ゆかた）製作について、各部の名称 基本的なことについての説明（男物の違いなど）運針用布、 基礎縫い等の用布の裁断、基礎縫い見本標の作成の説明	予習 教科書和服の基礎知識(P14～21) 浴衣の仕立て方(P.54～61)を読む 和裁用具を準備する。 基礎縫い見本標の作成準備	30分
2回	年間授業計画、用具の説明、運針についての説明、練習 （授業初めに10分間運針をする）基礎の縫い方・止め・くけ について説明し基礎縫い用布に正確に作成	予習　基礎縫い(P.50～53)を読む 復習　運針の練習	30分
3回	基礎縫い見本標を完成させ次週提出 ゆかたの下準備の説明(水通し・地直し・検品等)	復習　基礎縫い実習予定まで終了 運針の練習	30分
4回	学生の各自の採寸（寸法表に記入し毎回必ず持参する） 各自の寸法にてゆかたの柄合わせ・折り積もりをする	復習　基礎縫い実習予定まで終了 浴衣地用意	30分
5回	地直しをした後、身頃と袖・おくみの柄合わせをし裁断。 袖のしるしつけをする。	予習　裁ち方教科書(P.62～65)を読む ゆかたは水通しをしてくる。	30分
6回	袖縫いに入る・・袖の丸み型の作成、丸みの縫いちぢめ 丸みの始末と袖底の始末の説明	予習　しるしつけ教科書(P.67～69) 袖の縫い方教科書(P.72～73)を 読む	30分
7回	袖口の三つ折りくけの説明と袖の完成	復習　袖縫い実習予定まで終わらせる	30分
8回	身頃の縫い方の説明（各自の寸法を確認）としるしつけの 説明	予習　しるしつけ教科書(P.67～69)を 読む　両袖提出の準備	30分
9回	身頃のしるしつけ　背縫いについて説明と実習（二度縫い） 内揚げの説明　袖二枚完成させ（右・左）提出	予習　背縫い教科書(P.74～75)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
10回	背縫い・内揚げの完成	復習　背縫い・内揚げ実習予定まで 終わらせる	30分
11回	脇縫いの説明と縫代の始末の仕方の説明	予習　脇縫いの始末教科書(P84)を読む	30分
12回	脇縫いと縫い代の始末の完成 衽と上前身頃の柄合わせ	予習　肩当てつけ教科書(P.75～76) いしき当てつけ教科書(P.77) を読む	60分
13回	肩当て、いしき当ての説明と完成 衽と衿を切り離す	復習　試験問題の学習 持ち物　浴衣と半幅帯　腰ひも2本	60分
14回	ペーパーテスト（確認テスト） 浴衣の着装体験（各自浴衣持参、予備の浴衣等有り）	復習　自分で浴衣を着てみる	60分
15回	前期授業のまとめ（前期授業予定表と運針表の提出） テストの返却と答え合わせ　衽の印付け後身頃に縫い付ける	予習　おくみつけ教科書(P.78)を読む	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

前期授業の感想の講評と定期試験の解説は後期授業初回に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)毎週の運針練習による個別の進歩状態の記録、作品の評価ペーパーテストの成績などにより総合的に評価する。前期授業内で運針上達の習熟度テストを実施する。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

和服の基礎とゆかた製作　　熊田･森田･古松･秋山　共著　（有）創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎1階)　出講日：火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること

和服構成論・実習Ⅱ

平塚　由美子

2年　後期　　選択　教職課程必修　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

実習Ⅰ（前期）の課程で習得した基礎縫い技法を、実物制作することによって、和服の構成と手縫いの技術等への理解の向上を深める。大裁ちひとえ長着制作後、着装実習と和服・和装に関する基礎知識を学び、日本の伝統衣装である和服に関しての技術と知っておくべき知識を習得する事が出来る。

■到達目標（学修成果）

実習Ⅰの成果の上に、大裁ちひとえ長着（ゆかた）の制作達成と共に、和服の構成と和服全般に関する知識を充分理解することが出来る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目で教職課程の学生は必修である。いずれも卒業要件単位となる。服飾造形の基礎力をもとに和服に関する知識と技術の向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期に引き続き浴衣の制作実習。 おくみしるしつけの確認とおくみつけ	予習　おくみつけ教科書(P.78)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
2回	おくみ付けの完成と縫いしろ(耳ぐけ)の説明 衿下(三つ折ぐけ)の始末と額縁の作り方の説明	予習　衿下から裾回しの三つ折りぐけと額縁のつくり方教科書(P.85)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
3回	おくみと衿下～裾周りの三つ折りぐけの完成	復習　実習予定まで終わらせる	30分
4回	掛け衿の柄合わせ、衿と掛け衿のしるしつけの説明 本衿にかけ衿を付ける	予習　衿つけ　教科書(P.79) を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
5回	各寸法を確認して衿つけの待ち針打ちについて説明、 三つ衿芯の作成	予習　三つ衿芯入れ　教科書 (P.80)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
6回	身頃の衿肩回りの印付けをしてから身頃に衿をつける （印と印を正確に合わせる） 三つ衿芯入れ、衿幅を整えてしつけをかける	予習　衿先の始末　教科書(P.81)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
7回	衿先の作り方（男物・女物） 衿ぐけ（本ぐけ）の完成	予習　袖つけ　教科書(P.86)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	30分
8回	袖つけの説明と作成 袖の振り(女物)と人形(男物)の説明	予習　教科書(P７２～７３)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	60分
9回	肩当ての始末　袖付けの完成と仕上げ 畳み方を覚える	予習　肩当ての始末　教科書(P.87)を読む 復習　実習予定まで終わらせる	60分
10回	【着物学】<u>和服の種類を見て触って学ぶ講義</u> 第一回　寿ぎの和服　　<u>浴衣の提出開始</u>	復習　実習予定まで終わらせる	60分
11回	第二回　おしゃれ着・遊び着としての和服 <u>浴衣の提出</u>	予習　教科書(P.14～43)を読む	30分
12回	第三回　成人式・卒業式に着る和服 確認テストの範囲　　<u>浴衣の提出期限</u>	予習　教科書・配布プリントの範囲を覚える 復習　着物での立ち振る舞いを覚える	60分
13回	第四回　特別な着物 終了後講義のレポートを記入し提出 後期授業予定表に感想を書いて提出	予習　自装の準備（腰ひも２本・半幅帯） 復習　家庭でもう一度着装してみる 確認テストの勉強	30分
14回	確認テスト 各自製作のゆかたの寸法・柄合わせをチェックしながら、 自装・他装で着装して帯結びをし着心地を確認する	準備　自由着装発表の準備	30分
15回	「私のきもの遊び」と題して制作した作品を個性を生かし 自由な発想で着てみる。授業のまとめと感想	着物を自由にアレンジして発表	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内での実技テストと製作作品については14回目で講評する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%
外部評価・検定試験結果	0%

日常の学習態度(出欠席、提出物の遅滞を含む)、毎週の運針練習による個別の進歩の状態の記録、作品の評価、ペーパーテストの成績などにより総合的に評価する。後期授業期間末に技術習得状況を確認するため、技術実習テストを実施する。

■教科書

和服の基礎とゆかた製作　　熊田・森田・古松・秋山　共著　　(有)創英社

■参考文献

和服地のしおり(和裁研究室編集)

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課(本校舎１階)　出講日：火曜日

■備考

実習Ⅱは、実習Ⅰ（前期の課程）を修了していること。

衣服管理

三代　かおる

2年　前期又は後期　　選択　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

衣服は着用による汚れを回復させること(洗濯)と製品本来の性能を維持すること(手入れ、保管)を繰り返した後、廃棄あるいはリサイクルされるという一生を送る。本講義では、衣服を管理するために必要な洗浄理論や適切な保管方法を中心に学ぶ。市販されている洗濯関連商品と衣服により、実生活と結びつけてイメージしやすいように実施する。

■到達目標（学修成果）

市販の衣料用洗剤の種類や成分表示、衣類に付着している取り扱い絵表示、洗濯機や乾燥機の機能に関心を持ち、衣服に適した洗濯や保管を行うことで、最初の綺麗で美しい状態を保持し、長く大切に衣類を扱える能力を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目であり、服飾造形関係の基礎を学習する科目。卒業要件科目。教職課程履修者は必修科目となる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス　衣服管理とは　洗濯に関する知識の確認	予習:シラバスを読む。日常で使用している洗剤の確認をする。	20分
2回	衣服の汚れ　衣服の機能との関係	復習:授業資料の確認をし、衣服の機能を理解する。	30分
3回	水と洗剤　硬度成分の影響	復習:教科書を確認し、硬水の影響を理解する。	30分
4回	衣服の洗浄　洗浄に関わる要因	復習:教科書を確認し、洗浄に重要な要素を理解する。	30分
5回	界面活性剤　分類と構造 洗剤プリント提出	予習:家庭の洗剤成分を調べる。	30分
6回	配合剤　種類と作用	復習:教科書を確認し、界面活性剤と配合剤を理解する。	30分
7回	合成洗剤と環境　現在までの変化	復習:教科書を確認し、合成洗剤の変遷を理解する。総復習する。	120分
8回	中間試験	復習:試験問題を振り返る。	30分
9回	洗浄のメカニズム	復習:教科書、配布プリントを参考にして、洗浄作用を理解する。	30分
10回	実験:界面活性剤の作用　レポート提出	予習:界面活性剤の作用を理解しておく。	30分
11回	家庭洗濯	復習:教科書を確認し、洗濯条件を理解する。	30分
12回	商業洗濯	復習:教科書を確認し、理解する。	30分
13回	漂白と増白	復習:教科書を確認し、漂白剤の使用法を理解する。	30分
14回	衣服の仕上げと保管	復習:授業内容すべての総復習をして理解を深める。	120分
15回	まとめ　課題(試験やレポート等)フィードバックを行う	復習:試験問題を振り返る。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

洗剤プリント、レポートを添削返却、解説、また授業内容課題も適宜行い理解度を確認する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

増子富美ほか著、生活科学テキストシリーズ　被服管理学、朝倉書店、2012

■参考文献

授業内で適宜紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期　水曜日(10時30分～10時40分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)
後期　水曜日(12時10分～12時50分)第3校舎講師控室(第3校舎1階)

■備考

必ず教科書と配布資料を持ってくること。提出物の期日は守ること。

染色化学

中村　弥生

2年　後期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

衣服は染色と加工によって、美しさ、快適さが与えられる。染色化学では、アパレル生産において染色加工がどのように行われるか、その方法としくみを学ぶ。また、消費性能としての染色物の堅牢性、染色加工を含むアパレル生産が地球環境や社会に与える影響について考える。さらに工芸染色の技法等についても学ぶ。

■到達目標（学修成果）

アパレル生産の流れを知る。染色や加工も含めた衣服づくり、染色堅牢性などの消費科学的な性能、染色加工による環境への影響などを考慮した衣服作りができるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目。服飾を専門とする学生として必要な染料、染色加工等に関する基礎的な知識の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業についての概説	予習：シラバスを読み授業の概要を把握 復習：ﾘｱｸｼｮﾝﾍﾟｰﾊﾟｰ提出方法の確認	20分
2回	アパレル生産における染色加工工程①概要・準備工程	予習：アパレル生産の流れを把握 復習：染色加工前準備工程の確認	30分
3回	アパレル生産における染色加工工程②染色工程・浸染	予習：浸染とは何かを把握 復習：浸染の種類、方法を確認	30分
4回	アパレル生産における染色加工工程③染色工程・捺染	予習：捺染とは何かを把握 復習：捺染の種類、方法の確認	30分
5回	アパレル生産における染色加工工程④仕上げ工程	予習：仕上げ加工とは何かを把握 復習：仕上げ加工の種類と方法の確認	30分
6回	染色加工工程まとめ（資料映像視聴） 2～5回授業の確認テスト	予習：2～5回授業の資料のまとめ 復習：染色加工工程の流れを確認	30分
7回	色素	予習：色が見えるしくみを把握 復習：異なる色に見える理由を確認	30分
8回	染まるしくみ	予習：染まるしくみを把握 復習：なぜ染まるのかを確認	30分
9回	染色物の堅牢性	予習：堅牢性とは何かを把握 復習：堅牢性評価の方法と応用を確認	30分
10回	染まるしくみ・染色物の堅牢性まとめ（資料映像視聴） 7～9回授業の確認テスト	予習：7～9回授業の資料のまとめ 復習：染まるしくみ、堅牢度試験を確認	30分
11回	工芸染色①	予習：工芸染色の種類を把握 復習：工芸染色の技法を確認	30分
12回	工芸染色②（資料映像視聴）	予習：地元周辺地域の工芸染色を把握 復習：工芸染色の現状を確認	30分
13回	染色加工による環境への影響①	予習：染色加工の環境への影響を把握 復習：染色加工の環境への影響を確認	30分
14回	染色加工による環境への影響②（資料映像視聴）	予習：自分のワードローブを把握 復習：環境への影響の現状を確認	30分
15回	まとめ	予習：2～14回授業の資料のまとめ 復習：授業内容整理	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manabaを使った授業前後のリアクションペーパーの提出により受講生は授業の予習・復習を行い、教員はコメントを返す。学生の疑問が解決できる内容の授業を展開する形でフィードバックを行う。確認テストの添削返却および解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

使用しない　資料配布（各回の資料を前週に配付する。授業前に予習すること。）

■参考文献

授業内で提示

■オフィスアワー・研究室

連絡先：本校舎1階教務課（オフィスアワーに関しては初回の授業でお知らせします。）

■備考

①第1回目の授業で授業内容や受講に際しての注意などを説明します。必ず出席し、内容を十分理解してから受講して下さい。
②受講者数、授業進捗状況等により授業内容が多少変更になる場合があります。

繊維ﾌｧｯｼｮﾝ産業構造論

渡辺　博史

2年　前期又は後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

わが国の繊維ファッション産業は、原料・素材から製品、小売りの各段階による分業体制の利点を生かして発展してきた。しかし、現在はその構造が大きく変化、産業の仕組みを再構築する時代に入っている。繊維ファッション産業のグローバル化は急速に進み、国内需要の減少と海外市場の拡大を想定した産業活動に迫られている。この講義では、繊維ファッション産業の過去の発展形態と、ＳＰＡ（製造小売業）に代表される業態、シェア経済の広がりによる新たなファッション企業の登場など、産業の現状と今後を学習する。担当教員は日本における唯一のファッションビジネス専門紙である繊研新聞の記者歴が長く、その経験をベースに繊維ファッションビジネスを俯瞰して講義するとともに、定量的分析だけでなく、定性評価も盛り込む。

■到達目標（学修成果）

繊維ファッション産業を歴史的に知り、その現状と仕組みを知ることで「専門力」と「仕事力」を育成する。特に産業としてのファッションの視点を重視した講義を通して、供給者、企業家の発想を養っていく。歴史の中から時代のトレンドをとらえ、未来を予測し、産業を俯瞰した人材を養うことを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目であり、専門選択科目の単位となる。専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍するための専門力向上に資する科目とする。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション；ファッションビジネスとは何か　授業の内容を抜粋したハンドアウト（印刷物）を毎回配布する	予習：シラバスを読み、自身の関心を整理しておく	30分
2回	産業の現状と今起こっている変化；産業構造とアパレル産業の規模　衣料品市場の現状	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
3回	繊維産業の発足とアパレル産業の成り立ち；世界に誇る素材産業　産業としてのファッションの発端	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
4回	アパレル産業の成長；産業としてのファッションビジネスの変遷	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
5回	繊維素材産業（1）；川上、川中、川下の理解　繊維原料、紡績、合成繊維	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
6回	繊維素材産業（2）；繊維産地と染色・整理産業、テキスタイル産業の理解	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
7回	アパレル産業（1）；アパレル製造業の歴史と現状　クチュールからプレタへの歴史的転換	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
8回	アパレル産業（2）；アパレル製造業の組織と職種、マーチャンダイジング論	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
9回	アパレル産業（3）；アパレル産業の業種別現状　ランキングにみる企業認識	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
10回	アパレル産業（4）；アパレル小売業の概要　各業態別の企業動向、ランキングにみる企業認識	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
11回	アパレル産業（5）；アパレル専門店の概要　各業種別の企業動向、ランキングにみる企業認識	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
12回	アパレル産業（6）；アパレル製造小売業（SPA）の登場とファストファッション	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
13回	アパレル産業（7）；SPA産業の概要　主なSPA企業の成り立ちと現状	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
14回	デジタルがもたらす劇的変化；シェア経済とオムニチャネルバーチャルフィッティング	復習：ハンドアウトを読み直し理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
15回	産業構造論まとめ　論述レポートの作成と提出	これまでのハンドアウトを総合的に整理して自身のファッションビジネスに対する関心をまとめておく	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

最終回で、提出されたレポートは添削のうえ返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　毎回、レジュメ及びハンドアウト資料を配布

■参考文献　授業時に指示します。

■オフィスアワー・研究室

木曜日12時10分～13時　第3校舎・イノベーション実習室（3300）

■備考　なし

映像制作

千代崎　寛

2年　集中　　選択　　（　1単位　実習　）

■授業の方針・概要

「ファッションムービー」をテーマに、グループワークによって短時間の映像作品を共同作業のなかで制作していく。～企画、撮影、編集～　３つの過程を互いに協力しながらひとつの作品に仕上げていく。映像メディアを“みてたのしむ”から“つたえる”立場へ～　自分のイメージを表現するための有効なツールとして捉え活用していく手がかりを得る。また制作後に学内での上映・発表を予定している。鑑賞者によって“観られる”ことで、はじめて作品が成立することを学んで欲しい。

■到達目標（学修成果）

1.映像による表現は様々な分野に活かせる総合的な能力であり、情報リテラシー・伝達能力を意識することができる
2.「何を」「どのように」「どうやって」伝えていくのかという命題をたて実証と経過を記録し経験することで有効な情報伝達手段である映像について「知る」ことができる
3. グループワークによる相互の役割とコミュニケーションを通じ映像表現を理解することが可能となる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目で卒業要件科目の単位となります。ディプロマポリシー（学位授与の方針）については「映像制作」は専門コースに拘らず選択することが出来、ファッション業界で活躍できる専門力向上に資する科目です。

■授業計画（▼課題なげかけ　▲課題提出　■プレゼンテーション）

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション・映像資料鑑賞　▼ワークシート①	復習：機材・教室・備品等の申請について ▲ワークシート①	30分
2回	撮影・編集演習「カメラワーク①」「ビデオ編集①」	復習：著作権表示・クレジットの表記について	30分
3回	チームディスカッション・役割分担・スケジューリング	復習：プライバシー・人権について 予習：映像作品のリサーチ	60分
4回	撮影演習「カメラワーク②」▼ワークシート②	復習：作業内容の確認 ▼ノートについて	30分
5回	編集演習「ビデオ編集②」サウンド・音声・録音	復習：データ整理・管理	30分
6回	試写（経過プレゼン）プランニング・ノート制作の経過確認	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート②	30分
7回	撮影実習①　編集実習①　▼ワークシート③	復習：作業内容の確認	30分
8回	プレゼン（進捗状況）撮影実習②　編集実習②	復習：スケジュールの再確認	30分
9回	試写①（チーム単位）撮影実習③　編集実習③	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート③	30分
10回	撮影実習④　編集実習④　▼ワークシート④	復習：作業内容の確認	30分
11回	試写②（全チーム）撮影実習⑤　編集実習⑤	復習：試写を経ての検討・確認	30分
12回	試写③（チーム単位）撮影実習⑥　編集実習⑥	復習：試写を経ての検討・確認 ▲ワークシート④	30分
13回	編集実習⑦　映像作品完成　▼ワークシート⑤	復習：作業内容の確認	30分
14回	作品データ提出　ノート制作・資料作成「象徴的10カット」	復習：データフォーマットについて	30分
15回	「上映」■プレゼンテーション　講評　まとめ　片付け	復習：▲ワークシート⑤「制作ノート」提出のための準備	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

ディスカッションとノート、プレゼンテーション時の講評などでフィードバックを行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

なし

■参考文献

授業の進行にあわせて、プリントなどで適宜配布する

■オフィスアワー・研究室

集中授業期間：月～金曜日（17:30～18:30）空間構成研究室（日野校舎 GENERAL BLOCK 2F）

■備考

※.全て日野校舎での実習・制作になる。制作は共同作業になるため他の学生と協力して進めていく自覚と目的意識が必要になる。

基礎デザイン（平面）

桐山　征士

2年　前期　　選択　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

デザインは学習することで習得が可能である。

トレッキングシューズをデザインする。ただし、トレッキングシューズをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。デザインとアートの違いを認識するとこから始め、デザインの役割とは何かを美術家兼デザイナーの担当教員の指導のもと、デザインの本質を学んでいく。

デザイナーとして必要な経験は、圧倒的な量の蓄積である。プロフェッショナルと素人の違いはここにある。ひとつの課題に対し、ひとつの答えを導き出すための時間と労力を惜しまない情熱を育むことと、圧倒的な量をこなすことを課題とする。

また、コミュニケーションの訓練を積み重ねることで、的確に考えを伝える「言葉の操り方」を身につける。

■到達目標（学修成果）

ターゲットの設定が重要であるという意識が芽生える。デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション能力を養う。ビジュアルコミュニケーションに不可欠な描写力、illustratorによるレイアウト能力を養う。言葉を使いこなす能力を養う。デザインにおけるニーズ・ウォンツ・シーズの中から、対象者に対するアプローチの仕方を選択する意味や目的を理解する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目。本来のデザインの意味を理解し学習することで、全ての造形課題に役立つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	美術家兼デザイナーの担当教員による、デザインとアートの違い・デザインプロセスの講義	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集、整理、分析① 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：ショップの店員や登山経験者にリサーチをする。書籍、ネットで情報収集。	60分
3回	情報収集、整理、分析② 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：ショップの店員や登山経験者にリサーチをする。書籍、ネットで情報収集。	60分
4回	ターゲットの設定①　ベースとなる思想の構築 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：エスキーチェック用のエスキースをする。バリエーションを出す。	60分
5回	ターゲットの設定②　ベースとなる思想の決定 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：コミュニケーション能力の向上を目指す。積極性を養う。	60分
6回	ターゲットの設定③　カタチの考察 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：コミュニケーション能力の向上を目指す。積極性を養う	60分
7回	エスキース①　量のエスキース 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：コミュニケーション能力の向上を目指す。積極性を養う	60分
8回	エスキース②　質のエスキース　個別ディスカッション 担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：コミュニケーション能力の向上を目指す。積極性を養う	60分
9回	エスキース③　質のエスキース　個別ディスカッション 不足情報の収集、整理、分析　(PC教室)	復習：コミュニケーション能力の向上を目指す。積極性を養う	60分
10回	レンダリング①　担当教員による透視図法の解説　デモンストレーション	復習：線描の密度を上げる。	60分
11回	レンダリング②　線描	復習：線描の密度を上げる。	60分
12回	レンダリング③　カラーバリエーション	復習：着彩の密度を上げる。	60分
13回	レンダリング④　着彩(描写)　描写における色相・明度・彩度の扱い方講義・デモンストレーション(担当教員)	復習：着彩の密度を上げる。	60分
14回	レンダリング⑤　着彩(描写)　(4006工芸室)	復習：着彩の密度を上げる。	60分
15回	レンダリング⑥　着彩(描写)　(4006工芸室)	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　適宜プリントを配布

■参考文献　プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ／JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会（著）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006工芸室

■備考

初回はパソコン教室で行う。教室の都合上、定員を22名とする。

基礎デザイン（立体）

桐山　征士

2年　後期　　選択　　（　1単位　演習　）

■授業の方針・概要

金属を用いたアクセサリーをデザインし、制作する。ただし、アクセサリーをデザインすることが目的ではなく、デザインのプロセスの理解とコンセプトの構築法の学習が目的である。

デザインの定義はカタチの美しさと思われがちだが、もっと大きな観点から考える「ベースとなる思想」が必要だということを学ぶ。美術家兼デザイナーの担当教員の指導のもと、デザインとアートの違いを認識するとこから始め、デザインの役割とは何かをデザインプロセスに沿った授業の中で体験し学んでいく。

デザイナーとして必要な経験は、圧倒的な量の蓄積である。ひとつの成功の裏には膨大な量のトライ&エラーが必要だ。プロフェッショナルと素人の違いはここにある。ひとつの課題に対し、ひとつの答えを導き出すための時間と労力を惜しまない情熱を育むことと、圧倒的な量をこなすことを課題とする。

また、コミュニケーションの訓練を積み重ねることで、的確に自分の考えを伝える「言葉という道具の操り方」を身につける。教員と積極的にディスカッションする姿勢が成長の鍵となる。

■到達目標（学修成果）

ターゲットの設定が重要であるという意識が芽生える。デザインプロセスやコンセプトの構想法を学習することで、様々なデザインに応用が効くようになる。積極的なコミュニケーション力を養う。ビジュアルコミュニケーションに不可欠な描写力、言葉を使いこなす能力を養う。デザインにおけるニーズ(needs)・ウォンツ(wants)・シーズ(seeds)の中から、対象者に対するアプローチの仕方を選択する意味や目的を理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

選択科目　デザインプロセスと構想の練り方の基本を学習することで、全ての造形課題に役立つ。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	デザインとアートの違い･デザインプロセスの講義(美術家兼デザイナーの担当教員)　アクセサリーの分析	復習：講義内容に関して考察する。質問等を用意する。	60分
2回	情報収集　幅広い情報を集めイメージの幅を広げる。既成概念を取り払う。	復習：アクセサリーを見に行く。	30分
3回	情報収集・分析　アクセサリーのコンセプトやターゲットを読み解く。	復習：アクセサリーを見に行く。コンセプトを分析する。	30分
4回	コンセプトの設定　担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：ベースとなる思想の確認。誤差の修正。	30分
5回	ターゲットの趣向の考察　担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習：ターゲットの行動範囲の現地調査。	30分
6回	エスキース①　量のエスキース　バリエーションを出す。担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習:エスキースのバリエーションを出す。	60分
7回	エスキース②　質のエスキース　ブラッシュアップ担当教員、助手、学生3人による個別ディスカッション	復習:エスキースをブラッシュアップする	60分
8回	図面作成もしくはレンダリング制作　視覚的コミュニケーション力を養う。	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
9回	制作②　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
10回	制作③　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
11回	制作④　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
12回	制作⑤　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
13回	制作⑥　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
14回	制作⑦　各自の制作工程に合わせて個別指導	復習：空き時間に工芸室で制作	30分
15回	制作⑧　表面処理　完成	復習：学習した内容を整理し、今後のデザイン活動用の資料をまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

常時、質問等を受け付ける。授業で足りなかった部分はmanabaを用いてディスカッションを行う。また、今後さまざまなデザインについての質問に対処する。課題のフィードバックは15回目の提出後も含め、制作中常に行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　適宜プリントを配布

■参考文献　プロダクトデザイン 商品開発に関わるすべての人へ／JIDA「プロダクトデザイン」編集委員会（著）

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーの時間は初回の授業で指示する。研究室：4006工芸室

■備考

初回はパソコン教室で授業を行う。初回に300円の材料費を集める。　教室の都合上、定員を22名とする。

ファッション販売論上級

五十嵐　朝美

2年　後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

ファッションビジネスにおける高度な販売技術の論理的理解と現代的な接客アプローチや接客ホスピタリティ等のプロフェッショナルスキルの学習を実施。更に消費者目線を通したファッション販売の在り方やその実践的な解釈を学びます。授業では講義形式による販売論の理解、グループワーク等のアクティブラーニングを通じた相互学習、その他演習形式の現代的接客技術の体験型学習を行う実践型の授業です。尚、本科目は実務経験のある担当教員の長年の知見を活かした授業運営となります。

■到達目標（学修成果）

ファッション販売能力検定２級のテキストを参考しながら、現代のファッションビジネスに対応出来る高度なプロフェッショナルスキルを身に付け、ファッションアドバイザーとなる接客販売の応用を習得する事を目指す実践型授業です。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は専門選択科目となります。

ディプロマシー（学位授与の方針）については専門コースに関わらず選択する事が出来、ファッション業界で活躍出来る専門力向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション、販売関連知識学習 販売員の１日と購買心理の理解	授業選択理由と修得したいことについてのレポート	30分
2回	販売員の基礎①、販売関連知識学習 （笑顔、立ち居振る舞い、言葉遣い…）演習	授業を受けてのレポート作成 （気づき・チャレンジ目標設定）	30分
3回	販売員の基礎②、販売関連知識学習 お客様のお迎え、アプローチⅠ演習	授業を受けてのレポート作成、挨拶トーク、アプローチトークの作成	30分
4回	販売員の基礎③、販売関連知識学習 言葉の引き出を増やす、言葉づかい、ビジネス用語	授業を受けてのレポート作成、挨拶トーク作成	60分
5回	販売員の基礎④、販売関連知識学習 ①～③までのロールプレイ～お客様に声をかけてみる演習	授業を受けてのレポート作成、挨拶トーク、アプローチトークの作成精度UP	30分
6回	販売員の基礎⑤、販売関連知識学習 お客様のニーズを把握する演習	授業を受けてのレポート作成 ニーズを把握するための質問作成	30分
7回	販売員の基礎⑥、販売関連知識学習 お客様との会話をつなげよう、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
8回	販売員の基礎⑦、販売関連知識学習 ひきつけるプレゼンテーション、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
9回	販売員の基礎⑧、販売関連知識学習 商品提案の仕方、再提案の仕方、商品知識を高める・演習	授業を受けてのレポート作成	60分
10回	販売員の基礎⑨、販売関連知識学習 デメリット質問への対応、根拠のある商品提案の仕方・演習	授業を受けてのレポート作成 メリット、デメリットの作成	30分
11回	ココロのイロ、販売関連知識学習 ４つの行動スタイルを知る、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
12回	クレーム応対、販売関連知識学習 お客様の不満を満足に変える、アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
13回	総合演習・アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
14回	総合演習・アクティブラーニング	授業を受けてのレポート作成	30分
15回	全体の振り返り・今後の目標設定 アクティブラーニング	授業を受けて感じたこと、学んだこと、チャレンジ設定のレポート作成	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

レポートのフィードバッグは学校内システムを活用し、個別に返信。成果の確認や課題設定を行います。

■成績評価の方法・基準

授業出席・態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ファッション販売能力検定試験２級公式テキスト　改訂版、（一般財団法人　日本ファッション教育振興協会）

■参考文献

適宜示していきます

■オフィスアワー・研究室

出講日：第四校舎　４階（4035教室）　授業時間前後30分

■備考

教科書及び配布資料は必ず毎回持参のこと

色彩実践学

武田　里美

2年　後期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

本授業では、ファッションコンテンツにおいて重要な「色」を多角的に学びます。①色彩学として色を捉える、②トレンドとの接点を理解する、この2点を中心に、講義・演習により実践で活用できる知識や技能を学習します。日本流行色協会で実務経験を積んだ講師より、色彩の基礎から応用まで網羅し、色彩を活用する手法をお伝えします。必要に応じて検定のポイント学習も行います。

■到達目標（学修成果）

色彩の基本的な知識、色の持つファッション上の役割や機能を理解・習得する事が出来るようになります。
配色技法の学習では演習手法も取り入れ、自分で考えながら配色を行うことで、実践に活かせる知識や技能が身につきます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	カリキュラムのガイダンス：スケジュール、内容、演習内容 流行色とは、流行色が決まるまで	予習：シラバスの確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
2回	色はなぜ見えるのか、色と光（1）：光の種類、色温度、演色性	予習：テキスト「色と光」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
3回	色と光（2）：物体色、分光反射率、光の現象と色	予習：テキスト「色と光」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
4回	色と眼：目の構造、視細胞、順応、色の見えの変化	予習：テキスト「色と眼」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
5回	色の伝達（1）：色の精度、色名、 カラーオーダーシステム（マンセルシステム、PCCS）	予習：テキスト「色の伝達」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
6回	色の伝達（2）：混色系 混色：加法混色、減法混色、中間混色	予習：テキスト「色の伝達」「混色」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
7回	色の感情効果（1）：錯視、対比、同化	予習：テキスト「色の感情効果」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
8回	色の感情効果（2）：面積効果、色の心理的現象、恒常性 色のイメージ：色記憶/記憶色、色の連想	予習：テキスト「色の感情効果」「色のｲﾒｰｼﾞ」確認　　復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
9回	配色1(ワーク)：色相・トーンに基づいた配色、自然な色の見え、 一般的な配色技法、配色演習	予習： テキスト「配色」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
10回	配色2(ワーク)：一般的な配色技法、配色演習 身の回りのカラー分析(ワーク)	予習：テキスト「配色」確認、分析素材の準備 復習：演習課題の提出	30分
11回	商品カラーの設計、トレンドカラー解説	予習：テキスト「商品カラーの設計」確認 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
12回	カラーパレット制作1（グループワーク） ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
13回	カラーパレット制作2（グループワーク） ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分
14回	カラーパレット制作3（グループワーク） ：1年先のカラーパレットを考える	予習：パレット制作の準備(調査・素材準備) 復習：演習課題の提出	30分
15回	カラーパレット制作4（グループワーク）：発表、講師講評 全体の振り返り・まとめ	予習：パレット発表の準備 復習：ミニテストへの解答(manaba)	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業後のミニテスト および ワーク課題の提出、授業内の発表にて評価します。
ミニテストの出題・解答はmanabaを使用し、解説は次の授業の冒頭に行います。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

色彩実践学オリジナルテキスト（¥1,500程度、初回授業で販売します）、JIS対応ベーシックカラー140 B5

■参考文献

季刊誌「流行色」　一般社団法人日本流行色協会

■オフィスアワー・研究室

出講日；金曜日　第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考

授業の進行状況等により、スケジュール及び授業内容が変更される場合があります。

ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙﾌｧｯｼｮﾝﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞｾﾞﾐ

井口　多恵子

2年　通年　　選択　　（ 2単位　演習 ）

■授業の方針・概要

1年次に学んだ服飾造形の基礎、社会人基礎や配色の知識を活かし、全日本ブライダル協会認定のカリキュラムに沿ってブライダルに関する基礎知識を修得します。

■到達目標（学修成果）

①全日本ブライダル協会のブライダルファッションプランナーの資格取得の試験に合格する。
②ブライダル業界についての理解が深まり、将来のキャリア選択の視野が広がる。
③資格取得後は、さらなる上位の資格を目指す一歩になる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件の専門選択科目です。ブライダル業界で活躍できる基礎的な知識の修得に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：ブライダル協会の活動とブライダル業界の現状を学ぶ ウエディングの種類：挙式のスタイルを学ぶ。（全般、神前式）	予習：シラバスを読む テキスト「ブライダルの基礎知識」のオリエンテーションとウエディングの種類を読む。	30分
2回	ウエディングの種類：挙式のスタイルを学ぶ。（キリスト教式、人前式）1回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：1回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：ウエディングの種類を読む。	40分
3回	日本のウエディングの歴史：古来～現代の婚礼スタイルに至るまでの歴史を学ぶ。２回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：2回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：日本のウエディングディングの歴史を読む。	40分
4回	セレモニー・レセプションの現状とトレンド：多様化する現状を学ぶ。　３回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：3回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：セレモニー・レセプションの現状とトレンドを読む。	40分
5回	ファッションコーディネート：サンプル作品を見ながらウェディングドレスなどに必要な各部名称と各種類を学ぶ。 ４回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：4回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：ファッションコーディネートを読む。	40分
6回	ファッションコーディネート（継続）：サンプル作品を見ながらウェディングドレスなどに必要な各部名称と各種類を学ぶ。５回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：5回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：ファッションコーディネートを読む。	40分
7回	ファッションコーディネート実習：チュールレースを使って基本的なウェディングベールを制作する→提出	復習：6回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。	40分
8回	フォーマルファッション：ルールブックを用いて、フォーマルウェアのドレスコードを学ぶ。６回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：ベール制作の配付資料を読み返す 予習：フォーマルファッション、ルールブックを読む。	40分
9回	フォーマルファッション（継続）：ルールブックを用いて、フォーマルウェアのドレスコードを学ぶ ８回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：8回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：フォーマルファッション、ルールブックを読む。	40分
10回	カラーコーディネート：ウェディングの演出として「色」を活用できるように色彩の基礎を学ぶ。９回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：9回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：カラーコーディネートを読む。	40分
11回	フラワーコーディネート：ウェディングの空間演出をする会場装花やウェディングブーケ・ブートニアについて学ぶ。 10回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：10回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：フラワーコーディネートを読む。	40分
12回	フォトスタイリング：花嫁を美しく撮影するための基礎知識を学ぶ。11回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：11回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：フォトスタイリングを読む。	40分
13回	和装コーディネート：和装の各部名称と身に付ける小物の意味や使用している素材について学ぶ。12回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：12回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：和装コーディネートを読む。	40分
14回	カップルアテンダント：カップルの身の回りの世話やスケジュールを管理するアテンダントの役割を学ぶ。13回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：13回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：カップルアテンダントを読む。	40分
15回	結納・婚約の現状とトレンド：結納における伝統としきたり、婚約式の形式と特徴について、現状を踏まえて学ぶ。 14回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：14回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：結納・婚約の現状とトレンドを読む。	40分

16 回	マナー：人と交際するうえで必要なマナー（礼儀作法）を学ぶ。15 回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：15 回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：マナーを読む。	40 分
17 回	カラーコーディネート実習：ウェディングに関連するカラーの配色を考えて表を作成する。	復習：配付資料を読み返す。 予習：カラーコーディネートを読み返す。	30 分
18 回	フラワーコーディネート実習：造花を使って、コサージュを制作する→提出	復習：配付資料を読み返す。 予習：フラワーコーディネートを読み返す。	30 分
19 回	セレモニー、レセプション会場見学：式の多様化に対応している会場を見学する	復習：配付資料を読み返す。 予習：セレモニー、レセプションを読み返す。	30 分
20 回	衣装見学：花嫁の和装と洋装を見学し、トレンドや着付け、縫製について学ぶ	復習：配付資料を読み返す。 予習：ファッションコーディネート、和装コーディネートを読み返す。	30 分
21 回	マナー実習：食事をしながら洋食のマナーを学ぶ	予習：マナーを読み返す。	30 分
22 回	専門用語：式場で使う用語、宝飾（ジュエリー）用語を学ぶ 16 回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：16 回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：専門用語を読み返す。	40 分
23 回	接客知識：お客様に満足してもらえる物やサービスが提供できる知識を学ぶ。22 回目の授業内容のテスト実施後、答え合わせ、解説	復習：22 回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：接客知識を読む。	40 分
24 回	試験対策１：23 回目の内容の授業内テスト 過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ、→提出	復習：23 回目の授業範囲を読み返し、授業内テストの準備をする。 予習：1 回目～6 回目の内容を読み返す。	40 分
25 回	試験対策２：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：24 回目の出題を見直す。すべての単元に目を通す 予習：8 回目～13 回目の内容を読み返す	40 分
26 回	試験対策３：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：25 回目の出題を見直す。すべての単元に目を通す 予習：14 回目～16 回目、22～23 回目の内容を読み返す	40 分
27 回	試験対策４：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：26 回目の出題を見直す。すべての単元に目を通す 予習：14 回目～16 回目、22～23 回目の内容を読み返す	60 分
28 回	試験対策５：過去の検定試験問題を参考にテスト形式で出題し、回答、答え合わせ→提出	復習：27 回目の出題を見直す。 すべての単元に目を通す	60 分
29 回	模擬試験：検定試験を想定して行う。	復習：すべての単元に目を通す	60 分
30 回	まとめ　検定試験の解説	復習：検定試験の問題に目を通す	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

制作した作品について、提出後 manaba にてコメントし、返却する。模擬試験、検定試験について試験実施後に解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%	
授業内試験・課題(プレゼンテーション含む)	60%	小試験、模擬試験　作品：ベール制作、コサージュ制作
期末試験・課題(プレゼンテーション含む)	0%	
外部評価・検定試験	20%	全日本ブライダル協会認定ジュニアライセンス検定

■教科書

「ブライダルの基礎知識」全日本ブライダル協会発行
「フォーマルウェア・ルールブック」日本フォーマル協会発行
内容に応じてプリントを配付します。

■参考文献

必要に応じて適時紹介します。

■オフィスアワー・研究室

初回授業時にお知らせします。

■備考

日程及び内容は変更することがあります。
検定試験（12 月初旬に実施予定）までに 30 回の授業を確保します。（日程は随時伝えます）
テキストは毎回持参します。
検定料が 25,000 円（教科書代、受験料、認定証書代を含む）かかります。なお、見学及びテーブルマナー実習費として 11,000 円、材料費（ベール制作、コサージュ制作）に 2,000 円が別途かかります。

インターンシップ

北折　貴子

2・3年　集中　　選択　　（　2単位　実習　）

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件単位です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明。希望職種アンケート記入。	予習：企業について研究する。	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する。	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る。	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
14回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書き、報告書をまとめる。	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会での発表（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を当日発表の場でフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	60%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。教室：2401教室（第２校舎４階）・研究室：研究棟２階　6021

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2・3年後期）で２週間以上

研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県

長期インターンシップ

北折　貴子

2・3年　集中　　選択　　（　4単位　実習　）

■授業の方針・概要

専門コースを選択したことにより、将来の目標が明確になってきたと思います。卒業後の仕事について確認し、今後の授業の取り組みを見据えるために大切な体験になります。

インターンシップ（就労体験）を通して、専門分野に関連する実務体験を企業で体験・学修します。実務能力を高め、企業で必要とされる能力を感じ取ることで、卒業後の就職に対する意欲と学内での学修をより深く理解することができます。

■到達目標（学修成果）

学内授業では得られない就労体験を行うことで将来の就職に生かせる理解と能力を身につけることを目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、専門選択科目の卒業要件単位です。将来の就職に向けて仕事を理解するための選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：事前授業によるカリキュラムとスケジュール、目的、内容説明。希望職種アンケート記入。	予習：企業について研究する。	90分
2回	面談：研修先企業や職種について就職部職員との面談	復習：研修先について検討する。	60分
3回	事前授業：研修の心得とマナー等について ・企業人事の講義「企業が望むインターンシップ」	復習：企業の講義について振り返る。	30分
4回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
5回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
6回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
7回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
8回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
9回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
10回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
11回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
12回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
13回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書く。	30分
14回	企業研修：企業の現場で与えられた課題に取り組む	復習：研修日誌を書き、報告書をまとめる。	90分
15回	事後報告：報告書、研修日誌の提出と報告会での発表（学修成果と得られた技術を含む）および講評を行う。	復習：報告会での講評を振り返り、今後の学修に役立てる。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法（モニタリングを含む）

研修日誌による毎日の提出内容の企業研修先による講評、最終報告書提出の講評、報告会による講評を当日発表の場でフィードバックする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	事前授業や事後報告
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%	研修日誌や報告書
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	10%	報告会でのプレゼン
外部評価・検定試験結果	60%	企業での就労態度や実務の評価

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

授業初日に伝えます。教室：2401教室（第２校舎４階）・研究室：研究棟２階　6021

■備考

実務時期、期間：2・3年生夏休み（評価は2.3年後期）で4週間相当

研修内容、地域：企業により異なる。地域は主に首都圏および各県

家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む）

阿部　睦子

2年　前期　　選択　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

社会生活の基本単位としての家庭を経営する視点から、家族や家庭を巡る諸現象の考察を通して、より良い生活設計のあり方を探ります。授業形態は講義・演習を基本としますが、授業の展開は学生が主体的に取り組めるようにし、今後、教職の学習指導に活かすことができるとともに、学生自身の生活にいかすことを目指します。

■到達目標（学修成果）

今日の生活スタイルの特徴を理解し、①家族関係・家族心理について、②衣食住の運営について、③家庭経済について、④家庭管理についてなどの視点から家庭経営について系統的に考え理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、選択科目として卒業要件科目となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション：授業計画、生活構造の概要を知り、家庭生活の本質について考える。	予習：シラバスをよく読む。 復習：配布資料を見直す。	30分
2回	家族の形成と変遷：家族とは何か、家族の形成を中心とした人間生活の成り立ちについて歴史を辿ることで考える。	復習：配布資料を見直し、家族の形成についての理解を深める。	30分
3回	家族や家族関係をめぐる現代の諸現象と問題：現代の家族や家族関係の問題と改善案を考える。	復習：配布資料を見直し、家族関係や家族心理についての理解を深める。	30分
4回	自分らしく生きるための生活設計：生涯を見通す長期、中期、短期の設計など、ライフプランについて考える。	予習：将来をイメージしてくる。 復習：配布資料を見直す。	60分
5回	生活時間の実態と分類：生活時間からワークライフバランスについて考える	復習：配布資料を見直し、生活時間についての理解を深める。	60分
6回	「食べる」：家庭経営を具現化するために、食生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、食生活について理解を深める。	60分
7回	「着る」：家庭経営を具現化するために、衣生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、衣生活について理解を深める。	60分
8回	「住まう」：家庭経営を具現化するために、住生活の実践を通して考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、住生活に理解を深める。	60分
9回	「育つ・育てる」：子どもを育てる視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、子どもの成長に関しての理解を深める。	60分
10回	「高齢社会」：高齢者の視点から家族心理と家庭内の人間関係を考え、よりよい家庭経営の方向を考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し高齢者についての理解を深める。	60分
11回	「買う」：ライフステージ別の家計の具体例を通して家計の実態を知り、家庭経済と家庭管理について考える。	予習：発表者は準備。復習：買うことを通して社会とつながる家庭経済についての理解を深める。	60分
12回	「ジェンダー」：男女共同参画社会をベースに、よりよい家事労働の在り方について考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直しジェンダーについての理解を深める。	60分
13回	「持続可能な社会」：ESD・SDGsを通して、循環型社会を創る消費者のライフスキルついて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、持続可能な社会の形成についての理解を深める。	60分
14回	「シチズンシップ」：家庭経営と協働・共生生活を拓くライフスキルについて考える。	予習：発表者は準備。復習：配布資料を見直し、シチズンシップ教育の広がりについて理解を深める。	60分
15回	まとめ：課題のフィードバックを行い、家庭経営についての理解を深める。	予習：これまでの学習を振り返る。 復習：今後の生活課題を自覚する。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

・基本的に授業の前後どちらかに振り返りの時間を設け、ナラティブなど記述する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

・授業姿勢（欠席・遅刻も含む）

・日常課題を重要視する。

■教科書

・生きる力をつける学習−未来をひらく家庭科−　　望月　一枝　著者代表　教育実務センター

■参考文献

・２１世紀の生活経営−自分らしく生きる−　　臼井和恵　編著　同文書院

■オフィスアワー・研究室

・授業終了後３０分程度・第３校舎講師控え室（第３校舎１階）、その他何かあれば教務課経由でお願いします。

■備考　・特になし

家庭電気・機械

阿久津　勝利

2年　前期　　選択　教職課程必修　　（　1単位　講義　）

■授業の方針・概要

社会生活や家庭生活で必要となる「エネルギー変換の技術」の基礎について学びます。生活におけるエネルギーの利用について学んだ上で、日常生活で利用することが多い家庭電気機器等を取り上げ、その仕組みを知り、安全な使用方法と故障等のトラブルに対処する方法について考えます。中学校技術・家庭科における関係する指導の実際についても紹介します。

■到達目標（学修成果）

・生活におけるエネルギー変換の技術について関心をもつようになる。
・家庭生活で利用する電気機器等の仕組みの概要を理解し、安全に利用できるとともに、正しく動作しない時に、その原因について考えることができるようになる。
・エネルギー変換と利用の技術についての基本を理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となり、中学校・高等学校の教員免許取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修その後	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	日常生活におけるエネルギー利用の技術について考え、中学校における指導内容を知る。	予習：中学・高校で学んできた電気や機械に関する学習をふりかえる。 復習：学習指導要領を読んで、中学校・高等学校における指導内容を知る。	90分
2回	道具から機械の発明、機械の定義と発達の歴史、機械の構成について知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
3回	電気エネルギーの発生と利用技術を理解するために必要な基礎知識を確認する。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
4回	電気エネルギーの熱への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
5回	電気エネルギーの光への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
6回	電気エネルギーの動力への変換について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。	復習：授業後に課した課題に取り組み、授業内容の理解を深める。	90分
7回	機械の運動伝達、機構、機械材料について知る。 ミシンの構成と布を縫うしくみについて知る。	復習：関心のある機器を選び、そのしくみについて調べる。	90分
8回	電気の情報伝達への利用について考え、日常生活で使用している代表的な機器のしくみを知る。 まとめ	復習：選んだ機器について、そのしくみと、取り扱い上の留意点等についてレポートにまとめる。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて返却します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①授業に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む）
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%	②課題の達成度
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%	③レポートの内容
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・新しい時代の家庭機械・電気・情報　　池本洋一／山下省蔵　共著　　ジュピター書房

■参考文献

・中学校用　文部科学省検定教科書　新しい技術・家庭　技術分野　　代表　田口浩継　　東京書籍　令和４年度用
・生活家電入門　発展の歴史としくみ　　大西正幸　著　　技報堂出版
・家電が一番わかる　　涌井良幸　涌井貞美　著　　技術評論社

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（１１時３０分～１５時００分）
連絡研究室：２１０１教室（第２校舎１階）

■備考

なし

食物学（実践栄養学）

山田　奈緒子

2年　後期　　選択　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

栄養素の種類と体内での働きや食生活が関係する生活習慣病など栄養学の基礎を学ぶ。様々な健康・ダイエット情報に惑わされることなく、毎日の食生活やライフステージごとに活用できる正しい知識を身につける。また食物摂取頻度調査、食事記録をつけることにより、自分の栄養摂取状態・食生活・健康状態を見直し、具体的な改善方法を検討する。

■到達目標（学修成果）

食物摂取頻度調査の結果や食事記録から自分の心と体が食生活と密接につながっていることを理解する。その上で、栄養素の特徴やバランス良い食生活とは何かがわかり、実際の食生活で実践できる。
ライフステージごとの食生活上の注意点がわかる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業認定については専門選択単位（ライフスタイル関係）となり、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。学位授与の方針については、「食物学（実践栄養学）」は専門コースに拘らず選択することが出来、専門力向上に資する科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション―食べるとは？― 食べる意義について	予習：栄養・健康などについて知りたいことを考えまとめておく。 1-2ヶ月の食生活について振り返る。	30分
2回	栄養と栄養素について 栄養素の種類と水の働き	復習：五大栄養素についてまとめる。	30分
3回	炭水化物① 食物繊維の働き	復習：食物繊維の分類と役割についてまとめておく。	30分
4回	炭水化物② 糖質の種類と特徴および働き、人工甘味料について	復習：糖質の分類と特徴についてまとめる。	30分
5回	たんぱく質　食物摂取頻度調査の実施 たんぱく質の構造と働き	復習：アミノ酸の種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
6回	脂質① 脂質の種類とコレステロールの特徴	復習：コレステロールの役割と特徴についてまとめる。食事記録の作成。	30分
7回	脂質② 脂質の種類と脂肪酸の特徴	復習：脂質の質についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
8回	ビタミン① 脂溶性ビタミンの種類と特徴	復習：脂溶性ビタミンの特徴と過剰症についてまとめる。食事記録の作成。	30分
9回	ビタミン② 水溶性ビタミンの種類と特徴	復習：水溶性ビタミンの特徴と役割をまとめる。食事記録を作成する。	30分
10回	ミネラル 代表的なミネラルについて特徴と働き	復習：ミネラルの種類と役割についてまとめる。食事記録を作成する。	30分
11回	食事摂取基準の読み方について 適切なBMIの理解について	復習：健康的な食生活について考える。食事記録を作成する。	30分
12回	生活習慣病について① 肥満とやせによる問題	復習：生活習慣病の復習および食事記録の作成	30分
13回	生活習慣病について② メタボリックシンドローム、糖尿病、歯の健康など	復習：これまでの食事記録を振り返り、改善点を考える。	30分
14回	4群点数法の利用方法 自分に不足する栄養素と食品について考える	復習：4群点数法の復習および食事記録、レポートの作成	30分
15回	もっと野菜を食べよう 野菜を多く摂取するためにどうするか実験を通して考える	復習：授業の復習およびレポートの作成。正しい食生活を実践する。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

食事記録やレポートについては授業内で講評し、返却する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	10%	＊15分以上の遅刻は欠席扱いとする。10回以上の出席がない場合は、定期試験の受験資格がなくなるので注意すること。
業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%	＊毎回次回授業までの2日間の食事記録を作成する。また、まとめのレポート課題を提出する。
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

「白熱教室　食生活を考える」編著者　金子佳代子/松島悦子　アイ・ケイ・コーポレーション（2,400円）

■参考文献

授業内で紹介する

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワーは初回の授業で連絡する。　調理研究室：第3校舎 3002調理実習室内

■備考

毎回、教科書とノートを持参すること。

家庭情報処理

阿久津　勝利

2年　後期　　選択　教職課程必修　　（　1単位　講義　）

■授業の方針・概要

生活や産業における情報の意義や役割を理解し、情報処理に関する技術を高めるとともに、中学校・高等学校の家庭科教員として必要な情報や情報手段を主体的に活用する能力と態度を身に付けることをねらいとします。また、中学校における情報処理に関係する指導の実際について知り、高等学校家庭科における関連科目の指導の方法について考えます。

■到達目標（学修成果）

・生活や産業における情報に関する技術について関心を持つようになる。
・教員として必要な情報活用能力の基礎が身に付く。
・校務や問題解決にコンピュータを活用しようとする意欲が高まる。
・情報に関する基本的技術について理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

専門選択科目の卒業要件科目となり、中学校・高等学校の教員免許取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	○情報社会 ・情報とメディアとそれらの特性　・問題解決の方法 ○中学校、高等学校における情報に関する学習指導要領	予習：自分の情報手段の活用能力を確認する。 復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
2回	○情報デザイン ・情報のデジタル化　・数値の表現 ・文字、音、画像のデジタル表現　・データの圧縮 ○表計算ソフトウェアによる成績処理	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
3回	○コンピュータのしくみ ・コンピュータの構成・データ処理のしくみ・論理回路 ○表計算ソフトウェアの利用（関数、マクロ）	復習：　授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
4回	○情報通信ネットワーク ・ネットワークのしくみ　・インターネットの利用 ○表計算ソフトを利用したデータの分析	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
5回	○プログラミング入門 ・アルゴリズム　・プログラムの仕組み ・プログラムの制御構造（順次　分岐　反復） ○プログラミング１	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
6回	○プログラミング２	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
7回	○プログラミング３	復習：授業後に課した学習に取り組み授業で学んだ知識を身に付ける。	90分
8回	○情報技術の適切な活用 ○まとめ	復習：授業内容をふりかえり今後の課題について整理する。	90分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

課題やレポートは評価し、コメントを書いて授業等で返却します。家庭学習の課題を manaba course で課します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	25%	①活動に取り組む姿勢（欠席・遅刻含む）
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	45%	②課題の達成度
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%	③レポートの内容
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

・高等学校用　文部科学省検定教科書　高等学校　情報Ⅰ Step Forward！　　赤堀　侃司　他　著　　東京書籍

■参考文献

・中学校用　　文部科学省検定教科書　新しい技術・家庭　技術分野　　東京書籍　令和４年度用

■オフィスアワー・研究室

オフィスアワー：土曜日（１１時００分～１５時００分）　連絡研究室：２１０１教室（第２校舎１階）

■備考

毎時間必ず教科書と授業で配布したプリント類（ファイリングしておく。）を持参してください。また、実習で作成したデータファイルを保存するためのＵＳＢメモリーを各自購入して用意すると便利です。(詳しくは、1回目の講義で説明します。)

キャリアプランニング

渡辺　博史

2年　前期又は後期　　必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

激しいスピードで変貌する現代は、終身雇用と年功序列に守られた過去の職業観がまったく通用しない時代である。ダイバーシティや女性の社会進出など、これまでの職業意識を大きく変えることがいまや当たり前になっており、仕事に対するスタンスを早くから身につけることが求められている。「キャリア」の言葉が日本で使われ始めたのは1970年代だが、当時の概念と現在ではその意味、方向性とも変化しているといえよう。自分のキャリアを自ら切り開いて行く能力を身に付け、社会参画意識を高めていくことが学生においても必要なのだ。この講座では、自己発見を促し、現代に働くということを理解させる講義と、企業研究など社会人としての適応能力を学ぶ。講義中盤からは、現在企業で働いているベテランや若い先輩のビジネスライフの活動実態を紹介し、職業的世界の現実理解を深める。担当教員は、日本で唯一のファッションビジネス専門紙である繊研新聞の記者暦が長く、その経験をベースに特にファッションビジネスの分野で働くことの意義を学生に伝えていく。

■到達目標（学修成果）

①キャリアプランニングとは何かを知り②社会人としての基礎能力を理解し③社会人、卒業生の体験を聞くことを通して将来像を描ける能力を養う。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目の単位となります。全学生の共通必修で、社会人基礎力の向上に資する科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション；ノート，アンケート，採点基準，講義概要、ハンドアウト（印刷物）の配布	予習：シラバスを読む	30分
2回	知識・理解：大学4年でやるべき事⇒自立した家族などに聞くインタビュー型アンケートを配布,後日回収する	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
3回	知識・理解：キャリアって何，キャリアをプランニングするための理論を知る	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
4回	知識・理解：「能力」と「キャリアプランの関係」を考える	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
5回	社会人基礎力：「社会人基礎力」を身につける 演習：「自己と他者」を考える	復習：資料、ノートを読み直し、理解を深める。予習：次回の項目を読む	30分
6回	就職活動に臨む基本的スタンスを本学の就職部が講義する。就職指導を含め、就職部がサポートする内容などにも触れる	復習：就職部が提供する資料などを読み、具体的な就活イメージを養う	30分
7回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：独立して事業を立ち上げた若手デザイナーに聞く「私の就職時代以」	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
8回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：コレクションデザイナーによる最新ファッションの理解	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
9回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：ファッションメディアにおけるキャリア意識の変遷	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
10回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：変貌する流通現場で働くということ	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
11回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：卒業後に求められる社会人基礎力を身につける	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
12回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：アパレル経営者からみる必要な人材とは	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
13回	職業的世界の現実理解（ゲスト講師）：ファッションイベントのいま、キャリアプランニングノート提出	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
14回	職業的世界の現実理解：プレスアアタッシェの役割とその職業意識	復習：ゲストの話を理解して、ノートを整理する。	30分
15回	最新ファッションビジネス就職事情（ゲスト講師） まとめ講義、ノート返却	復習：返却されたノートを整理して理解を深める。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

平常点で評価します。大学ノート1冊を用意してください。13回講義の際にこのノートを提出してもらいます。採点後に評価項目を記述して15回講義時に返却しますので就活時に活用してください。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

基本的には講義をもとに自身で作成したノートや配布資料が教科書になります

■参考文献

「Ｂｒｅａｋ　Ｄｏｗｎ　Ｗａｌｌ」（尾原蓉子、日本経済新聞出版社）「キャリアデザイン入門」（大久保幸夫，日経文庫），「働く人のためのキャリア・デザイン」（金井壽宏，PHP新書）

■オフィスアワー・研究室

木曜日12時10分～13時　第3校舎・イノベーション実習室（3300）

■備考

この科目では，原則として遅刻は認めません。授業中に次のことはしてはいけません。離席、私語、飲食、メールなど授業に関係のないこと。職業的世界の現実理解は専門職社会人のゲスト講師が担当します。

心理学Ａ

手島　陽介

2年　前期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

心理学は、人の行動や心を科学的に研究する学問である。本講義では、基礎心理学の分野を中心に、心理学の全体がつかめるよう幅広い領域の理論について、概説する。「心」とは何か、「心理学」とはどのような学問か、グループ学習やディスカッションなど体験的な学習を通して、自ら学び、深めていくことを目指していく。また、服飾業界やビジネス場面において心理学知見がどのように活用されているかにも触れていく。

■到達目標（学修成果）

心理学の領域における概念を理解し知識を身につけるとともに、心理学的な見方ができるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の選択科目で卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	心とは何か①　－心理学の定義と研究分野、意識と無意識の世界－	予習:心理学という学問についてのイメージ、何を学びたいかを考えてくる。	15分
2回	心とは何か②　－心理学の活躍する場、心理学の歴史－	復習:プリントを振り返り、日常の心理現象について考える	30分
3回	性格の心理　　－個人の性格について、遺伝と環境、性格テスト－	復習:パーソナリティテストの結果を見て、自身の現在の状況について振り返る	30分
4回	発達の心理①　－乳幼児期～児童期までの発達段階と課題－グループディスカッションを通して、発達過程を考える	予習:誕生してから現在までどのような発達経過を辿ってきたのか考えてくる	15分
5回	発達の心理②　－青年期以降の発達段階と課題、アイデンティティについて－　グループワークを行い自我を考える	復習:エリクソンの発達段階説をもとに現在の自分の課題について考える	30分
6回	動機づけ（やる気・モチベーション）のメカニズム　－ストレス社会とどう向き合うか、内発的・外発的動機づけ－	復習:自身の身の回りのストレッサーについて考えコーピング方法を検討する	30分
7回	コミュニケーション　－人間関係づくり、円滑なコミュニケーションを行うには、非言語的表現と自己表現－	復習: 非言語的コミュニケーションを意識し他者と会話をしてみる	30分
8回	学習はどのように成立するか、記憶の構造とゆがみについて	復習:本日の資料と教科書を振り返り、学習の心理を復習し理解する。	30分
9回	感情のメカニズム①　－人間の感情のメカニズムと分類、感情の表出について－	予習:ここ最近に感じる感情について、出来事との関連を考えてくる	30分
10回	感情のメカニズム②　－欲求不満の心理、ストレスとストレッサーの関係、自我防衛機制－	復習:身の回りのストレッサーについて考え、コーピングを試してみる	30 分
11回	集団の心理　－集団の中での行動、社会的促進、リーダーシップについて－	復習:集団の心理的現象について振り返り日常の中での影響について考える	30 分
12回	色彩の心理学と服飾　-色が人のこころに影響する要因、知覚（視覚）の機能について、色と服飾の関係-	復習:インテリアや服など周りの色を観察し、心理的な影響について考察する	30 分
13回	自分の強み、自分を知る-日常生活の無意識や認知から自分の強みを発見し表現する、自分とは何者かを考える-	復習:授業プリントを振り返り、再度自分の強みについて振り返る	30 分
14回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90 分
15回	まとめ　課題や小テストのフィードバックを行う	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学Ａのまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか　『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社

その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編）　『人間関係の心理学』　福村出版

必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室

後期：水曜日（12：00-15：00）研究室

【連絡研究室】心理学研究室　（研究棟１階　６０１５）

■備考　毎時間、プリントと教科書を準備してください

心理学Ｂ

手島　陽介

２年　後期　　選択　　（　２単位　講義　）

■授業の方針・概要

本講義では、「心理学Ａ」の授業内容をもとに、基礎心理学から応用心理学への展開を概説する。グループ学習やディスカッションを通して体験的に学び、心理学的な知見がどのように社会場面に活かされているのかを学習していく。
心理学に親しみながら、知識を身につけるとともに、自己理解、他者理解を深めていく。

■到達目標（学修成果）

本講義を通し、論理的な思考力を養い、さまざまな見方や柔軟な行動ができるようになることを目指していく。また、学習したことを、日常生活や社会場面の中で具体的に活用できるようになることが到達目標である。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

本科目は、教養科目の卒業要件科目である。心理学的知見を身につけ、社会人としての教養・基礎力を培う。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	心理学とは何か①　－対人認知と印象形成、意識と無意識－	予習:身近な心理的な現象について考えてくる	30 分
2 回	心理学とは何か②　－対人魅力と人間関係を探る－	復習:プリントを振り返り、対人認知の心理について理解する	30 分
3 回	影響の心理①　－他者からヒトはどのように影響を受けるかを考える－交渉や説得について考えるグループワークを行う	復習:他者からの影響を受けた経験について振り返り要因を探る	30 分
4 回	影響の心理②　－ビジネス場面での影響の心理学を考える、購買の心理学－	復習:実際の CM や広告などでメディアによる心理的影響について考える	30 分
5 回	知覚の心理①　－ヒトは世界をどのように認識しているのか、ものが見える仕組み、音楽心理学、感覚器官の不思議、－	復習:教科書とプリントより、錯視や幾何学図形を見て知覚を振り返る	30 分
6 回	知覚の心理②　－音と脳の関係、音楽で変わる行動心理、音楽療法の世界－	予習:身の回りの音楽や店舗の BGM、環境音などについて調べてくる	15 分
7 回	思考の心理①　－「考える」とは何か、問題解決能力とは－グループワークを通して、思考のプロセスを考える	予習:問題を解決した、乗り越えた場面について考えてくる	60 分
8 回	思考の心理②　－創造性と創造的人格、創造性の段階－グループワークを通して、創造性について考える	復習:創造的な発想のプロセスを復習し、課題に生かしてみる	30 分
9 回	犯罪の心理　－犯罪の背景、サイコパスとは何か、法と心理学、犯罪者の心理、犯罪被害者の心理－	復習:配布プリントを振り返り、犯罪心理学の定義やデータについて確認する	30 分
10 回	精神的健康とは　－こころが健康な状態を考える－	予習:現在の自分の健康状態について考えてくる	30 分
11 回	心と身体の関係①　－認知・感情・行動・身体から心のバランスを考える－	復習:心のモデルに、様々な状況を当てはめて考える	30 分
12 回	心と身体の関係②　－呼吸法とストレス、睡眠などについて－	復習:呼吸について、日常で体験をする	30 分
13 回	幸福感と人間関係　－世界の文化と幸福感、主観的幸福感の要因－	復習:世界の幸福感についてのデータを振り返る	30 分
14 回	本授業でのまとめ課題と小テスト	予習:配布資料、教科書を読み、復習する。	90 分
15 回	まとめ	復習:返却された課題、テストを振り返り、復習する。	60 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15 回目に課題についての解説と小テストの返却をし、心理学 B のまとめをする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

二宮克美ほか　『ベーシック心理学』 医歯薬出版株式会社
その他、進行に合わせてプリントを配布する。

■参考文献

蓮見将敏ほか（編）　『人間関係の心理学』　福村出版
必要に応じて授業時に文献を紹介する。

■オフィスアワー・研究室

前期：水曜日（12：00-15：00）研究室　　後期：水曜日（12：00-15：00）研究室
【連絡研究室】心理学研究室　（研究棟１階　６０１５）

■備考

毎時間、プリントと教科書を準備してください

憲法 -法学入門-

東島　日出夫

2年　前期又は後期　　選択　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

この科目では、憲法に関する議論について学ぶことを主としつつも、総体として法学の入門として機能するような工夫を施しながら授業を進めていきます。近年耳目を集めるトピックであって憲法学と関連し得るもの（たとえば、ヘイトスピーチ、PTAに関する賛否、「ブラック企業」における就労など）はもとより、授業の計画に掲げるような様々な単元について、参考文献や具体的な判例・裁判例などを通じて理解を深め、関連する条文の内容及び解釈についての知識を身に付けつつ、法的な思考を養います。

■到達目標（学修成果）

「憲法」や「法学」などというと、堅苦しくてつまらないものというようなイメージがあるかも知れませんが、そうした不安を払拭すべく、身近なことから様々な事件などを素材に、分かりやすいだけでなく、将来社会人として生活していく上で役に立つような法的知識が得られるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目で、教養選択科目の単位となります。また、教員免許状取得を目指す方にとっては、教職課程必須科目です。そして、本授業科目は、とりわけ社会人としての資質・能力の向上に貢献します。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス、法解釈とは何か、憲法論の概説	予習：シラバスの熟読、憲法条文の印刷（電子政府 e-Gov サイトで無償入手可）	45分
2回	立憲主義、国民主権、平和主義	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
3回	人権論概説、基本的人権、人権享有主体	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
4回	基本的人権の限界	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
5回	生命・自由・幸福追求権、法の下の平等	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
6回	精神的自由権① -内心の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
7回	精神的自由権② -表現の自由-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
8回	経済的自由権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
9回	人身の自由、国務請求権、参政権	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
10回	社会権① -生存権、教育権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
11回	社会権② -勤労権、労働基本権-	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
12回	統治機構概説、権力分立	復習：講義ノートの再読と整理、参考文献等における指示箇所の読解	45分
13回	裁判所、財政・地方自治	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	45分
14回	総括・小試験	復習：講義ノートの再読と整理、紹介した判例・裁判例の重要判示部分の再読	90分
15回	補論・小試験の解説	復習：試験問題の振り返り	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目にまとめと試験、15回目にその解説をする予定。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

成績評価においては、14回目（予定）に行う授業内試験結果を基本とするが、授業態度・姿勢、日常課題等を加味する。なお、出題する可能性のある箇所は、それぞれの授業回において、その旨をその都度言及するので、復習に力を入れていただきたい。試験には、自筆の講義ノートであれば、持ち込み可とする予定であるが、持ち込み不可など条件を厳しくする場合もある。
また遅刻者は、入室時に入室時間・学籍番号・氏名を指定用紙に記載すること。

■教科書　特に指定しない。板書をするのみならずレジュメ等の資料を配布する。

■参考文献

・芦部信喜『憲法（第7版）』（岩波書店、2019年）
・初宿正典、大沢秀介他『目で見る憲法（第5版）』（有斐閣、2018年）

■オフィスアワー・研究室　連絡先：教務課（本校舎）　出講日：金曜日

■備考　なし

社会福祉学Ａ－福祉を知る－

阿部　仁

2年　前期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

社会福祉とは何か。社会福祉の定義や歴史、わが国の社会福祉制度の概要および動向、その問題状況について概説する

■到達目標（学修成果）

社会福祉に関する基本的知識の修得および自らの社会福祉観の形成

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教養選択科目の卒業要件科目である。卒業後、社会人としてさまざまな分野で活躍するために、常識の範囲内で身につけておかなければならない社会福祉に関する基本的理解を目指す

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 講義の概要、評価方法等についての説明	自らの社会福祉的体験を確認する（予習）	30分
2回	Ⅰ．人間生活と福祉 １．社会福祉とは　（１）意義	なぜ社会福祉制度が必要なのかを考える（予習）	30分
3回	（２）定義	社会福祉が必要な理由を整理する（復習）	30分
4回	２．社会福祉の対象	社会福祉の定義を整理する（復習）	30分
5回	Ⅱ．社会福祉の歴史 １．イギリスの社会福祉の歴史	社会福祉の対象を整理する（復習）	30分
6回	２．アメリカの社会福祉の歴史	エリザベス救貧法、工場法、福祉国家について理解する（復習）	30分
7回	３．日本の社会福祉の歴史	セツルメント活動、ソーシャルワークについて理解する（復習）	30分
8回	Ⅲ．社会福祉の組織 １．法制	公的救貧制度の流れを理解する（復習）	30分
9回	２．機関	日本国憲法第２５条、社会福祉法等につい整理する（復習）	30分
10回	３．施設	福祉事務所、児童相談所の業務内容等を理解する（復習）	30分
11回	４．従事者	児童福祉施設、高齢者福祉施設等について整理する（復習）	30分
12回	５．経費	保育士、社会福祉士、介護福祉士等の専門職について理解する（復習）	30分
13回	Ⅳ．社会保障制度 １．社会保障の概要	社会保障関係費、民生費について理解する（復習）	30分
14回	２．公的扶助	社会保障の必要理由を考える（復習）	30分
15回	３．社会保険	年金保険、医療保険制度について調べる（予習）	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

第8回授業において、授業内課題を行う。第10回授業において、課題内容の解説とレポート添削の返却を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新 社会福祉とは何か（第4版）』　大久保 秀子 著　　中央法規

■参考文献

授業内にて指示をする

■オフィスアワー・研究室

連絡先　教務課（本校舎1階）
出講日　金曜日

■備考

授業中の私語、飲食、メール等の受講マナーに反する行為は慎むこと

社会福祉学Ｂ－福祉を知る－

阿部　仁

2年　後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

社会福祉学Ａの授業内容を基に、社会福祉の対象について、さらにその動向や問題点を詳説する

■到達目標（学修成果）

社会福祉に関する基本的知識の修得および自らの社会福祉観の形成が到達目標である

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この教科は教養選択・卒業要件科目である。卒業後、社会人としてさまざまな分野で活躍するために、常識の範囲内として身につけておかなければならない社会福祉に関する基本的理解を目指す

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション 講義の概要、評価方法等についての説明	自らの社会福祉的体験を確認しておく（予習）	30分
2回	Ⅰ．社会福祉の基礎理解 １．意義　　２．定義	なぜ社会福祉制度が必要なのかを考える（予習）	30分
3回	Ⅱ．社会福祉援助技術 １．ソーシャルワークとは　２．ケースワークとは	社会福祉の意義・定義を整理する（復習）	30分
4回	３．グループワークとは　４．コミュニティワークとは	ケースワークの手法を整理する（復習）	30分
5回	Ⅲ．社会福祉の対象 １．貧困と福祉　（１）貧困とは	グループワーク、コミュニティワークの手法を整理する（復習）	30分
6回	（２）生活保護制度の概要と動向	相対的貧困と絶対的貧困の違いを理解する（復習）	30分
7回	２．高齢者と福祉 （１）高齢社会の動向	生活保護制度の概要と動向について整理する（復習）	30分
8回	（２）介護保険制度	高齢社会と高齢化社会の違いを理解する（復習）	30分
9回	３．子どもと福祉 （１）少子化社会の現状と課題	高齢社会の現状と課題について整理する（復習）	30分
10回	（２）児童福祉施策の動向	少子化社会の現状について整理する（復習）	30分
11回	４．女性と福祉 （１）母子保健　（２）母子福祉	保育施策や児童養護施設の現状について整理する（復習）	30分
12回	５．地域と福祉　（１）地域福祉の意義 （２）地域福祉の現状と課題	女性福祉についての基本理解と問題点を整理する（復習）	30分
13回	６．障害と福祉 （１）障害とは何か	バリアフリー、ユニバーサルデザインについて調べる（予習）	30分
14回	（２）障害児・者福祉の現状と課題	「障害とは何か」についての基本理解を整理する（復習）	30分
15回	Ⅳ．まとめ	障害児・者福祉の現状と課題について整理する（復習）	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

第8回授業において、授業内課題を行う。第10回授業において、課題内容の解説とレポート添削の返却を行う

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新 社会福祉とは何か（第4版）』　大久保 秀子 著　　中央法規

■参考文献

授業内にて指示をする

■オフィスアワー・研究室

連絡先　教務課（本校舎1階）
出講日　金曜日

■備考

授業中の私語、飲食、メール等の受講マナーに反する行為は慎むこと

化学Ａ－皮膚科学と化粧品科学－

野村　直

２年　前期　　選択　　（　２単位　講義　）

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな観点を含みながら講義します。

■到達目標（学修成果）

皮膚の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と日常の皮膚トラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目です。
卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。自身のトラブル回想。	30 分
2 回	＜皮膚概論１＞役割と基本構造、理想の肌とは	予習：自身の皮膚と理想について考える。	30 分
3 回	＜皮膚概論２－１＞皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30 分
4 回	＜皮膚概論２－２＞皮膚の付属器官、皮脂腺・汗腺・爪・毛髪の役割と構造	予習：自身の皮脂や汗、爪、毛髪について考えておく。	30 分
5 回	＜皮膚概論３－１＞皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30 分
6 回	＜皮膚概論３－２＞皮膚の性質を変える要因、肌の三大悪	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30 分
7 回	＜皮膚概論４＞皮膚の疾患、過脂性と乾燥性、ニキビ・ドライスキン	予習：自身の肌質やトラブル、原因と対処法を整理しておく。	30 分
8 回	第１回～第７回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第１回～第７回配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理。	90 分
9 回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30 分
10 回	＜皮膚概論５－１＞アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30 分
11 回	＜皮膚概論５－２＞アトピー性皮膚炎とは	復習：配布資料を振り返り、自分や身の回りの人について考え、整理する。	30 分
12 回	＜皮膚概論６－１＞化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30 分
13 回	＜皮膚概論６－２＞化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30 分
14 回	＜皮膚概論６－３＞化学物質と皮膚、刺激性とアレルギー性、化粧品の安全性	予習：自身のアレルギーや化粧品で困った経験を整理しておく。	30 分
15 回	第１回～第１４回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第２回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を以てフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、課題レポートを２回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂９版安田利顕著　漆畑修改訂　南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著　裳華房、「毛髪の科学」第４版 C.R. ロビンス著、山口真主訳　フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)　ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9 時 00 分～12 時 30 分）本校舎１階教務課

■備考

授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやＤＶＤも使用します。

化学Ｂ-皮膚と毛髪と化粧品科学-

野村　直

２年　後期　　選択　　（　２単位　講義　）

■授業の方針・概要

化学を身近な皮膚や化粧品を主体に学びます。化学は常に生活と共にあり、それを正しく知り、興味を持って利用することは、豊かな生活の助けとなります。加えて、身近な化学を学びながら、物事を科学的な視点で知り、俯瞰し、考える能力を養います。授業担当者の消費財メーカーでの研究開発・事業運営の実体験を活かし、グローバルな観点を含みながら講義します。加えて、外部専門家による最新の情報を基にした特別実習や講義も予定しています。

■到達目標（学修成果）

皮膚や毛髪の成り立ちや構造、機能を習得し、化粧品や生活習慣、その他内外的因子の影響と皮膚や毛髪のトラブル発生との関連性を考え、学修し、皮膚や毛髪を健やかに、そして、美しく保つ方法を習得します。化粧品市場や法規制などについても理解が深まります。また、授業後の皆さんの質問やコメントを共有し解説することで、身近な知識が広がります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

社会人としての資質、能力を養い、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を滋養する教養科目であり、卒業要件の選択科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	オリエンテーション；授業計画、成績評価基準、科学の歴史と生活の変化、皮膚科学・化粧品科学の概況	予習：シラバスを読む。新聞やその他で最近の科学的話題を読む。	30 分
2 回	＜皮膚総論①＞皮膚と付属器官の役割と基本構造	予習：自身の皮膚について考えておく。	30 分
3 回	＜皮膚総論②＞皮膚トラブル	予習：自身の肌トラブルと原因、その対処法を整理しておく。	30 分
4 回	＜毛髪概論①-１＞毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30 分
5 回	＜毛髪概論①-２＞毛髪の役割と基本構造、基本物性	予習：自身の毛髪やトラブル、原因、対処法を整理しておく。	30 分
6 回	＜毛髪概論②-１＞毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30 分
7 回	＜毛髪概論②-２＞毛髪の損傷と構造変化	予習：前回授業のポイント、および、自身の髪トラブルを整理しておく。	30 分
8 回	第１回～第７回のまとめ（課題レポート提出と進捗確認）	予習：第１回～第７回配布資料の学習ポイントや自身の考えを整理。	90 分
9 回	レポートおよび進捗確認のフィードバック。	復習：フィードバック内容を再確認。	30 分
10 回	＜毛髪概論③-１＞ヘアカラー	予習：自身もしくは周りの人のヘアカラーした髪を観察しておく。	30 分
11 回	＜毛髪概論③-２＞パーマネントウェーブとくせ毛矯正	予習：自身もしくは周りのパーマやくせ毛矯正した髪を観察しておく。	30 分
12 回	＜毛髪概論③-３＞ヘアスタイリング	予習：自身のスタイリングの問題点を整理しておく。	30 分
13 回	「ヘアケア実用編」企業で毛髪研究に従事している専門家による特別講義を予定	予習：第１回と第 12 回授業の内容を整理しておく。	30 分
14 回	「香りの世界」香料開発に長年従事されてきた専門家による特別講義を予定	予習：自身の香りや生活の中の香りについて考えておく。	30 分
15 回	第１回～第１４回の総まとめ（課題レポート提出）提出物はコメントを入れ後日返却とし、フィードバックとします。	予習：全配布資料を振り返り、学習ポイントや自身の考えを整理しておく。	90 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

フィードバックは授業の中で授業計画に沿って実施する。尚、第２回目レポートと期末試験のフィードバックは添削及び採点終了後、教務課にて返却を持ってフィードバックとします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	30%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	40%
外部評価・検定試験結果	0%

毎回の授業時に出欠席、遅刻を点検する。定期試験として進捗確認の為の中間テストと期末試験を実施する。また、進捗確認の実施に併せて課題レポートを２回提出するものとする。

■教科書

決まった教科書を定めず、毎回の授業時にプリントを配布します。

■参考文献

「化学ってそういうこと！」日本化学会編（化学同人）、「美容のヒフ科学」改訂９版安田利顕著、漆畑修改訂　南山堂、
「スキンケアの科学」服部道廣著　裳華房、「毛髪の科学」第４版 C.R.ロビンス著、山口真主訳　フレグランスジャーナル社、
「トコトンやさしい化粧品の本」福井寛著、日刊工業新聞、
「ヘアケアってなに？～美しい髪・健康な髪へのアプローチ」花王(株)ヘアケア研究所著、繊維社

■オフィスアワー・研究室

金曜日（9 時 00 分～12 時 30 分）本校舎１階教務課

■備考　授業はプロジェクターを使用し、パワーポイントで行いますが、必要に応じてインターネットやＤＶＤも使用します

体育Ｂ－身体と表現－

水上　雅子

２年　後期　　選択　教職課程必修　　（　１単位　演習　）

■授業の方針・概要

スポーツも日常の生活も、全て身体活動です。しかし、現在の私たちは“からだ”に対して興味が無く、自分の“からだ”なのに借り物のようです。“からだ”を意識し、どう付き合うのかを学習することは大切です。なぜなら、自分の“からだ”こそ個性であり、身体活動こそ自己を表現する基本だと思うからです。一流のスポーツ選手のパフォーマンスに感動を覚えたことはありませんか。他人の何気ない振る舞いに美しさを感じたことはありませんか。自分の身体活動にも、自然な美しさや自分らしさが表現できたら楽しいと思いませんか。個人種目とチームの課題（ダブルタッチ）で技術向上を目指し学習します。障がい者スポーツ、ニュースポーツを経験し、スポーツでの共生を学習します。

■到達目標（学修成果）

授業では、スポーツを通して自己の表現を探し、自分らしさを発見できます。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

卒業要件科目の社会人としての豊かな人間性を涵養することをめざす教養科目の単位となり、教職課程必須科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	授業のイメージづくり manaba 提出方法、到達目標、自己目標の明確化 からだを動かす―姿勢と自分の動き 一人、またはペア、グループでからだを動かす	予習　シラバスを読んでくる。 復習　自分の体の動きをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	10 分 30 分
2 回	バドミントン① 基本技術の習得　ドライブ・サーブ	復習　シャトルとボールの違いをレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
3 回	バドミントン② 基本技術の習得　ハイクリア　ダブルスゲーム	予習　ダブルスのルールを調べる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
4 回	バドミントン③ 基本技術の習得　ドロップ･ヘアピン　シングルスゲーム	復習　シングルスとダブルスのルールの確認。基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
5 回	バドミントン④ 応用技術の習得①　正式なルールでのゲーム（ダブルス）	予習　基本技術の確認 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
6 回	バドミントン⑤ 応用技術の習得②　正式なルールでのゲーム（グループ）	復習　バドミントンについてレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
7 回	ユニバーサルスポーツ① 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習　ユニバーサルスポーツを調べる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
8 回	『動きの表現－写真』 グループで動きの感じられる作品づくり	予習　作品の構想を考えてくる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
9 回	卓球① 基本技術の取得①シングル練習	予習　シングルのルールを調べる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
10 回	卓球② 基本技術の習得②ダブルス練習	予習　ダブルスのルールを調べる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
11 回	卓球③ 応用技術の習得①正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習　ルールと動きの確認をし、レポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30 分
12 回	卓球④ 応用技術の習得②正式なルールでのゲーム（チーム戦）	復習　卓球についてレポートにまとめる。基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
13 回	ユニバーサルスポーツ② 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習　ユニバーサルスポーツを調べる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
14 回	ユニバーサルスポーツ③ 障害者も健常者も共に楽しめるスポーツを実践してみる。	予習　ユニバーサルスポーツを調べる。 復習　基本運動を 3 日以上実践する。	30～60 分
15 回	正式ルールでゲームを行う。 各クラスで種目を選択し、実践する。	復習　後期に学んだことを到達目標と比較して振り返りレポートにまとめる。	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

manaba を使用し、授業内の個人の記録や課題を提出してもらい、コメント・評価を返す。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　必要に応じて資料を配布する。

■参考文献　随時紹介　経験する種目のルール集　　『はたらく細胞』（清水茜　講談社）

■オフィスアワー・研究室

初回授業で伝える　【連絡研究室】　体育研究室（第４校舎１階　体育館横）

■備考　　状況に応じて内容が変化することあり。

基本運動：毎回縄跳び（ダブルタッチなど）・腹筋・背筋―体力維持、ストレッチなど、身体活動の生活化

英語（総合）A

小林　慶子

2年　前期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

英語（総合）Aの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの４つのスキルを伸ばしていくことを目的とします。教科書の各ユニットでは、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、耳から音声を何度も聞き、口に出して練習することで教科書に出てきた会話表現を使って話せるようになることに重点を置きます。授業の最後にはプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション、教科書の進め方、自己紹介など	シラバスを読む。	30分
2回	Unit 1 Campus Life アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
3回	Unit 1 Campus Life（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
4回	Unit 2 Weekends アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
5回	Unit 2 Weekends（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
6回	Unit 3 Japanese Culture アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
7回	Unit 3 Japanese Culture（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙の確認 復習：語彙、内容の確認	30分
8回	Unit 4 Healthy Living アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
9回	Unit 4 Healthy Living（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
10回	Unit 5　Fashion アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
11回	Unit 5　Fashion（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
12回	Unit 6　Lifestyle アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
13回	Unit 6　Lifestyle（続き） アクティブ・ラーニング	予習：ユニットの文法・語彙、Key phraseを読む 復習：語彙、内容の確認	30分
14回	まとめ	前期範囲の総復習	30分
15回	講評	前期範囲の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストや章のテストは採点し、１-２週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	小テスト、発表（＋発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Chat and Share!　Topic Starters for Today's Students　話してみよう！ トピックベースの英会話（金星堂）

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日　【連絡先】本校舎１階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

英語（総合）B

小林　慶子

2年　後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

英語（総合）Bの授業では、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングの４つのスキルを伸ばしていくことを目的とします。教科書の各ユニットでは、さまざまなトピックについて英語で学びます。特に、耳から音声を何度も聞き、口に出して練習することで教科書に出てきた会話表現を使って話し、自分の意見を言えるようになることに重点を置きます。授業の最後にはプレゼンテーションを通して自分の興味関心について発表できる力を養います。

■到達目標（学修成果）

日常生活でのコミュニケーションで用いられる語彙・句表現や場面に応じた表現を身につけること、またそれらを使えるようになること。リスニングでは自然なスピードで話される英語の聞き取りができるようになること、自分の意見を適切に表現できるようにすること。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16 単位は卒業要件です。教養科目としての英語（総合）Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	イントロダクション、教科書の進め方、Unit 7について	シラバスを読む。	30 分
2 回	Unit 7　Celebration	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
3 回	Unit 7　Celebration（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
4 回	Unit 8　Travel	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
5 回	Unit 8　Travel　（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
6 回	Unit 9　Food	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
7 回	Unit 9　Food（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
8 回	Unit 10 The Environment	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
9 回	Unit 10 The Environment（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
10 回	Unit 11 Business	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
11 回	Unit 11 Business（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
12 回	Unit 12　The　Internet and Social Media	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
13 回	Unit 12　The　Internet and Social Media（続き）	予習：ユニットの文法・語いの確認 復習：語い、内容の確認	30 分
14 回	まとめ	前期範囲の総復習	30 分
15 回	講評	前期範囲の総復習	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストやUnitのテストは採点し、１-２週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	小テスト、発表（＋発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

Chat and Share! Topic Starters for Today's Students　話してみよう！ トピックベースの英会話（金星堂）

■参考文献

授業内で提示します。

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日　【連絡先】本校舎１階教務課

■備考

すべての英語レベルの学生が履修可能です。

ワールド・カルチャーA

小林　慶子

2年　前期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

各国のDVDの映像を見ながら、その国に関する一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている「英語」に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけではなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。また、教科書の様々なアクティビティを通じて、リスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの４技能を高めることが出来ます。

■到達目標（学修成果）

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーAは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	【予習】シラバスを読む。【復習】授業に必要なものを準備する。辞書など。	30分
2回	Chapter 1 India	【復習】教科書の予習、復習をする。インドについて知識を深める。	30分
3回	Chapter 1 India（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
4回	Chapter 2 Philippines	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
5回	Chapter 2 Philippines（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
6回	Chapter 3 Thailand	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
7回	Chapter 3 Thailand（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
8回	Chapter 4 Vietnam	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
9回	Chapter 4 Vietnam（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
10回	Chapter 5 Korea	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
11回	Chapter 5 Korea（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
12回	Chapter 6 France	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
13回	Chapter 6 France（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
14回	まとめ	前期の総復習	30分
15回	講評	前期の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストやChapterのテストは採点し、１-２週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	小テスト、発表（＋発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

World Adventures　映像で学ぶ世界の文化と英語（金星堂）

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日　【連絡先】本校舎１階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

ワールド・カルチャーB

小林　慶子

2年　後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

各国のDVDの映像を見ながら、その国に関する一般的な知識を深めるとともに、各国で話されている「英語」に目を向けることで、英語がいわゆる英語圏のものだけではなく、それぞれの国の言語文化背景が反映されたものであることへの理解を深めます。また、教科書の様々なアクティビティを通じて、リスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの４技能を高めることが出来ます。

■到達目標（学修成果）

諸外国の社会文化事情及びその国で話されている「英語」やその他の言語について理解できるようになること。また、英語のボキャブラリー、リスニング、ライティング、リーディングの継続的スキルアップをめざします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのワールドカルチャーAは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数		準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	導入、授業の説明 教科書や授業の進め方、Introduction	【予習】シラバスを読む。【復習】授業に必要なものを準備する。辞書など。	30分
2回	Chapter 7 Italy	【復習】教科書の予習、復習をする。イタリアについて知識を深める。	30分
3回	Chapter 7 Italy（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
4回	Chapter 8 Denmark	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
5回	Chapter 8 Denmark（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
6回	Chapter 9 Portugal	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
7回	Chapter 9 Portugal（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
8回	Chapter 10 Turkey	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
9回	Chapter 10 Turkey（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
10回	Chapter 11 Egypt	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
11回	Chapter 11 Egypt（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
12回	Chapter 12 South Africa	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
13回	Chapter 12 South Africa（続き）	【復習】前のChapterの復習 【予習】次のChapterの単語や読みを予習	30分
14回	まとめ	後期の総復習	30分
15回	講評	後期の総復習	30分

■フィードバック（試験の解説、・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

単語テストやChapterのテストは採点し、1－2週間内に返却します。返却の際に解答の基準や要点を説明します。ワークシートなどはコメントをつけて返却します。優れたコメントはクラスで紹介します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	平常点（出席、宿題、予習、授業内小課題など）
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	小テスト、発表（＋発表原稿）、意見・感想など
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

World Adventures　映像で学ぶ世界の文化と英語（金星堂）

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【出講日】水曜日　【連絡先】本校舎1階教務課

■備考

ワールドカルチャーAとワールドカルチャーBは、授業の概要・目的はほぼ同じですが、扱うトピックは異なります。現代の言語事情・世界情勢・文化事情に注目します。

実用英語 A

北澤　茉奈・Kim Collins

2年　前期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

日常会話や仕事の場面での英語でのコミュニケーション方法を学びます。

■到達目標（学修成果）について

本授業を履修することにより、食事の注文、道案内、アドバイス、様々なトピックについての会話、プレゼンテーションなど、日常的な場面で英語でのコミュニケーションができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養（国際関係）選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としての実用英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション	【予習】シラバスを読む	30分
2回	インテリア- 単数/複数、前置詞	【復習】クラスルーム・イングリッシュクイズ	30分
3回	地図 - 道を教える、尋ねる	【復習】ジャーナル準備	30分
4回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング)	【復習】ジャーナル	30分
5回	食べ物 - 料理の注文	【復習】フレーズワークシート	30分
6回	レストランの話	【復習】クイズ	30分
7回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】スピーキングテスト準備	60分
8回	中間発表テスト	【予習】テスト	30分
9回	日常生活 - スケジュール	【復習】ジャーナル準備	30分
10回	ジャーナル（あらゆるテーマでのライティングやスピーキング)	【復習】ジャーナル	30分
11回	ショッピング - 比べる	【復習】フレーズワークシート	30分
12回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】クイズ	30分
13回	最終テストのプレゼンテーション準備	【復習】スピーキングテスト準備	60分
14回	最終テストのプレゼンテーション	【復習】テスト	30分
15回	最終テストのプレゼンテーションフィードバック	【復習】テストの復習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	会話への参加含む
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	最終プレゼンテーション，中間発表テスト
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

特になし

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟3階）　【出講日】金曜日

英語研究室に連絡してください。

■備考

ハンドアウトはA4のファイルに綴じてください。期末に確認します。

実用英語 B

北澤　茉奈・Kim Collins

2 年　後期　　選択　　（ 2 単位　講義 ）

■授業の方針・概要

日常会話や仕事の場面での英語でのコミュニケーション方法を学びます。

■到達目標（学修成果）

本授業を履修することにより、映画やお祭り、伝統について話したり、さまざまなトピックについて話したり、プレゼンテーションを行ったりするなど、日常的な場面で英語でコミュニケーションをとることができるようになります。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養（国際関係）選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16 単位は卒業要件です。教養科目としての実用英語 B は、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1 回	コース紹介と夏休みについての会話	【予習】シラバスを読む 【復習】ワークシート	30 分
2 回	夏休みについてショー・アンド・テル	【復習】夏休みについてのレポート	30 分
3 回	好み 好き嫌い - 提案	【復習】ジャーナル準備	15 分
4 回	ジャーナル (あらゆるテーマでのライティングやスピーキング)	【復習】ジャーナル	30 分
5 回	Movies ムービーpt1	【復習】ワークシート	20 分
6 回	Movies ムービーpt 2	【復習】クイズ	60 分
7 回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】中間テストに向けて復習	30 分
8 回	中間発表テスト	【復習】中間テスト復習	30 分
9 回	マインドマップ	【復習】ワークシート	30 分
10 回	祭りと伝統	【復習】ジャーナル準備	30 分
11 回	ジャーナル (あらゆるテーマでのライティングやスピーキング)	【復習】ジャーナル	30 分
12 回	祭りと伝統	【復習】クイズ	30 分
13 回	プレゼンテーションスキルと準備	【復習】プレゼンテーション準備	60 分
14 回	最終プレゼンテーション	【予習】プレゼンテーション	30 分
15 回	フィードバック	まとめ	30 分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テストや課題は次回の授業で返却・解説します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	会話への参加含む
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	中間発表テスト、最終プレゼンテーション
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

なし

■オフィスアワー・研究室

【研究室】英語研究室（研究棟 3 階）　【出講日】金曜日

英語研究室に連絡してください。

■備考

ハンドアウト、テスト、プレゼンの準備は A4 のファイルに綴じてください。期末に確認します。

ファッション英語 A

北澤　茉奈

2年　前期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Aは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習:シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書　プリントを配布します。

■参考文献　必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・研究室

英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考

テキストは、プリントを用意します。

ファッション英語 B

北澤　茉奈

2年　後期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

ファッションに関する英語語彙・表現の習得、英文記事の内容を速く正確に理解する力を身につけファッション業界の最新事情に精通することを目指します。ネットニュースなど最新のファッション関連記事を扱い、語学としての英語と、服飾関連の知識の両方にフォーカスします。毎回の授業では、記事の内容把握に関する問題に取り組んでもらいます。また、ファッションに関連する動画を視聴しリスニングの練習も行います。

■到達目標（学修成果）

英語で書かれた記事の内容を理解し自分の言葉で説明できるようになる。映像と関連させながら聞こえてくる英語の内容を理解できるようになる。以上を目標とします。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養科目（国際関係）・選択科目です。教養選択科目（一般・体育・国際関係）16単位は卒業要件です。教養科目としてのファッション英語Bは、国際社会人としての資質、能力、判断力を培い、教養ある豊かな人間性を涵養することをめざしています。さらに、語学と専門の内容とを関連させ、服飾業界で活躍できる専門力向上の一助となることをめざしています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	イントロダクション 課題の詳細説明	予習:シラバスを読む。授業内容について確認する。	30分
2回	服飾関連記事の読解（1） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
3回	服飾関連記事の読解（2） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
4回	服飾関連記事の読解（3） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
5回	服飾関連記事の読解（4） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
6回	服飾関連記事の読解（5） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
7回	服飾関連記事の読解（6） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
8回	服飾関連記事の読解（7） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
9回	服飾関連記事の読解（8） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
10回	服飾関連記事の読解（9） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
11回	服飾関連記事の読解（10） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
12回	服飾関連記事の読解（11） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
13回	服飾関連記事の読解（12） ファッション関連動画の視聴と書き取り アクティブ・ラーニング	予習：クイズの準備 復習：クイズの解答に関する部分の振り返り	30-60分
14回	まとめ	予習：これまでの授業内容を振り返る	60分
15回	講評	復習：これまでの授業内容を振り返る	30-60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

クイズの解答はその場で提出してもらいます。解答は皆で共有し授業内でフィードバックを行います。まとめのテストは採点します。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	クイズ、書き取り練習の解答の提出
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

プリントを配布します。

■参考文献

必要に応じて指示します。

■オフィスアワー・研究室

英語研究室（研究棟3階6034）第1回目の授業で提示します。

■備考

テキストは、プリントを用意します。

フランス語（総合）A

福本　しのぶ

2年　前期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

フランス語の歴史を追いながら、フランス文化を学び、フランスのエスプリを感じ、フランス語の楽しさを実感できます。
フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web 辞書、Web 翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る　フランスと日本の関わり合い 基本のあいさつ	復習 ： 講義メモ整理	10分
2回	フランス語の歴史　発音の決まり	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの文化 ①	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランス語基礎会話 ①	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
5回	フランスの生活 ①	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランス映画を見る ①	予習 ： 映画の概要資料を見る	30分
7回	フランス映画を見る ②	復習 ： 見た映画を思い出す	30分
8回	映画についてディスカッション	予習 ： フランスらしさ、とは何か。	30分
9回	フランスの文化 ②	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
10回	フランス語基礎会話 ②	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
11回	フランスの生活 ②	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
12回	レポート課題を考える	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
13回	大学図書館にてフランス関連資料を見る	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
14回	レポートの仕上げ	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
15回	まとめ　ファイルチェック　レポート発表	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/理解の確認を行い、最後にレポート提出か発表をしてもらう。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノートの整理力、発音練習、積極性を重視
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	%	
外部評価・検定試験結果	%	

■教科書

随時コピー配布。
仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍や DVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。
希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。
言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

フランス語（総合）B

福本　しのぶ

2年　後期　　選択　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランスの歴史、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランス語の楽しさを実感できます。
フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。
フランス語未習者も選択可能です。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、生きたフランス語を学びましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス語への抵抗感をなくし、日常会話、ファッション関連のフランス語を身につけ、基本的な文章の理解・作成ができ、Web 辞書、Web 翻訳を使いながら、フランス語サイトなど検索できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教養選択科目として卒業要件となります。服飾業界で活躍するための資質・能力を養い、広く深い教養と総合的判断力を培うことを目指しています。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る　フランス語の歴史	復習 ： 講義メモ整理	10分
2回	発音の決まり基本のあいさつ	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
3回	フランスの生活映像 ①	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
4回	フランスの文化 ①	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
5回	フランスの芸術 ①	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
6回	フランスの過去	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
7回	フランスの現在	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
8回	フランスの生活映像 ②	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
9回	フランスの文化 ②	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
10回	フランスの芸術 ②	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
11回	レポートの課題を考える	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
12回	大学図書館にてフランス関連資料を見る	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
13回	レポートの中間発表	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
14回	レポートの仕上げ	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分
15回	まとめ　ファイルチェック　レポート発表	復習 ： 講義メモ整理・発音練習	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業開始時に、前回内容の復習/活用を行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノートの整理力、発音練習、積極性を重視
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	%	
外部評価・検定試験結果	%	

■教科書

随時コピー配布。
仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。

■参考文献

大学図書館に豊富に備えられているフランス語の書籍や DVD

■オフィスアワー・研究室

金曜日（12：20～12：50）第3校舎講師控室

■備考

フランス人との交流を試みるので、授業内容が変更することもある。
希望者には、毎年6・11月に学内で実施予定の実用フランス語検定試験の受検希望者対象に随時補習を行う。
言語は話さないと上達しませんので、積極的に声をだしてください。

ファッションフランス語 A

福本　しのぶ

2年　前期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

フランス語の初級文法、簡単な会話を学びながら、基本的なファッション用語を身につける。

映像などを見ながら、フランス・ファッション、文化に触れ、「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。フランス生まれ育ちの授業担当者による経験を活かし、一歩フランス人に近づきましょう。

■到達目標（学修成果）

フランス旅行する時、フランスでアトリエ現場研修する時などに役立つ表現を覚え使えるようになり、基本的なファッション用語が聞き取れるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連３

教養選択科目として卒業要件となります。現在フランスや日本で使用されている服飾用語を分析、つなぎ合わせていくと、服飾文化の源流の一つに辿り着き、大局的に服飾文化を見直す糸口が見つかる。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	フランスを知る　日本との違い 基本的なあいさつ	予習 ： シラバスを読む	10分
2回	アルファベ・筆記体・発音の決まり・つづり字	復習 :発音 / 筆記体練習	30分
3回	衣服の名称 ① 発音練習	復習 :発音練習	30分
4回	数字　(0～20) サイズ表現	復習 :発音練習	30分
5回	フランス人が好きなファッション（ビデオ） 発音練習	復習 :資料まとめ	30分
6回	衣服の名称 ② 発音練習	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
7回	色、フランス独自の色 名詞（男・女）	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
8回	発音練習	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
9回	生地の素材、柄 発音練習	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
10回	大学図書館のフランス語資料 ファッション用語探し	予習 ： プレゼンテーションの内容決定 復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
11回	発音練習	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
12回	数字　(20 ～ 100) ものの位置	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
13回	発音練習	復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
14回	フィードバック	予習 :資料まとめ / プレゼンまとめ	30分
15回	まとめ　プレゼンテーション	復習 :資料のファイリング	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎授業にて講義メモを出すので随時授業内でチェック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノート・ファイルの整理力、発音練習の積極性を重視
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	発音チェック、課題提出、学修ファイルチェック
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

教科書なし。毎回講義メモ配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。仏和辞典を購入希望の場合は要相談。

■参考文献

大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍・DVDやフランス語サイト。

■オフィスアワー・研究室

金曜日(12：20～12：50)第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考

フランス人との交流会を試みますが、その都合などにより、授業内容は変更することもあります。

希望者には実用フランス語検定試験5級～3級の受験指導を行います。

みなさんが声を出さないと発音を直すことはできませんので、教室では積極的に大きな声で文字を読むようにしましょう。

ファッションフランス語 B

福本　しのぶ

2年　後期　　選択　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

映像などを見ながら、フランス・ファッション、フランス文化、芸術、社会背景に触れ、フランスのファッションの在り方を見ていきます。映像、資料を見ながら解説をし、次の授業では語彙の説明、発音をし、理解を深めていきます。

フランス語の「聞く」「話す」「読む」「書く」を身につけ、最後には発表できるようにします。

■到達目標（学修成果）

フランス旅行する時、フランスでアトリエ現場研修する時などに役立つ表現を覚え使えるようになり、基本的なファッション用語が聞き取れるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連３

教養選択科目として卒業要件となります。現在フランスや日本で使用されている服飾用語を分析、つなぎ合わせていくと、服飾文化の源流の一つに辿り着き、大局的に服飾文化を見直す糸口が見つかる。

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ファッションフランス語A 簡単な復習	予習 ： シラバスを読む	10分
2回	3世紀におよぶファッション ポール・ポワレからシャネル、そして現在	復習 ： 資料を読む	30分
3回	発音練習	復習 ： 発音練習	30分
4回	フランスのファッション学校 ECSCPからCasa93まで	復習 ： 資料を読む	30分
5回	発音練習	復習 ： 発音練習	30分
6回	あなたにとってのファッションとは？ パリコレの真相	予習 ： あなたにとってファッションとは？ 復習 ： 資料を読む	30分
7回	発音練習	復習 ： 発音練習	30分
8回	フランスのファッションの多様性 FASHION MIX	復習 ： 資料を読む	30分
9回	発音練習	復習 ： 発音練習	30分
10回	大学図書館のフランス語資料	予習 ： プレゼンテーションの内容決定 復習 :資料まとめ / 発音練習	30分
11回	モードとフランス　フランス文化庁の関わり合い グループディスカッション	復習 ： 資料を読む	30分
12回	発音練習	復習 ： 発音練習	30分
13回	衣装博物館	復習 ： 資料を読む	30分
14回	フィードバック	復習 ： 資料のまとめ 予習 ： プレゼンテーションまとめ	30分
15回	まとめ　プレゼンテーション	復習 ： 資料のまとめ	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎授業にて講義メモを出すので随時授業内でチェック。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	ノート・ファイルの整理力、発音練習の積極性を重視
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	70%	発音チェック、課題提出、学修ファイルチェック
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

教科書なし。毎回講義メモ配布。

仏和辞書、フランス語教科書等お持ちの方は持参してください。仏和辞典を購入希望の場合は要相談。

■参考文献

大学図書館に豊富にあるフランス語の書籍・DVDやフランス語サイト。

■オフィスアワー・研究室

金曜日(12：20～12：50)第3校舎講師控室（第3校舎1階）

■備考

フランス人ゲストの都合、衣装博物館の展示などにより、授業内容は変更することもあります。

希望者には実用フランス語検定試験5級～3級の受験指導を行います。

みなさんが声を出さないと発音を直すことはできませんので、教室では積極的に大きな声で文字を読むようにしましょう。

中国語（総合）A

盧 繁華

2年 前期　選択　（ 2単位 講義 ）

■授業の方針・概要

一年生の総合ⅠとⅡの内容をレベルアップした中国語文の構築や品詞の働きなどを充実させる。特殊な文法文型を深めながら中国語作文を自由に活用できるように授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の聞く、話す、書く、読む総合力を高めることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(総合)A】は教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	中国語の複文構造	復習：既習の文型文法 1年目の「中文課本」第3課～16課	40分
2回	等位複文、偏正複文、多重複文	予習：第1課「自己紹介」の読み練習	30分
3回	等位複文の種類	復習：第1課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
4回	等位複文の一種→並列表現文	予習：第2課「私の家庭」の読み練習	30分
5回	偏正複文の種類	復習：第2課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
6回	偏正複文の一種→譲歩関係の表し	予習：第3課「インターネット」読み練習	30分
7回	比較文の表し方→“比”の構文	復習：第3課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
8回	特定条件複文	予習：第4課「約束」の読み練習	30分
9回	常用疑問詞の呼応表現	復習：第4課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
10回	常用副詞の活用	予習：第5課「温泉旅行」の読み練習	30分
11回	補語の種類と重要な働き	復習：第5課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
12回	方向補語	予習：第6課「私の趣味」の読み練習	30分
13回	特殊な存現文の伝達機能	復習：第6課のポイントまとめ、 所定のペーパー練習	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内及び授業外で完成した平常小テストを期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	30%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『２冊目の中国語・購読クラス』 劉穎 （白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞の『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期: 木曜日 (13:30～16:40) 研究棟6036室
後期: 木曜日 (13:30～16:40) 研究棟6036室

■備考

なし

中国語（総合）B

盧 繁華

2年 後期　選択　（ 2単位 講義 ）

■授業の方針・概要

既習の内容を実践に応用できるようにする。教材文を使うと同時に中国語圏のニュース記事などの新鮮な話題を取り入れた模範文に合わせて勉強し、文章翻訳をも新たに拡張する。

■到達目標（学修成果）

大学二年生の中国語レベルに達成し、中国語の文章力を身につけることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(総合)B】は【中国語(総合)A】と併せて教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな言語表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の文法ウォーミングアップ	復習：教科書第1課～6課までの復習	30分
2回	特殊文“是…的”	予習：教科書第7課「友達になる」	30分
3回	様態補語	復習：第7課の読解練習問題	30分
4回	可能補語	予習：教科書第8課「会食する」	30分
5回	常用疑問詞の不定用法	復習：第8課の読解練習問題	30分
6回	選択複文	予習：教科書第9課「目覚まし時計」	30分
7回	受身文“被”の構文	復習：第9課の読解練習問題	30分
8回	転折複文	予習：教科書第10課「アルバイト」	30分
9回	動量補語の用い方	復習：第10課の読解練習問題	30分
10回	使役文	予習：教科書第11課「冬休み」	30分
11回	連動文の構造	復習：第11課の読解練習問題	30分
12回	“把”の文構成特徴	予習：教科書第12課「留学」	30分
13回	常用副詞“就”、“都”の応用	復習：第12課の読解練習問題	30分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	30%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『２冊目の中国語・購読クラス』 劉穎 （白水社）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期：木曜日（13:30～16:40）研究棟6036室
後期：木曜日（13:30～16:40）研究棟6036室

■備考

なし

中国語（会話）A

盧 繁華

2年 前期　選択　（ 2単位 講義 ）

■授業の方針・概要

今まで慣れてきたリスニング・シャドーイングの発話練習の拡張をはかり、教材文中の日常臨場感がある言葉内容を会話題材にして授業を進める。

■到達目標（学修成果）

中国語の発話能力を高め、有用性のある言葉を身につけてコミュニケーションができることをめざす。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)A】は教養科目中の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな中国語の発話表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	既習の内容を再度チェックする	復習：ウォーミングアップ 1年目の「中文課本」第3～16課	30分
2回	名前、干支、年齢などの聞き方と答え方	予習：第一課「自己紹介」 読み練習	新出言葉 30分
3回	初対面の時に使う挨拶	復習：第一課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
4回	移動手段の聞き方と答え方	予習：第二課「通学」 読み練習	新出言葉 30分
5回	距離、所要時間の言い方	復習：第二課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
6回	趣味の聞き方と答え方	予習：第三課「趣味」 読み練習	新出言葉 30分
7回	できる（技術の習得)、動作の出来、程度	復習：第三課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
8回	排除（～以外）や添加（さらに）の文	予習：第四課「アルバイト」 読み練習	新出言葉 30分
9回	伝聞、所在、比較などの表現	復習：第四課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
10回	予定を尋ねる、相手を誘う時の表現	予習：第五課「スケジュール」 読み練習	新出言葉 30分
11回	招待する時、約束する時の表現	復習：第五課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
12回	介詞（～把）の文	予習：第六課「料理を注文する」 読み練習	新出言葉 30分
13回	料理を注文する時、お願いする時の表現	復習：第六課 総合練習問題 所定のペーパー練習	所定の頁 20分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のプリント まとめペーパー練習	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック（ペーパー）	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	30%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『しゃべくり中国語』 内田慶市 （金星堂）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期: 木曜日 (13:30～16:40) 研究棟6036室
後期: 木曜日 (13:30～16:40) 研究棟6036室

■備考

なし

中国語（会話）B

盧 繁華

2年 後期　選択　（ 2単位 講義 ）

■授業の方針・概要

語彙やフレーズを確実に把握した上で会話の応用範囲を深める。教材文のほかに中国の衣食住文化に触れ実践的な表現語の内容を新たに勉強する。

■到達目標（学修成果）

聞き取れる内容を正確に伝えられ、自分の意思でフリートーキングができることをめざす。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

【中国語(会話)B】は【中国語(会話)A】と併せて教養科目の一般選択科目であるが卒業認定総単位数に含まれている。将来の社会人として持つべき豊かな中国語の表現力を磨く必要な科目である。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	前期の内容を再度チェック	復習：既習の語彙・フレーズ	30分
2回	病院での表現	予習：第七課「診察を受ける」	新出言葉 30分
3回	すでに起こったことについて聞く	復習：第七課 総合練習問題	所定の頁 20分
4回	値切る時の表現	予習：第八課「買い物」	新出言葉 30分
5回	相手の意見を求める、サイズや様子がちょうど良い	復習：第八課 総合練習問題	所定の頁 20分
6回	褒める、謙遜する表現	予習：第九課「旅行」	新出言葉 30分
7回	比較文、まもなく起こること	復習：第九課 総合練習問題	所定の頁 20分
8回	反語文、使役文	予習：第十課「髪型」	新出言葉 30分
9回	いろいろな色と髪型	復習：第十課 総合練習問題	所定の頁 20分
10回	現在進行形Ⅰ（動作の進行）	予習：第十一課「ファッション」	新出言葉 30分
11回	服スタイル及び服の言い方	復習：第十一課 総合練習問題	所定の頁 20分
12回	現在進行形Ⅱ（状態の持続）	予習：第十二課「宿を予約する」	新出言葉 30分
13回	ホテルで役立つ表現のまとめ	復習：第十二課 総合練習問題	所定の頁 20分
14回	総合まとめⅠ	復習：所定のプリント	60分
15回	総合まとめⅡ	復習：セルフチェック	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

毎回授業内授業外で完成した平常小テストの答案用紙を期末授業に返して総合まとめする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	20%
授業内試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	30%
期末試験・課題(ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む)	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『しゃべくり中国語』 内田慶市 （金星堂）

■参考文献

学内図書館にある週刊新聞『中文導報』、中華圏ネットニュース・TVドラマを利用する。

■オフィスアワー・研究室

前期: 木曜日 (13:30～16:40) 研究棟6036室
後期: 木曜日 (13:30～16:40) 研究棟6036室

■備考

なし

教育原理

柄越　祥子

2年　前期　　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

本講義は、教職課程の授業であることから、教師になることを前提として、「教育とは何か」という根本的な問いについて考え、さらに学校で教育が行われていることの意味について議論しようとするものです。授業は、講義が中心になりますが、毎時間ある程度の時間をとって、4人ほどのグループに分かれ、授業内容の確認のためのディスカッションをしていただきます。また、毎回の授業の終わりには、質問票の提出が求められます。各テーマの最初と終わりにはグループワークを行う予定です。

■到達目標（学修成果）

①自分の言葉で「教育」を定義し、今日の教育目的について理解できるようになる。②学校の発達について知り、学校の現代的な課題を理解できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、卒業要件科目ではありません。教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読んで要点を確認する。	15分
2回	教育の定義（1）「教育」のイメージを探る（グループワーク）	復習：授業内で聞いた他の人の意見も参考に、自分自身の「教育」のイメージを見直す。	30分
3回	教育の定義（2）教育小事典を手がかりに	復習：プリントの取り上げた箇所を読んで、教育の定義を確認する。	30分
4回	教育の定義（3）教育学大辞典をてがかりに	復習：プリントの取り上げた箇所を読んで、ここまでのイメージや定義を見直す。	30分
5回	教育の三つのモデル　手細工モデル・農耕モデル・生産モデル	復習：プリント・教科書を参考に三つの教育モデルについて確認をする。	30分
6回	教育の新しいモデルの探求　一元論を越えたモデルを求めて（グループワーク）	復習：グループワークの内容も踏まえて教育のモデルについてまとめる。	30分
7回	「教える」と教育の違い　教育のパラドックス	復習：教科書の指摘した箇所を読んで、教育の定義についてまとめる。	60分
8回	教師を取り巻く環境　教師と子ども・教師と教師・教師と保護者・教師と国家	復習：教科書の指摘した箇所を読んで教師の環境について確認する。	30分
9回	学校とは何か（グループワーク）	復習：議論されたことの振り返りを行う。	30分
10回	学校の歴史（1）　学校はどのように発達してきたか	復習：教科書の指摘した箇所を読んで学校の発達についてまとめる。	30分
11回	学校の歴史（2）　複線型学校体系と単線型学校体系	復習：教科書の指摘した箇所を読んで学校の体系についてまとめる。	30分
12回	学校の歴史（3）　義務教育は必要か	復習：教科書の指摘した箇所を読んで義務教育についてまとめる。	30分
13回	学校と法　教育基本法・学校教育法を中心に（グループワーク）	復習：教科書の指摘した箇所を読み、グループワークの内容も踏まえて関係法規について確認する。	30分
14回	授業内容のまとめ	復習：ノート、教科書、プリントなどを確認する。	90分
15回	グループワークによるまとめ　試験のフィードバック	予習：半期のまとめを自分なりに行う。	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

14回目、15回目に試験についての解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書　沼野一男ほか『教育の原理（第四版）』学文社

■参考文献

『解説　教育六法』三省堂

その他の文献は授業中に指示します。

■オフィスアワー・研究室

前期：連絡先　本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前後　授業実施教室

■備考　なし

教育課程論

白井　勝美

2年　前期　　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

１年生の「教育制度論」を引き継ぎ、学校教育の制度・行政・課程について「学習指導要領」に視点を当てて考察して行く。概要は授業計画に記す。尚、介護等オリエンテーション（評価も含む）も本授業内容に含める。

■到達目標（学修成果）

①「学習指導要領」の歴史的変遷を知る。②これまでの「学習指導要領」の総則の主眼内容を知る。③高等学校の「家庭」の指導内容を知る。④家庭科必修漢字を習得する。⑤介護等体験の事前学習内容を知る。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となると考えている。

■授業計画

回数	授業内容（内容が回数を横断する場合がある。）	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	①オリエン　②教育課程（カリキュラム）編成の基本原理について　③教員採用試験について　家庭科教員必修漢字１	復習：家庭科教員必修漢字１の復習	30分
2回	①教育課程編成と「学習指導要領」について　②介護等体験について ③家庭科教員必修漢字２	復習：家庭科教員必修漢字２の復習 介護等体験の必要性について整理する。	30分
3回	①「学習指導要領」と教育課程の改訂について ②家庭科教員必修漢字３	復習：①家庭科教員必修漢字３の復習 ②テキストを読み返す。	60分
4回	①「学習指導要領」の歴史的変遷と改訂内容１（性格・位置づけ他）について ②家庭科教員必修漢字４	復習：家庭科教員必修漢字４の復習 学習指導要領の歴史について整理する。	30分
5回	①「学習指導要領」の歴史的変遷と改訂内容２（社会的背景他）について ②家庭科教員必修漢字５	復習：家庭科教員必修漢字５の復習 予習：中間漢字テストの準備	60分
6回	①「学習指導要領」の歴史的変遷と改訂内容３（役割や機能他）について ②中間漢字テスト	復習：学習指導要領の推移をまとめる	60分
7回	①平成30年の「学習指導要領」の改訂と教育課程について ②家庭科教員必修漢字６	復習：家庭科教員必修漢字６の復習 「生きる力」について簡潔に説明	30分
8回	①教育課程が社会に果たしている役割と機能（地域連携・学校安全）について　②家庭科教員必修漢字７	復習：家庭科教員必修漢字７の復習 「高等学校学習指導要領　総則偏」復習	60分
9回	①これまでの内容の整理　②介護等体験の概要について ③家庭科教員必修漢字８	復習：家庭科教員必修漢字８の復習 「中学校学習指導要領　総則偏」復習	60分
10回	①教育内容の選択・配列する方法について ②介護等オリエンテーション	復習：介護等体験活動の準備内容の整理	30分
11回	①地域の実態に沿った教育課程や指導計画について ②家庭科教員必修漢字９	復習：家庭科教員必修漢字９の復習 「指導計画」の復習	30分
12回	①カリキュラム・マネジメント１　（意義や重要性について） ②家庭科教員必修漢字10	復習：家庭科教員必修漢字10の復習 カリキュラムマネジメントの復習	30分
13回	カリキュラム・マネジメント２　（学力とカリキュラム評価の視点について）	復習：授業資料の再確認 カリキュラムマネジメントの復習	30分
14回	カリキュラム・マネジメント３　（課題について）	復習：授業資料の再確認 カリキュラムマネジメントの復習	30分
15回	①授業の総括（学習指導要領、教育課程、カリキュラムマネジメント） ②漢字テスト	復習：授業資料をすべて振り返る。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

試験について授業時にポイントを解説する。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	①試験　②小レポート
日常課題	10%	③授業姿勢（欠席・遅刻も含む）・日常課題を重要視する。
定期試験	60%	④その他追加については授業時に指示する。

■教科書

各最新版

『中学校学習指導要領解説－技術・家庭編－』文部科学省　『中学校学習指導要領解説　総則編』文部科学省

『高等学校学習指導要領解説　家庭編』文部科学省　『高等学校学習指導要領解説　総則編』文部科学省

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期　水曜日（11時00分～14時00分　教務課）

研究室　教育実習研究室（研究棟４階）

■備考

なし

特別支援教育概論

星　祐子

2年　前期　　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害を始めとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学習していく。

■到達目標（学修成果）

・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達について理解できる。
・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法が理解できる。
・障害はないが、特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難とその対応が理解できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、令和二年度から設置された教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の経緯や理念、仕組み	復習：近年の特別支援教育に関する制度の復習	60分
2回	学習指導要領における特別支援教育	予習：学習指導要領の確認 復習：学習指導要領の記載について復習	60分
3回	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程	予習：幼児、児童、生徒の心身の発達について下調べ	60分
4回	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒への配慮と具体的な支援について（グループディスカッション）	予習：特別の支援を必要とする幼児、児童、生徒に対する支援について下調べ	60分
5回	障害のある幼児、児童、生徒の学習上・生活上の困難について（レポート作成）	予習：障害種についてテキストで確認	60分
6回	障害のある幼児、児童、生徒への配慮と具体的な支援について（グループワーク）	復習：障害のある幼児、児童、生徒への配慮についてレポートをまとめること	120分
7回	特別支援学校、特別支援学級、通常の学級など連続性のある多様な学びの場と合理的配慮について	予習：連続性のある多様な学びの場についての下調べ	60分
8回	自立活動の教育課程上の位置づけと内容について	予習：学習指導要領の「自立活動」の記載について確認	60分
9回	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成の意義と活用（グループディスカッション）	予習：個別の教育支援計画、個別の指導計画について確認	60分
10回	心のバリアフリー教育の推進、交流及び共同学習について（レポート作成）	予習：心のバリアフリー教育について下調べ	60分
11回	学校における支援体制づくり、特別支援教育コーディネーターの役割（グループディスカッション）	復習：特別支援教育コーディネーターの役割について復習	60分
12回	保護者（家族）・関係機関との連携	予習：文献等から保護者や関係機関との連携についての情報収集	120分
13回	母国語や貧困等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の困難と対応について（グループディスカッション）	予習：母国語や貧困等に起因する困難さのある幼児児童生徒について情報収集	120分
14回	諸外国における特別支援教育の体制	復習：諸外国の特別支援教育について復習	60分
15回	特別支援教育概論のまとめ	予習：特別支援教育概論全体を通しての確認	120分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業内及び復習課題でのレポートについては、確認後、必要に応じて添削、授業内で解説をする。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

改訂版　教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト　Gakken

■参考文献

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編（幼稚部・小学部・中学部）平成30年３月

■オフィスアワー・研究室

前期：土曜日　本校舎1階教務課
後期：なし

■備考

毎時間、必ずテキストを持参してください。

道徳の指導法

柄越　祥子

2年　後期　　教職課程必修　　（ 2単位　講義 ）

■授業の方針・概要

特別の教科「道徳」は、これまで私たちが受けてきた「道徳」と何が違うのでしょう。そもそも、「道徳」とは何で、それを教科として学校の課程に設置することにどのような意味があるのか、そして実際にどのように授業を行っていけばいいのかを、歴史や現在の社会状況を踏まえて検討していきます。また実際の授業を構成展開していくために、模擬授業やグループワークを通じて考えていきます。

■到達目標（学修成果）

①道徳教育の歴史的背景を理解する。②中学校の「道徳」の学習指導案を作成する基礎知識を習得する。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、教員免許状取得のための教職課程必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	ガイダンス及び自身の道徳教育経験の振り返り	予習：シラバスの内容の確認。復習:授業内での話し合いを参考に自身の経験を振り返る。	15分
2回	学校体験の中での「道徳」と特別の教科「道徳」	復習：道徳が教科になるとこれまでとどう違うのか確認する。	30分
3回	明治・大正期の道徳教育	復習：プリントを参考に、戦前の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
4回	昭和（戦前期）の道徳教育	復習：プリントを参考に、昭和期の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
5回	戦後の道徳教育	復習：プリントを参考に、戦後の道徳の道徳教育について確認をする。	30分
6回	現代のおける道徳教育の課題	復習：プリント・教科書を参考に道徳教育の課題を確認する。	30分
7回	特別の教科「道徳」の意義と学習指導要領の検討	復習：プリント・教科書を参考に道徳教育の課題を確認し、まとめる。	30分
8回	学校教育活動全体の中での道徳教育と特別の教科「道徳」	復習：要としての「道徳」の授業について確認する。	30分
9回	学習指導案の作成と学習評価	復習：学習指導案の書き方を確認し、作成する。	30分
10回	模擬授業と振り返り①道徳の授業のねらい（アクティブ・ラーニング）	復習：自身の学習指導案の見直しを行う。	30分
11回	模擬授業と振り返り②道徳の授業の構成（アクティブ・ラーニング）	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
12回	模擬授業と振り返り③道徳教材の活用（アクティブ・ラーニング）	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
13回	模擬授業と振り返り④発問や板書の検討（アクティブ・ラーニング）	復習：模擬授業の振り返りを行う。	30分
14回	授業の振り返り	復習：ノート・配布資料などの整理、見直し	60分
15回	まとめ　課題（試験やレポート等）のフィードバック。	復習：試験問題の見直し	30分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

15回目に試験の解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

中学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳編」（最新版）文部科学省

■参考文献

好井裕明『他者を感じる社会学―差別から考える』ちくまプリマー新書（2020）

その他、授業中に適宜紹介します。

■オフィスアワー・研究室

前期：本校舎1階教務課

後期：土曜日の授業の前後　授業実施教室

■備考

なし

生徒指導論（進路指導を含む）

今泉　朝雄

2年　後期　　教職課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

本科目は、学校の二大教育機能の１つである「生徒指導」と、生徒の生き方･あり方に関わる「進路指導･キャリア教育」の指導法を学習するものである。その意義や原理を理解した上で、生徒全体への指導方法（ガイダンス）、個別の課題を抱える生徒の指導方法（カウンセリング）の基礎をそれぞれ理解し、その具体的な対応方法を実践的に検討する。

■到達目標（学修成果）

①組織的に生徒指導を進め、生徒の自己指導能力を育成するために必要な知識・技術を指導実践に活用できるようになる。
②キャリア教育、進路指導についての実践指導、教育活動計画ができるようになる。
③生徒指導、進路指導・キャリア教育の視点に立った各授業等の構成、評価による指導改善の推進、ガイダンスとカウンセリングの充実、組織的体制に関わるに必要な知識を指導実践に活用できるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は教職課程履修者必修科目であり、卒業要件科目ではない。ただし、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助となるものである。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	生徒指導・進路指導・キャリア教育とは何か 基礎的概念を理解する	予習：生徒指導の概念を考える 復習：基礎概念の言葉を整理する	計2時間
2回	生徒指導の実際を知る ある生徒指導の日記から検討する	予習：生徒指導の経験を振り返る 復習：経験と授業の内容を結びつける	計2時間
3回	理想的生徒指導と管理的生徒指導 生徒指導と法律	予習：校則の内容について振り返る 復習：本時の内容の意見をまとめる	計2時間
4回	生徒指導と教育課程 全体計画と指導体制	予習：教育課程における生徒指導を検討復習：指導体制についてまとめる	計2時間
5回	生徒指導の方法的基礎 教師のあり方と共感的理解、ガイダンスとカウンセリング	予習：教師はどうあるべきか考える 復習：事例を踏まえ本時を整理する。	計2時間
6回	生徒理解の方法とその活用 事例から考える	予習：よい教師の条件を考える 復習：本時の内容を整理する	計2時間
7回	生徒指導の課題とその指導１ いじめ問題への対応	予習：いじめ事件をネットで調べる 復習：対応策を自身なりにまとめる	計2時間
8回	生徒指導の課題とその指導２ 日常生活の指導、集団活動の指導	予習：日常生活の指導を振り返る 復習：集団活動のあり方について整理	計2時間
9回	生徒指導の課題とその指導３ インターネットと生徒	予習：自身のネット利用を振り返る 復習：本時の課題について検討する	計2時間
10回	進路指導･キャリア教育の教育的意義とその内容	予習：進路指導の意味を振り返る 復習：予習内容と本時の内容を比較	計2時間
11回	進路指導･キャリア教育の教育課程における位置付けと全体計画	予習：キャリア教育の経験を振り返る 復習：全体計画を立ててみる	計2時間
12回	自分の将来を考える ガイダンス機能による指導のあり方	予習：ガイダンスの意味を復習 復習：ガイダンスの計画を立てる	計2時間
13回	職場体験とキャリア教育 教育課程にどう位置付けるのか	予習：職場体験を振り返る 復習：過去の経験と本時の内容を比較	計2時間
14回	進路指導･キャリア教育におけるカウンセリングと自己評価	予習：4.5回授業を復習 復習：実際の自己評価方法を検討	計2時間
15回	まとめ これから求められる教育と生徒指導・キャリア教育の意義	予習：全体の復習 復習：本科目の意義をまとめる	計2時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

返却後授業内において解説する

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	20%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	50%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

刊行日未定のため、授業内で提示する。

■参考文献

文部科学省『生徒指導提要』（改訂版が公表される予定なので、授業内で提示する）

■オフィスアワー・研究室

授業終了後、教務課（本校舎）に申し出てください。

■備考

なし

教科教育法基礎（家庭）

白井　勝美

2年　後期　　教職課程必修　　（ 1単位　講義 ）

■授業の方針・概要

本学では、3年生の前期開講科目「教育方法論」及び後期の「教科教育法（家庭）」において、授業技術・方法についての考察を「家庭」という教科に視点を当てて実施して行く。この科目は2年次でその基礎作りをする。具体的には、ミニマイクロティーチング（3年次の内容とは違う）を通して、授業計画　授業実施　授業評価　授業改善に向けての基礎知識・方法を身に付ける。**授業形態はすべてActive Learningである。**

■到達目標（学修成果）

①ミニマイクロティーチングを通して、授業者を経験し授業方法等の課題が発見できる。
②実際の授業に向けて、授業準備の大切さがわかる。授業に必要な発声力、視線力等基本技術を知る。
③授業後の視点表によって、生徒役の意見を聞き取り今後の課題が発見できる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は、教職課程科目で卒業要件科目ではありません。教職課程履修者必修科目ですが、ディプロマポリシーで謳われている、社会人としての資質、能力の向上の一助なると考えている。

■授業計画

回数	授業内容(内容・目標が回を横断します。)	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	①　ミニマイクロの準備　②教科の目標確認を行なう。③学習形態や授業設計について知る。	復習:個人の発表日を確認して準備を開始する。	30分
2回	ミニマイクロの実施（教材の工夫⇒ICT を活用しての教材研究について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備をする。 復習:「生きる力」の内容を確認する。	60分 30分
3回	ミニマイクロの実施（発問の仕方や板書の仕方について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習:「発問」と「質問」の違いを整理する。	60分 30分
4回	ミニマイクロの実施（ノート指導について知る。） Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：緊張感の緩和策を考える。	60分 30分
5回	ミニマイクロの実施(学習指導案の基本的な作成の仕方について知る。）Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習:プレゼンシナリオの作成の重要性を整理する。	60分 30分
6回	ミニマイクロの実施（学習評価の基本について知る。） Active Learning	予習：担当者は発表準備する 復習：授業技術の整理を行なう。	60分 30分
7回	ミニマイクロの実施（授業展開の工夫（山場・見せ場等）について知る。）Active Learning	復習:授業内容を復習する。教材教具の必要性について考える	60分
8回	ミニマイクロの実施（3年次の教科教育法（家庭）に向けての課題整理を行なう。）Active Learning	復習:授業資料を振り返る　今後の課題についてまとめる。	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

各授業時に授業技術ポイントについてコメントと解説を行う。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
ミニマイクロの実施	30%
提出物	20%
ペーパー試験	20%

■教科書

担当者がプリント資料を準備する。

■参考文献

授業時に指示する。

■オフィスアワー・研究室

前期・後期　　水曜日（11時00分～14時00分　教務課）
研究室　研究棟４階　教育実習研究室

■備考

教職課程と専門課程を両立すること。安易な気持ちで履修しないこと。出席を重要視するので、日頃の体調管理に気をつけること。

教育現場でのICT活用

小林　輝明

2年　後期　　選択　教職課程必修　　（　1単位　講義　）

■授業の方針・概要

教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について、小中学校教員としての実務経験を活かし、これまでの経緯と「GIGAスクール構想」によって児童・生徒に１人１台の端末配布が進んでいる現状に基づいて、授業における児童・生徒および教員によるICT活用の他、端末を効果的に使った教材研究・指導の準備と授業中の指導、学習評価に関する活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。また，変化の激しい情報社会を自ら生きていくために必要な資質・能力である情報活用能力について、基礎的な理解、具体的な指導法、教育課程上の位置付けについて解説する。本授業では、講義および視聴覚資料による解説・事例紹介に加え、受講生が自らICT機器を活用し実践的かつ体験的に学修する。

■到達目標（学修成果）

(1) 教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解できるようになる
(2) ICTを活用した教科指導や校務の実際を体験することで、授業への活用を具体的に考えられるようになる
(3) 情報活用能力を育成する意義および情報モラルなどを指導できる能力を身に付けられるようになる

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

教職課程を履修している学生には必修の授業です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション　現代社会におけるICTの役割 授業の進め方について、発表内容と順番の決定	復習：キーワードの確認、教科書を読む	復2時間
2回	教育におけるICTと教師のICT活用能力 NITSのオンライン講座等を活用して学ぶ	予習：学習指導要領の確認 復習：視聴覚教材の内容復習	予1時間 復1時間
3回	情報モラル・情報セキュリティ教育の重要性 SNSでのトラブルなどを例にグループワークを行う	予習：キーワードの確認 復習：事例の収集と解決策の検討	予1時間 復1時間
4回	授業や校務でのICTの活用① 授業に校務におけるICT機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予1時間 復1時間
5回	授業や校務でのICTの活用② 授業に校務におけるICT機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予2時間 復2時間
6回	授業や校務でのICTの活用③ 授業に校務におけるICT機器の活用を考え発表する	予習：指導方法や発表案の検討 復習：指導方法や発表案の検討	予2時間 復2時間
7回	授業や校務でのICTの活用④ 授業や校務におけるICT機器の活用を考え発表する	予習：実施方法や発表案の検討 復習：実施方法や発表案の検討	予2時間 復2時間
8回	まとめと教職への進路設計 教職の意義を考え、今後の進路設計をする	予習：教職までの道程の確認、ICT導入の改善点の検討	予1時間

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

最終授業及びメール等を用いて行います

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

ICT“超かんたん”スキル　時事通信社

■参考文献

授業内で紹介します

■オフィスアワー・研究室

連絡先：教務課　出講日：土曜日

■備考

なし

博物館経営論

丸山　憲子

2年　前期　　学芸員課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

博物館の経営について学習する。多様化する博物館の経営体制について認識を深め、今日の博物館経営をめぐる諸相を把握し、今、博物館に何が求められているのか、また博物館本来の存在意義について学習する。

■到達目標（学修成果）

・博物館の適切な機能や経営体制の把握
・ミュージアムマネージメントについての基礎的事項の理解
・現代博物館を多角的な視点で考察できることを目標とする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得するべき博物館に関する科目の単位の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館経営論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	ミュージアムマネージメントの意義について学習する。	予習：教科書の博物館経営論部分を読んでおくこと。 復習：ミュージアムマネージメントについてまとめておくこと。	60分
3回	博物館法について学習する。	復習：博物館法の復習	30分
4回	独立行政法人立等、設立母体について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	指定管理者等、設立母体について学習する。 設立母体についてのまとめ	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
6回	博物館評価について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
7回	博物館の館内組織・館外組織について学習する。	復習：配布資料の読み返し。教科書読み返し。	30分
8回	博物館の施設・設備について学習する。	予習：インターネット上で博物館建築をリサーチしておくこと。 復習：配布資料の読み返し。	60分
9回	博物館におけるマーケティングについて学習する。	復習：配布資料の読み返し、マーケティングについてまとめておくこと。	30分
10回	ミュージアムショップやレストラン等アメニティという側面から学習する。	予習：インターネット上でミュージアムショップ、レストランをリサーチしておくこと。 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	60分
11回	今日の社会状況を踏まえた博物館の課題について学習する。	復習：配布資料の読み返し、博物館をめぐる課題をまとめておくこと。	30分
12回	まとめ及びプレゼンテーションのための説明。	復習：配布資料の読み返し、全体の振り返り	90分
13回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り	90分
14回	実在する博物館を挙げて経営論の観点よりプレゼンテーション	予習：プレゼンテーション準備 復習：配布資料の読み返し、授業の振り返り・プレゼンテーション準備	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験・プレゼンテーションの後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編　芙蓉書房出版

■参考文献

随時　紹介する
課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。
連絡：大学校舎講師控え室　又は　教務課（本校舎1階）
出講日：土曜日

■備考　積極的に博物館見学をし、manaba 等を利用しての見学記の発表をしてもらいます。

博物館資料論

丸山　憲子

2年　前期　　学芸員課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

博物館において資料は必要不可欠な存在である。どんな博物館でも「資料」を有し、コレクションをなしている。今日の博物館のコレクションは多種多様であり、一口で「博物館」と言ってもその範囲は極めて大きい。本講では現代博物館が扱う資料（コレクション）について、博物館の歴史とともに体系的に学習する。また、資料収集・整理保管・調査研究・教育普及という４つの博物館機能（活動）を通して、いわゆる実物（１次資料）から２次資料が発生していくことを理解し、それぞれの機能（活動）における１次資料・２次資料の特性・役割を学習する。

■到達目標（学修成果）

博物館資料の様々な特性を理解し、博物館活動にとって必要なもの・ことを認識できるようにする。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

学芸員になるための資格取得（大学を卒業して学士の学位を取得して学芸員になるための資格を取得する方法）のために、文部科学省令の定める大学で習得するべき博物館に関する科目の単位の一つ。卒業要件科目ではありません。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	オリエンテーション（博物館資料論の概要の説明・授業計画）	予習：シラバス（学芸員課程部分）を読んでおくこと。	30分
2回	博物館の成立背景に見られる資料についての事例を挙げ、博物館＝資料の存在を認識する。	予習：教科書の博物館資料論の部分を読んでおくこと。	30分
3回	１次資料と２次資料の博物館活動においての役割、及び資料の価値について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
4回	１次製作資料として分類される実物製作資料と情報製作資料について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
5回	１次標本資料（１）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。」	30分
6回	１次標本資料（２）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
7回	１次資料についてのまとめ ２次資料（１）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
8回	２次資料（２）について学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
9回	２次複合製作資料について学習する。 ２次資料についてのまとめ	予習：１次資料・２次資料の違い、種類を再確認しておくこと。 復習：語句の整理をしておくこと。	60分
10回	博物館機能を再確認する。 資料の収集について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
11回	資料の整理保管について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
12回	資料の調査研究活動について学習する。	復習：教科書の読み返し、語句の整理をしておくこと。	30分
13回	教育普及という観点から、資料のもつ意味とその効果について学習する。	復習：配布資料の読み返し、教育普及活動のまとめをしておくこと。」	30分
14回	資料の取り扱い、及び運搬という観点から学習する。	復習：配布資料の読み返し、語句の整理をしておくこと。	90分
15回	総まとめ	復習：振り返り	60分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

小テスト・試験の後の解説

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%
外部評価・検定試験結果	0%

■教科書

『新時代の博物館学』全国大学博物館学講座協議会西日本部会編　芙蓉書房出版

■参考文献

随時　紹介する

課題内容に即した資料プリントを配布します。

■オフィスアワー・研究室

講義日の講師控室、もしくは教務課を通じて連絡をしてください。

連絡：大学校舎講師控え室　又は　教務課（本校舎１階）

出講日：土曜日

■備考　積極的に博物館見学をし、manaba 等を利用しての見学記の発表をしてもらいます。

博物館資料保存論

桝渕　規彰

2年　後期　　学芸員課程必修　　（　2単位　講義　）

■授業の方針・概要

博物館資料論を基礎として、博物館資料の保存の意義、目的、資料保存の前提としての劣化要因とその対策、資料の材質に応じた劣化対策、保存技術等について、論理的に授業を進めます。

■到達目標（学修成果）

学芸員が日常的に取り扱う博物館資料について、収集、保管、調査研究、展示他の活用といった博物館機能の各局面において、資料保存の理論と実践法を習得し、時代に適応できる博物館学芸員としての資質を得られるようになる。

■卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

この科目は卒業要件科目ではありませんが、学芸員資格取得のための必修科目です。

■授業計画

回数	授業内容	準備学修	
		具体的内容（予習・復習等）	必要時間
1回	博物館資料保存の意義、目的	予習　シラバスを事前に目を通す	30分
2回	博物館資料の種類と特性	復習　博物館資料の種類と種類ごとの特性について確認する。	30分
3回	文化財保護と博物館資料１	復習　文化財と博物館資料の関係について確認する。	30分
4回	文化財保護と博物館資料２	復習　博物館資料と文化財保護の関係について確認する。	30分
5回	博物館史にみる資料保存の方法	復習　博物館史上の伝統的保管方法について確認する。	30分
6回	博物館資料の材質による劣化と対策１ 瞬間的・破壊的な劣化(人災、天災)	復習　人災や天災による瞬間的・破壊的な劣化と対策について確認する。	30分
7回	博物館資料の材質による劣化と対策２ 緩慢、確実に進行する劣化①(温湿度、大気等)	復習　温湿度の変化、大気中の粉塵等の影響・対策について確認する。	30分
8回	博物館資料の材質による劣化と対策３ 緩慢、確実に進行する劣化②(汚染物質、薬品類、光等)	復習　大気中の汚染物質及び薬品類、光等の影響・対策について確認する。	30分
9回	博物館資料の材質による劣化と対策４ 緩慢、確実に進行する劣化③(虫害、黴菌類等)	復習　虫害及び黴菌類等の影響・対策について確認する。	30分
10回	博物館資料の修理と修復	復習　博物館資料の修理・修復の必要性とその方法について確認する。	30分
11回	博物館資料の保存環境(収蔵施設・展示施設等)	復習　博物館資料の保管・展示に適した施設の条件について確認する。	30分
12回	博物館資料保存のための科学技術１	復習　博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
13回	博物館資料保存のための科学技術２	復習　博物館資料の保存科学技術について確認する。	30分
14回	博物館資料の取扱い１(資料取扱い上の留意点等)	復習　博物館活動の様々な局面における資料取扱い上の留意点を再確認する。	45分
15回	博物館資料の取扱い２(展示ほかの活用等)	復習　展示他の活用の局面での資料保存を前提とする取扱い法を確認する。	45分

■フィードバック（試験の解説、試験・レポート添削返却、メールや学内システム等の活用）方法

授業時間中に小試験を実施し、出題の意図及び模範回答等について解説し、理解・習得の促進をサポートします。

■成績評価の方法・基準

授業態度・姿勢	30%	授業への取組みは、出欠状況を中心に受講態度、取組状況等評価します。授業内試験を実施し、講義内容の理解度を測定し、成績判定に活用します。
授業内試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	70%	
期末試験・課題（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ含む）	0%	
外部評価・検定試験結果	0%	

■教科書

なし

■参考文献

本田光子・森田　稔　『博物館資料保存論』、青木　豊　編　『人文系博物館資料保存論』

■オフィスアワー・研究室

土曜日（講義時間　14:55～16:05）第３校舎講師控え室（第３校舎１階）

■備考

なし